

田部 八畫以上

當時 タリキ 其時。此頃。現在の時。そのかみ。ただいま。

當金 タリキ 即座に料金の授受を爲すと。又當銀といふ。

當理 タリキ 道理にあたること。

當度 タリキ このたび。こんど。

當夜 タリキ その夜。今夜。

當座 タリキ 其席。その場。一時的なること。其場限り。當座預の略。

當役 タリキ 當番の役。この役。其當處 タリキ このところ。當場所。

當番 タリキ 務め番に當ること。

當惑 タリキ まどひよわること。させまりて迷惑すること。

當歲 タリキ 生れたる其年。

當國 タリキ この國。吾が國。

當偶 タリキ めあはせると。連れそばせると。

當票 タリキ 選に當ると。選まる當然 タリキ かくあるべきこと。あたりまへ。①の義務。

田部 八畫以上

當期 タリキ 又當季に作る。現在の時期。其時期。定期取引所にて當月限受渡しの期。

當該 タリキ 其れにあたること。そのかかり。①て内科の稱。

當道 タリキ わが學ぶ道。醫科に當節 タリキ 此頃。今頃。このせつ

當腹 タリキ 當主の正室の腹に生れたること。ほんさいばら。「ふ。

當塵 タリキ この店。又當舖とい

當選 タリキ えらびに當ること。選ばれること。①代議士にす。

當頭 タリキ 寺院の現住職。

當籤 タリキ くじに當ること。

當墟 タリキ 酒屋の店の番をすること。ゐざかや。

當選人 タリキ 當選したる人。

當世風 タリキ 今の世のはやり。今の世のならばし。

當世顔 タリキ 其の時代の多數の人の好む顔つき。

當局者 タリキ その事に當り

田部 八畫以上

て擔任せる人。その事に關係せる人。又當路者といふ。

當事國 タリキ 直接に其事件に關係せる國。

當事者 タリキ 權利義務の主體となる人。直接に其事に關係せる人。

當座貸 タリキ 期限を定めずに分の間貸しつること。

當座預 タリキ 期限をきめず暫時の間預け置くこと。

當座帳 タリキ 商家にて當座の賣買取引を記し置く帳。

當用日記 タリキ 當りたることを書きつくる日記。

當意即妙 タリキ その場に臨みて即座に氣をきかすと。きてんなきかすと。

當座組合 タリキ 共通の計算を以て一時の商取引を爲す組合。

當座預金 タリキ 期限を定め

田部 八畫以上

予何時にても 預主の請求に應じて支拂ふ預金。

當座借越 タリキ 當座預けの金額を越して引出すこと。

當來道師 タリキ (佛) 觀世音をいふ。

當選證書 タリキ 當選人たることを證明する爲に選舉管理署より交付する證書。

當選訴訟 タリキ (法) 衆議院議員の選舉にて自己の當選人たることを適法なりと信ずる不當選者が該當選に就て異議あるとき當選人を相手取りて控訴院に訴ふること。

畸 キ わりのこり。わりのこりの田。こわけ。あやし。

畸人 キシ 奇人。かたはの人。

畸形 キイ 身體の不完全なる形狀。なみと異りたる形。

畸形兒 キイ 異狀の體軀を爲

田部 八畫以上

嗚 ミ 小兒。チヤウ。とほし。ながし。やせ田。キ。ゲ。さかひ。かぎり。はて。もんのうち。しきみ。みやこ。みやこちか。

畿内 キイ 王城近くの地。

畿境 キイ 國の境。都の境。

畿甸 キイ 天子直隸の地。

疆 キヤウ カウ。さかひ。かぎり。しきり。きは。はて。ただす。かたし。

疆域 キヤウ 國境。さかひ。又疆界といふ。

疆畝 キヤウ 田のさかひのみぞ。チユ。ヂユ。た。は。た。は。たけ。さかひ。かぎり。うね。たれ。たぐひ。つちかふ。ひとし。おほふ。むかし。

疇昔 チウ きのふ。昨日。むかし

疋部

疋 シヨ ソ。ヒツ。ヒキ。あし。しるす。ただし。なほし。古文の疋の字。てうもくの高を示すに用ひて、二十五文(今の二十五錢)を百疋とす。布帛の長さを示すに用ひて二反を一疋とす。

疎 ソ おろそか。さほろ。とほす。まばら。すく。うとし。うさんず。あらし。

疎遠 ソエン 音信の遠ざかりたること。

疋夕 チウ ゆうべ。昨晚。チフ。ヂフ。つもる。かまなる。たたまる。おそる。たたみ。もの。

疊 テイ 山の積み重りたる疊嶂 テイ かさなりたる浪。容疊碧 テイ あをくとしたる形

疋部

病人 ビョウジン やまひにかゝりたる病人の名。「病人の間。病氣のうち。」
 病名 ビョウメイ 病氣の名。「病人の間。病氣のうち。」
 病中 ビョウチュウ 病氣にかゝりて居る間。病氣のうち。
 病質 ビョウシツ 病氣の性質。やまひのたち。又病症といふ。
 病後 ビョウゴ 病のなほりたるあと。病室 ビョウシツ 病人の居る室。
 病身 ビョウシン 病のからだ。病氣がちのからだ。「又病没といふ。」
 病死 ビョウシ 病氣の爲に死せると病苦 ビョウク 病の苦み。
 病衰 ビョウスイ 病みおそろへると。病難 ビョウナン 病のさいなん。病氣にかかると。
 病家 ビョウカ 病人のある家。
 病因 ビョウイン 病氣の原因。
 病魔 ビョウマ 病氣を一の靈物として、ふ語。①に襲はる。
 病故 ビョウコ 病氣の爲に死する。と。病氣といふ事故。
 病毒 ビョウドク 病氣の害毒。

病勢 ビョウセイ 病のなりゆき。病の病痾 ビョウカ 長き病氣。「容體。病菌 ビョウキン 病因となる微菌。病者 ビョウシャ 病氣にかゝれるもの。又病人といふ。「る局部。病所 ビョウショ 病人の居る所。病め病患 ビョウワン やまひ。わづらひ。又病氣 ビョウキ やまひ。わづらひ。又病疾 ビョウシツ といふ。「又病中といふ。病間 ビョウカン 病氣にかゝれる間。病癢 ビョウヤク 病氣のために役にた、ぬからだとなりたる。又病眼 ビョウガン はやりめ。病體 ビョウタイ やまひのからだ。又病軀 ビョウキ といふ。
 病牀 ビョウシヤウ 病人のれど、こ。やまひのと。又病聲 ビョウセイ といふ。
 病弱 ビョウジヤク やんでよわきと。
 病根 ビョウコン 病氣の原因。やみつきのもと。又病源 ビョウゲン ともいふ。
 病羸 ビョウレイ 病みつかれて弱きと。

病院 ビョウイン 病人を療治する爲に設けたる醫院。
 病態 ビョウタイ 病氣の様子。又病状といふ。「る爲めの船。病院船 ビョウインセン 患者を運送す。病理學 ビョウリガク 病理に就きて研究する醫學。
 病牀日誌 ビョウシツニシ 病人の日々の経過を記したるもの。
 シツ。やまひ。やむ。やまし。くるしむ。しへたく。なやます。やます。にくむ。ばやし。とし。りきむ。
 疾病 シヤク 病氣。やまひ。
 疾速 シヤク はやきと。すみやか。
 疾足 シヤク あしはや。「ふと。
 疾患 シヤクワン なんぎ。やみわづら
 疾行 シヤクカウ はやく行く。
 疾首 シヤクシュ かうべをいたむる。心配する。と。「吉なる日。疾日 シヤクニチ 子と卯との兩日。不疾怨 シヤクオン にくみうらむと。

疾走 シヤウソウ いそぎ走ると。
 疾風 シヤウフウ はやく吹く風。(地)樹木の小枝を動かす程の風。
 疾驅 シヤク 疾くかけると。①敵壘に逼る。
 疾視 シヤクシ にくみ視ると。にらむ。と。又嫉視に作る。②反目。
 疾苦 シヤクク 苦み。なんぎ。「ひ。疾疫 シヤクエキ 流行病。はやりやま疾雷 シヤクライ 急に鳴る雷。はげしき雷。①耳を掩ふに遠あらず。疾言 シヤクゴン 遠あらず。②口ばやにものをいひあわてたる顔色をする。と。
 疽 シヨウソ かゆきやまひ。はれもの。かさ。シン。かさほろし。はしか。やまし。トウ。ツ。
 疹 シヤク いたむ。いたみ。疹痛 シヤクツウ うづきていたむと。刺す如くいたむと。

症 シヨウ 病のたち。
 症候 シヨウコウ 病氣のきざし。シ。セイ。やまひ。かけ。あやまち。つみ。きす。そこなふ。きすつく。にらむ。
 疵 シカ 缺點。疵瑕 シカキヤ 缺點。疵痕 シカケン きのすのつきたるあと。タン。たん。わう。だん。胃より起る一種の病。カ。ア。やむ。おびえ。やまひ。カ。ケ。かさぶた。カン。コン。小兒の食。あたりより起る一種の病。疥癩 シヤク 疥の氣が強くして瘦せ衰ふるやまひ。「病。疥瘡 シヤク カサカサ。梅毒によりて生ずるヒ。ビ。つかる。つかれ。やす。やむ。やまひ。

疲勞 ヒラウ つかれ。くたぶれ。疲瘠 ヒヤク やせつかると。疲弊 ヒヤク へりはると。疲馬 ヒヤク やせ馬。「勢一す。疲憊 ヒヤク つかれ衰ふると。①國庖瘡 ヒヤク ひとつがさ。ばれやまひ。に大豆形の瘡を生じ全瘡後其の痕跡を残す。天然痘。サ。セ。かさ。かさぶた。やまひおもし。ハウ。ボツ。やす。つかる。テイ。タイ。やむ。やまひ。
 六七畫
 痕 コン かた。痕跡 コンシキ あと。きすあき。し。あとかた。①刀傷のし。

疔部 六一七畫

痔

ヂ。しもがさ。しりのやまひ。肛門に瘡を生じて血なごを出す病。

痔漏

痔の病。肛門の周圍に腫物生じて穴のあく病。

痒

シヤウ。ヤウ。かさ。やむ。やまひ。かゆし。

疥瘡

凡てかゆきできもの井。イウ。うちきず。きず。つく。ふるふ。やむ。やまひ。

瘰

イ。きず。そ。こ。な。ひ。やぶ。る。きず。つく。

瘰

セ。ン。い。ゆ。な。ほ。る。い。や。す。な。ほ。す。

痢疾

腹の下る病。下痢する病。又痢病といふ。

疔部 六一七畫

痛

ホ。フ。やむ。つかへる。やまひ。ケイ。ギヤウ。

痙

すぢひきつる。痙攣。ケリン。筋肉のひきつる。子宮。

痙

カウ。キヨウ。やむ。やまひ。

痙

リヨウ。目の病。

痙

サ。ン。いたみ。

痛

ヒ。ビ。つかへ。

痛

トウ。ツウ。いたし。くる。しむ。いたむ。やまひ。な。やむ。

疔部 六一七畫

痛

ツラキ。いたく。惜む。痛楚。ツラキ。痛みなやむ。

痛

ツラキ。強く攻む。はげしくたたく。

痛

ツラキ。甚だ心持よき。痛快。ツラキ。いたく後悔する。

痛

ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。

痛

ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。

痛

ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。

痛

ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。強痛哭。ツラキ。いたく後悔する。

疔部 八一九畫

瘁

ス。井。ズ。井。やむ。つかる。やぶる。

痲

リン。りんびやう。しばゆばり。ぜんき。

痲毒

痲病。リンビキウ。尿道糜爛して小便に膿交り能く通ぜぬもの。又痲疾といふ。

痘

痘痕。トウシ。もがさのあこ。あば痘瘡。トウサ。ばうさう。痘苗。トウベウ。種痘の材料にするもの。

八九畫

痛論

と殘念なる。痛論。ツウロン。はげしく論ずること。

痛諫

ツウカン。手強く諫むること。

痛痒

ツウヤ。いたきとかゆきと。自己に關する利害得失。

痘痕

トウシ。もがさのあこ。あば痘瘡。トウサ。ばうさう。痘苗。トウベウ。種痘の材料にするもの。

疔部 八一九畫

痲

パ。マ。しびれる。痲痺。マヒ。しびれて感覺なくなる。痲疹。マシ。はしか。疱疹の類にして小供に多く、傳染し易し。

痲

ズ。井。井。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

疔部 八一九畫

痲

パ。マ。しびれる。痲痺。マヒ。しびれて感覺なくなる。痲疹。マシ。はしか。疱疹の類にして小供に多く、傳染し易し。

痲

ズ。井。井。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

疔部 八一九畫

痲

パ。マ。しびれる。痲痺。マヒ。しびれて感覺なくなる。痲疹。マシ。はしか。疱疹の類にして小供に多く、傳染し易し。

痲

ズ。井。井。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

痲

ア。やまひ。痲痺。マヒ。しびる。なふ。痲痺。マヒ。しびれて立ち働くこと。能はざる病。

六部

登載 トウサイ 書きのせると。掲載。
登船 トウセン 乗船すること。
登記 トウキ (法) 權利身分等を公の帳簿に記載し以て其所在を明にする手續をいふ。
登録税 トウロクゼイ 登録したる手数料として徴収する料金。
登龍門 トウリウモン 立身のかどぐち立身すること。
登記料 トウキレウ 登記の手数料。
登記法 トウキハフ 登記の手續に關する細則を規定せる法律。
登記所 トウキショ 登記に關する事務を取扱ふ役所。
登記簿 トウキボ 登記所にて取扱ひたる事件を登録する元帳。
登簿噸數 トウボトンスウ 遞信省の帳簿に登録したる船舶の噸數。
登録意匠 トウロクイヤウ 登録の手續を経たる意匠。
登録商標 トウロクシヤウ 登録の手續を経たる商標。

六部

發 ハツ ホツ。はなつ。おこる。おこす。あぐ。のぶ。うごく。あらはる。もる。いづ。みだる。ひらく。あきらか。ゆく。さる。なこなふ。つかはす。あばく。
發火 ハツカク 火の燃え出づること。鐵砲に火薬のみをつめて發射すること。
發心 ハツシン (佛) 菩提心を起して。
發令 ハツレイ 法令を出すこと。
發生 ハツセイ 生え出づること。新に出づること。できること。(動) 卵子發育して個體の動物となること。
發布 ハツブ 普く觸れ示すこと。世上に公に通知すること。憲法。
發泡 ハツバウ 一種の膏藥。自體の局部に貼りて水泡を生ぜしめて毒を取り去るもの。
發句 ハツク 連歌の初句、即ち五七五の三句より成る。俳句。
發刊 ハツカン 書籍又は新聞雜誌な

六部

ごを發行すること。
發行 ハツカク 作り出すこと。世に公にする。出版發賣すること。はやること。
發汗 ハツカン 汗の出づること。汗を言ひ出すこと。口をきくと。意見をのぶること。
發足 ハツソク 出立すること。かどで。
發兌 ハツタイ 圖書などの出版。
發狂 ハツキヤウ 狂者になること。精神の狂ふこと。氣のちがふこと。
發芽 ハツガ 芽を出すこと。めざし。
發見 ハツケン 世人の未だ知らざるものを見出すこと。砂金を一す。
發表 ハツパウ 公に表はし示すこと。
發明 ハツメイ 未だ知らざるものを案出し又は未だ爲さざるものを爲し若くは未だ製造せざるものを造る。
發育 ハツイク そだつこと。成長。「と」
發信 ハツシン 音信を發送すること。
發怒 ハツド おこり出すこと。

六部

發音 ハツオン 音を發すること。言語の音のひびき。
發病 ハツビヤウ 病の起ること。
發運 ハツウン 運のひらくこと。
發京 ハツキヤウ 京地を出發すること。
發遣 ハツケン おくりつかはすこと。
發車 ハツシャ 列車の出發すること。
發輝 ハツキ ひからすこと。かややかすこと。「又發闊といふ」
發鬱 ハツウツ うつきを散すること。
發起 ハツキキ 物事を思ひたちて起すこと。「發議すること」
發案 ハツアン 考へ出すこと。意見を發送すること。送り出すこと。
發疹 ハツシ でき物の生ずること。
發射 ハツシャ 銃砲等をうち出すこと。弓につがへて矢を射ること。
發砲 ハツパウ 大砲をうち出すこと。
發情 ハツジヤウ 情慾を起すこと。色情を起すこと。「船一表」
發着 ハツチャク 出發と到着と。瀛。
發笑 ハツサウ ふき出すこと。笑ひ出

六部

すこと。「し始むること」
發動 ハツドウ うごきだすこと。動作
發航 ハツカウ 船出すこと。「と」
發向 ハツカウ 發足して其地に向ふ
發售 ハツセウ 賣り出すこと。
發掘 ハツケツ 地中のものを掘り出
發條 ハツジョウ ぜんまい。「すこと」
發光 ハツカウ 光をはなつこと。
發聲 ハツセイ 聲を發すること。宮中の御歌合せのとき諸人の詠進せし歌をよみあぐるもの。
發露 ハツロウ 惡事又は容子などのあらはるること。
發郷 ハツキヤウ 故郷を出立すること。
發展 ハツテン のびてひろがること。さかえゆくこと。「ると」
發港 ハツカウ 出港すること。船出す
發現 ハツケン あらはれ見ゆること。實際にあらはれ出づること。
發揚 ハツヤウ あらはすこと。廣く世にあらはすこと。

六部

發散 ハツサン ちりさること。
發達 ハツタツ 成長すること。進歩すること。「又發途といふ」
發程 ハツテイ かどで。出立すること。ほげ
發揮 ハツキ あらはし示すこと。ほげましふるふこと。特長を一す。
發端 ハツタン 起り。初まり。
發意 ハツイ 思ひたつこと。考へつくこと。(心) 意志の自ら發動すること。
發語 ハツゴ いひ出しの言葉。夫れそもその如し。「かくること」
發話 ハツワ はなしを初むこと。話し
發會 ハツワイ 初めて集會を開くこと。年の始めにひらく會。
發銃 ハツジュウ 小銃をうつこと。
發煽 ハツテン ほのほを發すること。氣
發憤 ハツペン 憤りを發すること。氣をひきたつこと。
發願 ハツガン 神佛に願だてすこと。
發駕 ハツカ 天子の御出立。「め」
發賣 ハツバイ うりだし。うりひろ
發輦 ハツペン 天子の出立し給ふこと

六部

發熱 ハツチヲ 熱を發すると。體温の亢進すること。

發頭 ホトリ 事を企てたること。

發議 ハツギ 意見をひひ出すこと。動議を起すこと。議案を提出すること。

發覺 ハツカク 隠し事の現はるること。

發電機 ハツデンキ (理) 強き磁場に於てコイルを廻轉して強き電流を得る器械。

發電所 ハツデンショ 電氣を發生して電流を他に發送する所。

發電體 ハツデンタイ 電氣を發生してある體。

發電子 ハツデンシ (理) 發電機を起すコイルの稱。

發火點 ハツカクテン (化) 物體が燃えそめ入さする時の温度。

發着表 ハツチャクヘウ 流車・流船などの其地を發し又は着くことの時日を書きしるして表したるもの。

發光體 ハツクワタイ 自ら光を放つ

六部

物體。發光してある物體。

發言權 ハツゲンケン 發言する權利。

發頭人 ホトリウジン 事を企てたる初めの人。

發起人 ホツシジン 事業を企て起す人。物事を始むる人。

發聲器 ハツセイキ (動) 聲帶・口腔などの如く聲を發する器官。

發信人 ハツシンニン 信書を出す人。

發信機 ハツシンキ 電信機の音信を發送する器械。

發動機 ハツドウキ 他の器械の運轉を起す器械。

發行者 ハツカクヤ 發行の責任者。

發行所 ハツカクショ 發行する所。

發汗劑 ハツカンザイ 風邪に冒されしとき發汗して療治する藥劑。

發信主義 ハツシンシユギ (法) 隔地者間の契約承諾又は一般の意思表示の効力に其承諾書又は意思表示の送致をなしたる時に生ずと爲す主義。

白部

發行餘力 ハツカクヨリヨク 日本銀行は一定の額に達するまでは公債證書等を備へ置き正貨準備なしに紙幣發行の權あるものなり故に其定額に達せざる以前を發行餘力ありといふ。

發火演習 ハツカクエンシユ 銃砲に火薬のみをこめてうつ演習。

白部

ハク。ビヤク。しろ。しろし。あきらか。きよし。いさぎよし。さかづき。しろかれ。しろこめ。まうす。裝束を着けざること。未だ熟練せざること。官祿なきこと。

白人 ハクジン 皮膚の色白き人種。歐米人。しろうさ。遊女の稱。

白丁 ハクテイ 匹夫。平民。

白刃 ハクジン ぬきみ。しらは。又白

白部

兵といふ。①を閃かす。

白日 ハクジツ 眞晝。日中。晴天の日。

白文 ハクブン 訓點のなき漢文。白字。

白手 ハクテ かわいらしきなどなうけざりなきこと。いふ語。

白紙 ハクシ しろかみ。唐紙の一種。色白く薄くして脆し。「半月。白月」

白月 ハクゲツ 月の上十五日間。上白砒

白砒 ハクヒ (化) 無水亞砒酸の稱。

白銀 ハクギン しろがね。さん。昔銀を三寸許の平たき楕圓形となして紙に包みたるもの。

白布 ハクフ 白色の布。さらし布。

白字 ハクジ 字を凹みてはりたる印形。白粉にて書ける文字。

白臣 ハクシン 匹夫野人にして官に任ぜられたるもの。

白衣 ハクイ 白色の衣服。木綿の衣服。無位無官の人。平民。いやしきもの。

白部

白金 ハクキン (化) 金属元素の一、黄金よりも重く且つ堅く銀白色を帯ぶ。ぶらちな。「ち。白打」

白打 ハクダ やはら。柔術。くみう

白雨 ハクウ 夕立の雨。驟雨。

白狀 ハクジヤウ 詳しく事實の顛末を白白すること。口供。

白波 ハクハ しろなみ。白くあわだつ波。遊人の異稱。

白狐 ハクコ 白色のきつね。

白骨 ハクコウ 雨露に曝されたる骨。さればね。

白前 ハクゼン 白はぎ。

白面 ハクメン 色の白き顔。すがほ。年若く經驗なき人。

白堊 ハクタク 白色の土。しろかべ。(化) 炭酸カルシウムの粉末を固めたるもの。

白米 ハクマイ 搗きてしらげた米

白熊 ハククマ 支那より舶來する聲牛の尾、細くして白く拂子又は旗。槍の飾りなどに作る。

白部

白藍 ハクラン (化) 青藍をアルカリ性還元劑にて處理して得る無色の溶液。「捐。

白施 ハクシ 報ひを求めぬ施し。義者の家。米國大統領の官舎。

白眉 ハクメイ すぐれもの。秀逸。なにか又は同種のうちにて傑出せるもの。いふ語。

白砂 ハクサ 白色の砂。①青松。

白扇 ハクセン 白色の扇子。地紙の白くして何物も書きてなき扇。

白首 ハクシュ しろがあたま。「がくび。①倒懸東海天。「がくび。

白帶 ハクタイ こしけ。しらち。

白徒 ハクト おろかもの。よく教育されてあらぬもの。未熟なる者

白烟 ハクエン 白色のけむり。

白粉 ハクコ しろい。白色の粉。

白描 ハクベウ すみがき。

白眼 ハクガン ちらみたる目付き。冷遇する目つき。

白部

白晝 ハクヂウ ひるま。日中。
 白哲 ハクセキ 皮膚の色白きこと。
 白馬 ハクバ しろうま。あをうま。
 白絲 ハクシ しろき絲。染めざる絲。
 白壁 ハクベキ 外邊圓くして中心に孔ある白色のたま。轉じて貴重すべきものにいふ語。
 白鬼 ハクキ しらくび。淫賣婦。
 白雲 ハクウン しらくも。むらくも。
 白道 ハクダウ 明なる道。(天) 太陽の軌道。
 白睛 ハクセイ 眼のしろめ。
 白斑 ハクハン しろみがちのぶち。
 白痢 ハクリ 腹の下る病氣。痢病のおもりにて白きもの下る病。
 白鳥 ハクニワ (動) 潜水類に屬する鳥。形雁に似て大きく全身白色にて頸長し。白き陶製の徳利。
 白湯 ハクタウ 交りものなき湯。通常の湯。しらゆ。 「る猿。」
 白猿 ハクエン 年老て毛色白くなれハクハン 肴をそへぬ飯。きめ

白部

白痴 ハクチ 大馬鹿もの。たはげもし。
 白蓮 ハクレン 白き花を開く蓮。
 白銅 ハクドウ につけると銅・亜鉛との合金。 「話。」
 白話 ハクワ みのなき話。つまらぬ旗。今は軍事上降参を表する旗。敵艦上に一を掲ぐ。
 白緑 ハクキョク ろくしやう色の稍白色を帯びたるもの。
 白熱 ハクネツ 高度の熱の白き光りを放つないふ。白熱燈の略。
 白駒 ハクコ 毛の白き駒。つきひ。又月日の過ぐるの匆々なるを譬ふる語。 「の隙を過ぐるが白髪」
 白頭 ハクダウ しらがあたま。年より。 「如し。」
 白墨 ハクボク 白聖製の白すみ。
 白壁 ハクベキ 外邊圓くして中心に孔ある白色のたま。轉じて貴重

白部

すべきものにいふ語。
 白壁 ハクベキ 白ぬりのかべ。をかべ。 「體々。」
 白檀 ハクタン (植) 唐木の一種。熱帯地方に産し香料又は薬用に供す。
 白簡 ハクカン 彈劾の文を寫して天子に奏聞するをいふ。
 白礬 ハクラン 燒き明礬。
 白露 ハクロ つゆの玉。しらつゆ。二十四氣の一、九月七日頃に當る。 「だ。なりんぼう。」
 白癩 ハクライ しらはだ。なまづは白髪 ハクシユ 白きくちひげ。
 白人種 ハクジンシュ 白哲人種に同じ
 白屈菜 ハクキツサイ (植) 罌粟科に屬する草。葉は羽状複葉にして小葉は缺裂し撒形花序に排列する四瓣の花を有する有毒植物なり。
 白葉鐵 ハクエツテツ ぶりき。
 白血球 ハクケツクウ 血液中含有せ

白部

る無色の血球。 「く所。」
 白玉樓 ハクギョウロウ 死人のおもむ
 白内障 ハクナイシャウ 眼病の一種。外見異なる所なきもひとみ動かす。物見えぬ眼病。そこひ。
 白熱燈 ハクネツドウ (理) 電燈の一、内部の空氣を排除したるガラス球中に細き炭素線を入れたる装置のもの。炭素線に電流を通ずるときははげしく熱せられて白光を放つ。
 白雲石 ハクウンセキ (礦) 炭酸石灰と苦土との化合物。 「母。」
 白雲母 ハクウンボ (礦) 白色なる雲
 白銅貨 ハクドウカ 白銅にて鑄造したる五錢の補助貨幣。 「タ」
 白兵戦 ハクヘイセン 敵味方互に白刃を揮ひて格闘する戦。
 白木蓮 ハクモクレン (植) 木蘭科に屬する木。花落ちて後倒卵形の葉を生じ花は九個の花蓋より成り香氣高し。

白部

白哲人 ハクセキジン 歐羅巴人及北米合衆國人の皮膚の白き人。かうかしやん人。又白色人といふ。
 白雪糕 ハクセウカウ 菓子的一種。蓮の實を加へたる白色の落雁。
 白帶下 ハクタイゲ しらぢ。
 白榴石 ハクリウシキ (礦) 白色の硅酸鹽物。正立方形の結晶を爲す
 白頭鳥 ハクダウニワ (動) ひよどり。
 白頭翁 ハクダウウ 白髮の老人。(動) むくどりの異名。
 白頭媪 ハクダウオウ 白髮の老媪。
 白面郎 ハクメンラウ 年若き者。青二才。經驗乏しきもの。
 白馬陣 ハクバジン 白馬の節會の時馬寮の官人の並びあはる所。
 白馬節會 ハクバノセウ 古陰曆正月七日に行ひし節會。左右の馬寮より二十一頭の白馬を庭中にひきいだすを天皇御覽じ又庶民にも見せ給ふ。
 白駒過隙 ハクコケカスガ 光陰のた

白部

ちまちに經過するにいふ。
 白頭如新 ハクダウニカクシン 交友の間において互に其心を知り合はざれば白髮の生ずる年まで交遊すも始めて逢へるが如く疎遠なるをいふ。 「り。」
 白衣出身 ハクイシュツシン なりあが
 白衣宰相 ハクイサイサイ 官位なくして太政の顧問に備はるもの稱。 「點を施すと。」
 白文訓點 ハクブンクンテン 白文に訓
 白水真人 ハクスイジン 貨幣の異名。支那の古錢泉貨といへる字を二分したる字、即ち泉を上下に分ちて白水となし貨を左右に分ちて真人となすより起る。
 白壁微瑕 ハクベキミカ 大體は美にして完全に近きも僅かに一箇所の不可なる所あるをいふ。

百

百丈 ヒヤクチャウ 船をひくつな。
 百千 ヒヤクセン いろ／＼。さま／＼。
 百工 ヒヤクコウ もろ／＼の工人。
 百科 ヒヤクカ いろ／＼の科目。
 百端 ヒヤクタン いろ／＼のいとぐち。
 百物 ヒヤクモノ 色色の物。さま／＼。
 百蠻 ヒヤクマン もろ／＼のえびす。
 百足 ヒヤクソク 鉢細長く脚十對あり人之に嘯まるれば激痛を催す。
 百般 ヒヤクパン さま／＼の事。
 百計 ヒヤクケイ あらゆる工夫。凡てのばかりこと。今や一盡く。
 百姓 ヒヤクシヤウ 天下一般の民。農
 百世 ヒヤクサイ あまたの世。「民。
 百慮 ヒヤクリヨ ちぢに思ふ。種々の考へ。「百官さいふ。
 百僚 ヒヤクリョウ もろ／＼の役人。又

百出 ヒヤクシュツ 種々様々に現はれ
 百合 ヒヤクガフ 山野に自生し又栽培せられ、笹に似たる葉と鐘状の花とを有し美麗なり。かされの色目、表赤く裏の朽葉なるも百辟 ヒヤクヘキ 天子諸侯の稱。「の。百歩 ヒヤクポ 百あし、六尺又は六尺四寸の長さないふ。
 百倍 ヒヤクバイ 凡てある數に百を乗じたる積。増し加はるる。勇氣一す。
 百鬼 ヒヤクキ 種々のばけもの。「競ふ。一夜行。
 百花 ヒヤクカ 種々の花。「妍を
 百口 ヒヤクコウ 妻子家族をいふ。
 百家 ヒヤクカ 百人又は多數の作者又は學者。「諸士一の書。
 百穀 ヒヤクコク いろ／＼の穀物。
 百行 ヒヤクコウ ありとあらゆる行ひ。いろ／＼の行動。
 百草 ヒヤクソウ いろ／＼の草。

百考 ヒヤクカウ いろ／＼に考ふる
 百事 ヒヤクジ さま／＼のこと。「こと。
 百方 ヒヤクハウ 種々様々の工夫。諸々の手段。「力を盡す。
 百態 ヒヤクタイ 色々のなりふり。
 百萬塔 ヒヤクマンタウ 奈良朝の頃朝廷より諸國の佛寺に納めたまひしもの。「て修する佛事。
 百萬遍 ヒヤクマンベン 京都智恩寺に
 百物語 ヒヤクモノガタリ 夜間數人相集まりて種々の怪談を爲すこと。
 百一物 ヒヤクイチモノ 僧家の什具の總稱。
 百本漬 ヒヤクポンヅケ 乾したる大根百本を糠一斗麴四升鹽三升半の割合にて漬けたるもの。
 百藥長 ヒヤクヤクナチヤウ 酒の異名。
 百日咳 ヒヤクニチセキ 小兒に發生する咳、傳染し易し。「りの一名
 百日紅 ヒヤクジツコウ (植) さるすべ
 百夫長 ヒヤクフナチヤウ 人夫百人の頭
 百花王 ヒヤクカクワウ 支那にて牡

丹を稱していふ語。
 百谷王 ヒヤクコクノワウ 海の異稱。
 百個日 ヒヤクカニチ 人の死後百日目
 百姓讀 ヒヤクシヤウヨミ 漢字を旁によりてあて讀みにすること。
 百孔千創 ヒヤクコウセンソウ 缺點の多きことにいふ語。
 百色目鏡 ヒヤクシロメガネ 二鏡の間に色ガラスの數片を置きたる玩具。
 百鬼夜行 ヒヤクキヤカウ いろ／＼あやしき形體のもの、行動にいふ語。
 百發百中 ヒヤクハツヒヤクチュウ もつた
 中する。我砲彈は一せり。
 百折千磨 ヒヤクセツセンマ ももたび
 失敗するも之に屈せず却つて心なれると。
 百尺竿頭 ヒヤクシヤクカントウ 或る限度まで達したる。のぼりつめたるとある極に至りたる。①

一更に一步を進む。
 百世之師 ヒヤクサイノシ 百世の後までも人の師表となりて景慕せらるる、程の徳高き人。
 百伶千俐 ヒヤクレイセリ 一寸の拔目もなく何事にもよく行届くこと。「語。①陸下一の後。
 百歳之後 ヒヤクサイノチ 死後の敬
 百戰百勝 ヒヤクセンヒヤクシヤウ もつた
 び戦つて皆勝つこと。敗戦なきこと
 百金之士 ヒヤクキンノシ 能く敵を破り將を擒にするの士。
 百味箆筒 ヒヤクミツバシ 漢方醫の藥品を貯ふる箆筒、小引出の多くつきたるもの。
 百八煩惱 ヒヤクハチボウナウ (佛) 百八種の煩惱、即ち眼・耳・鼻等の六根、色聲等の六塵に對して好・戀・卒の不同あるより十八種の煩惱を生じ更に樂受・苦受・不樂受不苦受によりて十八種の煩惱を生じ合せて三十六種と

なる、而して之が過去・現在・未來の三世にわたりて生ずるより都合百八種となる。
 百味飲食 ヒヤクミチシヤウ 多種の好味を含有する醬水穀飯をいふ。
 百祿是荷 ヒヤクロクシヤウ 天の惠を受くると。天より多くさいはひを受くると。
 皂 サウ しもべ。こもの。うまたて。をり。かひをけ。うまや。くろし。くろぎぬ。どんぐり。とちのみ。
 皂隸 サウレイ しもべ。賤人。
 皂黑 サウカク 黒色。
 皂白 サウハク 黒と白と。
 皂衣 サウイ 黒色の衣服。
 皂裙 サウキン つげめの異名。
 皂 サウ 皂の俗字。
 皂 サウ ヒフ。キフ。
 皂 サウ かうばし。穀の一粒。

【的】

テキ。チヤク。あきらか。ただし。まさ。めあて。かなめ。まことに。まさ。に。はすのみ。

的中 テキユウ 狙ひごほりにあたる。思ふつばにあたる。

的然 テキゼン 明かなる貌にいふ語。ほしの證據。①蔽ふべからず

的確 テキタク ただしき。たしかなる。又的實といふ。

的殺 テキシヤク 陰陽家にて其年の惡しき星の方角の稱。「まる例。

的例 テキレイ べき例。よくあてはるべき。あざやか。あきらか。

皆式 カイシキ みな。のこらず。皆掛 カイケ 貨物と風袋とを共に秤にかくると。

【皆】

御勤 カイシン 定休日以外一日もかかさず出勤すること。「と。

皆伐 カイバツ 全林を伐採しつくす。皆納 カイナウ 年貢などをのこらず上納すること。「ると。

皆傳 カイデン 奥義を悉く教へ傳ふ。皆無 カイム 凡てなにもなきこと。のこらず。全く。又皆目といふ。

皆濟 カイサイ 全く返へし終ること。餘すところなくすまはたすこと。「たる」と。

皆具 カイグ 鏡・兜などの一切揃ひ。皆朱 カシユ 朱又は辰砂を交せて赤色に塗る漆のゆりかた。

皆既蝕 カイキシヤク (天)太陽が太陽に全く蔽はれたる日蝕。

皆兵制度 カイヘイシド 國民皆兵役に就くの義務ありとなす制度。カワウ。ワウ。あめ。かみきみ。君主。天子。おほいなり。うつくし。おこそか。きらきら。はな。ひか

【皇】

皇祖考 クワウカウ 崩したる祖父を祭るときに稱する語。

皇祖妣 クワウヒ 崩したる祖母を祭るときに稱する語。

皇祖母 クワウボ 天皇の御祖母。

皇靈祭 クワウレイサイ 代々の天皇の御たまを祭る日。春秋の二度彼岸の中日の日に行ふ。

皇統譜 クワウトウフ 皇統の順序を記したる譜。皇室の御系圖。

皇后宮 クワウコウクウ 皇后のおほしき宮。又皇后を申し奉る語。

皇室費 クワウシヤヒ 天皇の御一家の入費。皇室の入費。

皇太后宮 クワウタイコウクウ 皇太后のおほしき宮。

皇宮警察 クワウキョウサツ 宮殿又は離宮に關する警察。

皇后宮職 クワウコウクウシキ 宮中及内廷に關する凡ての事務をつかさどる役所。

皇室財産 クワウシヤイサン 皇室の御

る。ひろし。すめらぎ。皇上 クワウシヤウ かみ。天皇。皇子 クワウジ 天皇の生ませたまふ男子。「くと。天皇の御政治

皇化 クワウカワ 天皇の御恩になび。皇考 クワウカウ 先代の天子を申す。

皇天 クワウテン 天の神。上帝。

皇后 クワウコウ 天子の御配偶。おきさき。「る官女。きさき。

皇妃 クワウヒ 天子の御側に奉仕す皇位 クワウイ 天子の御位。又皇祚といふ。

皇妣 クワウヒ 崩御ましませし皇太后 クワウタイコウ 天皇のおほしき所又皇宮・皇城といふ。「祖。

皇宗 クワウソウ 天皇の代々の御先皇典 クワウテン 皇國の書物。みくにぶみ。「の血統。

皇胤 クワウイン 天子の御たれ。天子皇威 クワウイ 天子の御威光。

皇室 クワウシヤウ 天皇陛下を中心としたる皇家全體。時に天皇陛下

の御直系のみを他の皇族と區別して皇室と稱することあり。皇謨 クワウモ 天子の國家をしるしめすばかりこと。

皇皇 クワウクワウ 美なるさま。盛なるさま。明かなるさま。あはてるさま。速かなるさま。さまよふさまなどにいふ語。

皇恩 クワウオン 天子の御恩澤。④四民一に浴す。「族の稱。

皇別 クワウベツ 皇族よりいでし氏皇祖 クワウソ 天子の御先祖。

皇帝 クワウテイ みかど。天皇。皇孫 クワウソン 天皇の御孫。

皇族 クワウソク 天子の御一族。皇室 クワウシヤウ 天子の御家す。帝室。「めす事業又は基礎。

皇基 クワウキ 天皇の國家をしるし皇國 クワウコク 天子の統治せらるる本國。我が國の尊稱。みくに。皇陵 クワウリョウ 歴代天皇の墳墓として天皇陛下を始め皇族以下

御崇拜あらせらるる場所。みさき。皇靈 クワウレイ 代々の天皇のみた皇統 クワウトウ 天子の御系統。天皇の御ちすぢ。④一連綿。

皇極 クワウキョク 天子の御位。天子のにぎりたまふ國家の綱紀。皇業 クワウゴウ 天皇の天下を經營し給ふ御わざ。

皇朝 クワウテウ 我が國の朝廷。皇嗣 クワウジ 天子の御跡つぎ。あまつひつぎ。又皇繼といふ。

皇德 クワウタク 天子の御徳。皇儲 クワウコ 天皇の御よつぎ。

皇太后 クワウタイコウ 先帝の皇后。皇太子 クワウタイシ 天皇の御位を繼ぎ給ふべき皇子。ひつぎのみこ。

皇太弟 クワウタイテイ 皇太子のおほせぬ時天皇の御弟にして皇位をつぎたまふべき御方。太弟。皇太孫 クワウタイソン 皇位を繼承したまふ御方と定まりたる皇孫。

白部 三一四畫

所有に屬する財産。

皇室典範 クワウシツテンパン 皇位の繼承その他皇室に關する事を記せる成典。

皇族會議 クワウクワイクイ 成年以上の皇族の男子を以て組織せらるゝ議決機關。

皇后宮太夫 クワウコウグワウタイフ 皇后宮職の長官、職務を總理し職員を監督す。

皇太后宮職 クワウタイコウグワウシキ 皇太后宮に關する事務を司り主管の會計を掌る所。

皇太后宮太夫 クワウタイコウグワウタイフ 皇太后宮職の長、職務を總理し職員を監督す。

皛 キ 歸に同じ。

皛 キ 歸に同じ。

皛 キ 歸に同じ。

白部 六一十畫

皛 カウ とらのかば。

皛 カウ 太鼓をうつ木。

皛 カウ 浅白なる色。

皛 カウ 浅白なる色。

皎 カウ 月明かにしてくもりなきさまにいふ語。

皎 カウ 色白くうるはしきと。

皎 カウ 美少年。「れねと」。

皎 カウ 美少年。「れねと」。

皛 カウ 凡て高き門。外郭の門。

白部 六一十畫

皛 カウ ばんぎの類、打ちたたきて響の立つもの。

皛 カウ 澤に生ずる蘭草。

皛 カウ 陰曆二月の異稱。きさらぎ。

皓 カウ ひかり。しろし。

皓 カウ 白きと。

皓 カウ 雲などの積りて白きさまにいふ語。又皓然といふ。

皓 カウ 白き齒の形容。

皙 カウ 白髪の頭。

皙 カウ 白髪の頭。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皮部

皛 カウ。ゴウ。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皛 カウ。ゴウ。ひろし。しろし。あきらか。

皮部

白部 六一十畫

皛 カウ とらのかば。

皛 カウ 太鼓をうつ木。

皛 カウ 浅白なる色。

皛 カウ 浅白なる色。

皎 カウ 月明かにしてくもりなきさまにいふ語。

皎 カウ 色白くうるはしきと。

皎 カウ 美少年。「れねと」。

皎 カウ 美少年。「れねと」。

皛 カウ 凡て高き門。外郭の門。

白部 六一十畫

皛 カウ ばんぎの類、打ちたたきて響の立つもの。

皛 カウ 澤に生ずる蘭草。

皛 カウ 陰曆二月の異稱。きさらぎ。

皓 カウ ひかり。しろし。

皓 カウ 白きと。

皓 カウ 雲などの積りて白きさまにいふ語。又皓然といふ。

皓 カウ 白き齒の形容。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

皙 カウ 白髪(化) 硫酸亞鉛の稱。

又盆景といふ。「月三十二月。盆暮」ボクレ 盆の頃と年末と。七盆踊」ボクドリ 盆に男女打群れてなすなごり。「魚の異名。盆魚」ボクゴ 鉢にかひたる魚。金盆畫」ボクグ 盆石の類、盆の上に砂石を以て山水の景色などを描きたる畫。

盆山」ボクサン 盆石の築山。
盆供養」ボクキヤウ 盆の時行ふ供養
盆燈籠」ボクドウロ 盂蘭盆に精霊に供養すとしてこもす燈籠。
「盃」ハイ 杯の俗字。
盃盤」ハイバン さかづきと皿鉢等と酒宴の道具。
盃事」ハイジ 悦事。いはひごと。
盃洗」ハイセン 杯を洗ふ爲に水を盛る器。
盃誓」ハイセキ 杯を取替して契を結
盃中蛇影」ハイチュウヘイ 自ら猜忌を起すこと。

「盈」エイ ヤウ。いる。みつ。あまる。あふる。
盈進」エイシン 順序をふみて進むこと。
盈滿」エイマン 十分に満ちたること。「語。盈實」エイジツ 満ちたるさまにいふ語。
盈乎」エイコ 満てるさまにいふ語。
盈充」エイチウ 満つること。「ると。盈辰」エイシン 月のみつるさか。
盈溢」エイイキ みるみるあふれること。
盈虧」エイキ(天) 天體の光が其位置によりて増減すること。
盈科」エイカ 穴にみつること。
「盍」アウ。はち。あふる。ほとぎ。さかんなり。カフ。カツ。なんぞ。ざる。あふ。
盍筴」アウカツ 朋友相會合すること。
「盃」ワン。わん。はち。さら。

「益」エキ ヤク。ます。爲にならんとすむ。おほし。みつ。
益友」エキユウ 交りて益となる友。
益蟲」エキチュウ 人生に利益を興へ植物などの害蟲を驅除する効能ある蟲。
益鳥」エキヤウ 肉・卵は食用に供せられ羽毛は用具に養は肥料とせらるゝ等の鳥類。
益荒男」マヌラ 男子の敬稱。
「蓋」ガイ 蓋の俗字。
「盒」カフ。さらのふた。おほふ。うつはもの。「物。盒子」カフバコ おほふための器。
「盜」タウ。ドウ。ぬすびと。ぬすむ。のがる。
盜賊」タウタク ぬす人。ざるぼつ。
盜心」タウシン 盜み心。盜まんとなす。
盜汗」タウカン ぬせぬせ。「る心。盜用」タウヨウ ぬすみて使用すること。

盜伐」タウバツ 他人の所有に屬する竹木をひそかに伐り取ること。
盜竊」タウセツ ぬすむこと。ぬすみ。
盜情」タウセイ 物をぬすまんとす。
盜取」タウク 盜み取ること。「る心。
盜視」タウシ ぬすみ視ること。見ぬふりをして見ること。「ると。
盜難」タウナン 金品財物の盜まれたた。
盜鳴鶏」タウメイキ ぬふなきどり。クワイ。
「盃」はち。
「盛」セイ ジャウ。もる。なる。いれる。うくる。さがる。さかんなり。よし。おほし。ながし。おほいなり。
盛大」セイダイ 甚ださかんなること。
盛典」セイテン 盛大なる儀式。又盛儀・盛式といふ。「なること。
盛榮」セイエイ さかゆると。さかん。
盛衰」セイサイ 盛なると衰ふること。
盛夏」セイカ 夏のさかり。曇きさか。
盛宴」セイエン 盛大なる宴會。「り。

盛會」セイカイ 盛大なる集會。
盛筵」セイゼン 盛んなる宴會。●歡迎の—。
盛觀」セイケン リつばなる見え。
盛運」セイウン さかゆる運命。
盛裝」セイサウ 立派によそほひかざること。「ゆるもの。
盛者」セイシャ 盛んなるもの。さか。
盛年」セイネン わかさかり。「眼。
盛服」セイフク 立派なるよそほひの冬服。
盛冬」セイトウ 冬のさかり。
盛徳」セイタク 廣大なる徳。
盛饌」セイゼン 美をつくしたる饗應。ホ。フ。
「盥」ホ。フ。盥を盛る器。
「盟」メイ。ベイ。まこと。ちかふ。ちかひ。あきらか。
盟友」メイユウ 親しき友。「束。盟約」メイヤク ちかふこと。ちかひ。約。
盟信」メイシン 約束。ちかふこと。

盟主」メイシュ 聯合者の長。同盟の頭。
盟兄弟」メイケイテイ 交義を結べる兄弟。サン。セン。さかづき。こさかづき。カイ。
「蓋」カン。ケン。かんがみる。すぶる。みる。つかさ。かぬる。しらぶる。星の名。監禁」カンキン 身體の自由を束縛して幽閉すること。「の監督。
監軍」カングン いくさめつけ。軍隊を收容して法律により刑罰權の執行を爲す所。監獄署の略。
監視」カンシ 見張りすること。(法)主刑の終りたる後其刑罰を科したる目的を達するが爲に自由を制限し謹慎を表せしむる處分。
監製」カンセイ 監督して製造せさす。

目部 三畫

目的 モクテキ ちあて。あてど。めざすところ。①學問の。②學問の。③學問の。

目耕 モクケン 讀書をいふ。

目算 モクサン 目分量。みつもり。

目次 モクジ 見やすきために題目のみをかきたる見出し。順序。

目成 モクセイ 目くばせにて意中を通ずること。

目錄 モクロク 書中の題目を集め記したるもの。進物などの品名を記したるもの。ものに包みて人に贈る金員。

目食 モクシヨク 贅澤なる食物。

目笑 モクウ 目と目を見合せ相笑ふて意を示す。

目語 モクゴ 互に目づかひにて意思を通じ合ふ。

目付 モクツケ 國郡の風俗、又は人民の非違などを監察して具狀する。徳川幕府の役人。

目扱 モクキ ぬきいでたるもの。目

目部 三畫

ぼしきもの。眼目。大切なる所。主要の場所。

目貫 メキ 刀劍の目釘にかざる金具。後には目釘より上方の柄の両面につく。

目安 メヤシ 簡條書にして見易きやうにせるもの。訴訟の文書のめやすにかきたるもの。和算の乗除法にて乗數又は除數の稱。

目安箱 メヤシバコ 徳川氏の頃公事訴訟に役人の私曲あるとき人民をしてその由を目安書きにしてこの箱に投じ訴ふことを許したるもの。

目睫間 メクマツケ 目とまつげとの間。即ち極めて接近せると。

直上 チヨクジョウ すぐ上。まうえ。直に上ると。

直下 チヨクカ ました。その下。直に下ると。①九天の勢。

直日 チヨクジツ 宿直日。當番日。

直立 チヨクリツ ますぐに立つ。山などのけはしくして高き。高さの直徑。垂直。

直行 チヨクギョウ 道寄りせず目的地へ「すち」に行く。

直線 チヨクセン (數) 二點間の最も近き距離。眞直なる線。

直角 チヨクカク (數) 互に垂直なる二直線のなす角。

直言 チヨクゲン 忌憚なく言ふ。ありのままをいふ。言の絶對無條件なる。

直衣 チヨクイ 我國王朝時代の平服袍に似てたゞ地と衣紋の相違あるのみ。

直奏 チヨクソウ 他人を経ずして直接に奏聞すること。①鳳聲に「す。

目部 三畫

目部 三畫

直夜 チヨクヤ とまりげん。

直前 チヨクゼン 直ちに進む。まつすぐに行く。すぐまへ。

直披 チヨクヒ 當人が自ら開き見ること。書簡の封筒などに書付つくる文字。「以外の音。

直音 チヨクオン (文法) 拗音及促音。

直諫 チヨクカン うちつけに其れを諫むること。

直通 チヨクツウ 一の地點より他の地點へ向け異狀なしに通ずること。其列車が互に其地に通ずること。①列車。

直筆 チヨクヒツ 筆を眞直に持ちて書くこと。事柄をありのままに書くこと。①健腕。

直根 チヨクコン (植) 牛蒡などの根の如く主根の支根より大なるもの。「又直筆といふ。

直書 チヨクシ その本人自らかくと直接 チヨクセツ ちきちき。うちつけ間に物を隔てずして互に相對

目部 三畫

する。

直參 チヨクサン 他を経ず直接君主に。

直航 チヨクカウ 他港に寄らず其目的地に一すちに航すること。

直徑 チヨクケイ さしわたし。(數) 一方より他方までその物の中心を貫きたる直線の距離。

直稅 チヨクゼイ 直接稅の略。

直訴 チヨクソ 手續を経ず直接に上訴すること。「接の談話。

直話 チヨクワ 直接其の人との話。直

直傳 チヨクデン 直接に傳へうけると

直達 チヨクダツ 他人の手を経ずして直接に傳達すること。

直視 チヨクシ 眞直に見ること。

直答 チヨクタウ その場にて直ちに答ふること。「る。

直實 チヨクジツ すなはにて質朴な

直覺 チヨクカク (哲) 推理又は經驗等によらずして直接に知得識別すること。又直觀といふ。

直系 チヨクケイ (法) 祖先より直線

目部 三畫

的に繼續して其人に至りたる系統。

直截 チヨクセツ たゞちに截断すること。直覺的に辨識すること。

直裁 チヨクサイ 直ちに裁決すること。親ら裁決すること。

直道 チヨクダウ 自家の信ずる道を曲げずして行ふこと。すくななるみち。「接其の人との話。

直談 チヨクタン 直接會談すること。直

直請 チヨクセイ 直接に請ふこと。「。

直寫 チヨクシヤ 其のまま寫しこる

直腸 チヨクチヤウ 大腸と肛門との間にありて不消化物を肛門に送る管。

直隸 チヨクレイ 直接に支配せらる

直轄 チヨクカツ 直接に支配すること。直接に管轄すること。

直盧 チヨクロ 内裏にある攝政・關白・大臣・大納言などの休息所。

直譯 チヨクダク 原文を其の辭句通りに譯すること。

直截口 チヨクキクチ (數)角邊の側

直線形 チヨクセンケイ 直線のみに圍

直輸出 チキシュツ 外商の手を經ず

直取引 チキトリヒキ 仲買の手を經ず

直覺説 チヨクカクセツ (哲)直覺によ

直柱體 チヨクチウタイ (數)側稜が底

直譯體 チヨクヤクタイ 文章の體裁が

直圓錐 チヨクエンシユ (數)直角三角

て一回轉せしむるとき生ずる

直圓壘 チヨクエンリ (數)矩形の一

直立線 チヨクリツセン (數)水平面に

直立面 チヨクリツツメン (數)水平面に

直輸入 チキユラ 直接外國と取引

直説法 チヨクセツボウ (文法)動詞の

直射砲 チヨクシャハワ 彈道の殆ど直

直系親 チヨクケイシン (法)或人と其

直翅類 チヨクシユルシ (動)昆蟲類の

完全にして咬むに適する口器

直通列車 チヨクツウレツシヤ 中間にて

直轄學校 チヨクカクガク 主務省の

直情徑行 チヨクジヤウケイカウ 心のま

直系親族 チヨクケイシユク (法)或人

直系姻族 チヨクケイインソク (法)或人

直系尊屬 チヨクケイソンソク (法)祖先

直系卑屬 チヨクケイヒソク (法)其人

より直線的に降下して後裔に

直言命令 チヨクケンメイレイ (倫)絶對

直接履行 チヨクカウリカウ (法)義務

直接取引 チヨクカウトリヒキ 仲買人の

直接選舉 チヨクカウセンキョ 一般の選

直接談判 チヨクカウダンバン 仲人を立

直接國稅 チヨクカウコクゼイ 直接稅の

直六面體 チヨクロクメンタイ (數)各面

直往邁進 チヨクワウマイシン ためらば

すおそれず進み行くこと。

直角三角形 チヨクカクサンカクケイ 一

直線平面形 チヨクセンヘイメンケイ 直

盲 マウ 目に見えぬ人。めく

盲目 マウメク 目くらめしひ。

盲者 マウヤ 目くらめくら。無慈悲の人。

盲官 マウカン 古の盲人の官。檢校

盲風 マウフウ 秋吹く暴風。

盲腸 マウチヤウ (生)大腸の小腸に

盲啞 マウア めくらめくらおしと。

盲啞學校 マウアガク 盲啞を教育

する學校。

看 カン みる。かへりみる。

看護 カンゴ 病氣をみまもること。病

看客 カンキヤク 見物人。みて。又看

看戲 カンキ 演藝・芝居などを看る

看過 カンカウ 見落すこと。知らずし

看的 カシキ 發砲又は射弓の場合

看破 カンパ みやぶること。見ぬくと

看貫 カンクワン 物品の貫目のかけ

看守 カシキ 見守ること。囚徒を監

督使役する役人。「ふ」と。

看命 カシイ 人相を見て運命を占

看相 カサウ 人相をみる。

看視 カシ 注意してみる。

看板 カシシ 外観。商家など

布などに記して人目にふれ易

きやう店先に掲げおくもの。芝

居及び其他の見せ物にてその

演ずる藝の大略を畫に描きて

入口の正面の櫓の上に高く掲

げたるもの。

看護婦 カシラ 傷病者を看護する

婦人。内務省の許可を受けて病

傷者の看護を職業とする婦人。

看護人 カシニン 看病する人。

看護卒 カシラウ 軍人の傷病者を

看護する兵卒。

看護長 カシラウ 看護卒を取締

る下士官。

眊 バウ。モウ。くらむ。

くらし。かすむ。おもふ。

眉 ビ。ミ。こびる。まゆ。い

のちながし。ぬどげた。

眉目 ビシク まゆと目。ほまれ。面

目。見え。體裁。清秀。

眉月 ビシク みか月。

眉雪 ビシク 雪の如くに白き所。

眉間 ビシク 眉と眉との間。ひたひ

の中央。飛彈を貫く。

眉壽 ビシク 眉の長く垂れて壽命

なる人。

眉宇 ビシク 目のもやう。眉のあた

眉尖刀 ビシク なぎなた。

眊 近くして志す所深きに

いふ語。おもむるに見る

眊 虎視。

眊 べウ。メウ。すがめ。かた

め。をさばし。す点。すこ

しなる。こまやか。かす

か。「眼さいふ。

眊視 ビシク やぶにらみに見ると。

眊然 ビシク 微細なるさまにいふ

ペン。メン。かへりみる。

ひがめ。よこしまにみる

わきめ。一方の目を閉ざ

して見る。

眊願 ビシク ひがみ見ると。省みる

と。又眊視といふ。「の貌。

眊眊 ビシク 智術の策略なく質朴

る。はぶく。つかさ。よみ

す。すくなし。へらす。つ

まびらか。あきらか。官

廳。役所。

省視 ビシク 親をみまふと。

省字 ビシク 字畫を省きたる文字。

省文 ビシク 省きたる文章。不必

要の箇所を省きたる文章。

省筆 ビシク 筆をばぶくと。文章

を書くとし簡潔なる筆使ひを

して文字を省くと。

省察 ビシク 省みて既往のこと

を考ふる。

省略 ビシク はぶく。のぞきへ

省令 ビシク 各省大臣が其権限

によりて發する行政命令。

省筆 ビシク 筆を省くと。文句を

はぶくこと。

省問 ビシク 親のきげんうかがひ

シユン。トン。

たて。のがる。

ハシ。ヘン。みる。

めもとよし。かへりみる

ケイ。うらみみる。

つとむ。くるしむ。

シユン。めおちいる。に

ぶきめ。ふさぐ。くらむ。

シヤウ。サウ。みる。みめ

かたち。にんさう。さも

に。すがた。かたち。あひ

たすく。みちびく。をさ

む。えらぶ。百官の長。

相續 ビシク あさつぐと。(法)前

戸主に代りて其權利義務をう

けつぐと。「なること。

相違 ビシク ちがふと。彼我互に異

相對 ビシク 向ひあふと。對にな

ると。其もの以外に存立するも

のあると。或條件の附隨してあ

ると。「臣。

相國 ビシク 國家の宰相。太政大

相當 ビシク 相應。釣合ふと。よく

あてはまること。相同じきと。

相民 ビシク 民を助けること。

相識 ビシク 互に知りあふこと。ち

かつき。「見さいふ。

相人 ビシク 人相を見ること。又相

相談 ビシク 話し合ふと。意見を

かはして話すと。「く。

相互 ビシク おたがひ。各々。かへ

相貌 ビシク 顔つき。かほかたち。

相關 ビシク 双方互に關係する

こと。「ること。

相稱 ビシク 相かなふこと。相似た

相傳 ビシク つたへつぐと。うけ

つたふること。

相伴 ビシク 正客の相手となり

て共に饗應を受くること。「と。

相似 ビシク 互に似かよひてある

相遞 ビシク つぎつぎに送ると。

相尅 ビシク 五行に於ける火と水

土と木との如き關係のもの。

相馬 ビシク 馬の良否を見たりつる

と。杭に馬を繋げるかたちを描

ける紋所。

相印 ビシク 宰相の位。印は印綬

の印なり。支那にては官に任じ

たる證として印を賜ふ。恰も我

が國の辭令書の如し。

相引 ビシク 市場に於ける貨物と

貨幣との交換比例。時價。物品

の賣買に現物の取引を爲さず

専ら時價の差引によりて相互

間の取引を爲すと。互に引きあ

ふこと。勝負をせず互に引き退

くと。男女の密會して情を通じ

あふこと。

相好 サウカウ かほつき。にんさう。相續分ある場合に於て各自の受くべき法定の割合。「語」。

相應 サウオウ かねとこれとよく釣り合ふこと。ふさはしきこと。

相思 サウシ 互に思ひあふこと。

相殺 サウサイ (法)二人互に同種の債務を負担せる場合に相つづりてその債務を免るること。さし引くこと。「ひわづらひ」。

相思病 サウシヤウ こひやまひ。こ相対義務(法)同一種類の形の對應邊の比。

相坐法 サウザフ 一家罪あれば之を聯合し仕伍をなせる家にも其の罪を及ぼすこと。古の刑に行はれたり。又連坐法といふ。

相乘比 サウジキヒ (數)同一種類の量が數個あるとき第一の量と最後の量との比。「せるもの」。

相場師 サウバシ 時時の物價を記す人。物價の變動に應じて利を得るを業とする人。投機者。

相續分 サウジクブン (法)二人以上の相續人ある場合に於て各自の受くべき法定の割合。「語」。

相對的 サウタイテキ 相對なるにいふ相當したることを。大尉。

相續稅 サウジクゼイ 財産を相續する者に課する稅。

相輪塔 サウリンタ 相輪陀羅尼の說によつて建てたる一種の塔。

相聞歌 サウモンカ こひのうた。

相乘平均 サウジキアウケウ (數)數個の數の連乘積を其の個數の乘根に開きたるもの。

相對義務 サウタイギム (法)權利と相對立する義務。「所」。

相場會所 サウバクワイショウ 昔の取引の場。數個の和を其個數にて除したるもの。

相互保險 サウオウボケン 當事者各自が互に保險者となり被保險者となる地位に在りて營利を目的とせざる保險。

相互組合 サウオウカウゴ 相互の利益を計る爲に組成したる組合。

相互作用 サウオウサウオウ 相互に作用をおよぼしあふこと。

相互會社 サウオウカウイシヤ 基金十萬圓以上ある相互保險の組合が其の事業を經營するため規定により官許を得て設立したる會社。

相互感應 サウオウカウオウ (理)二つの輪道の一に通ずる電流を或は閉ち或は開くとき其瞬間に他の輪道に電流の通ずること。

相互主義 サウオウシギ 甲が乙に利益を與ふれば乙も甲に利益を與へ甲が乙に害を加ふれば乙も甲に害を及ぼす等彼我の間互に利害を交換すること。

相似中心 サウシニチュウシン (數)二つの圓の中心を結ぶ直線と共通

切線との交點。相似直線形の對應邊を平行するやうに置けるとき對應する頂點を連絡する諸線の交點。

相似位置 サウシニチチ (數)二つの與へられたる直線が二つの相似形の對應邊なるとき此相似形の二直線に對する位置。

相似直線形 サウシニチラセンケイ (數)互に等角にして且其對應邊が互に比例をなす二つの直線形。

相似多面體 サウシニチタメintai (數)互に相似にして相似の位置にある面を有し且對應二面角相等しき多面體の總稱。

相反方程式 サウハンハウテイシキ (數)一つの方程式の根の逆數を根とする方程式。

眈 ケン ゴン。みる。あき。み。ベイ。ミヤウ。みる。あき。らか。明に同じ。

眩 ケン ゴン。くらし。くらむ。めくらむ。めぐる。みだる。まじふ。

眩惑 ケンワク 見てくらみまじふこと。見とおざるまじふこと。

眩花 ケンカ 目かすみみて花模様の如きもの、目の前にちらちらと見ゆるをいふ。

眩亂 ケンラン くらみまじふこと。

眩目 ケンモク 目のくらむこと。まばゆいこと。

眩昏 ケンコン めまひ。目のくるめこと。めまひ。又眩暈といふ。

眩暈 ケンエン 目のくらむさまにいふ語。

眩耀 ケンヤウ 目のくらむほど光り

眩疾 ケンシツ めまひのすること。

眇 セイ サイ。シ。まなじり。うらみみる。にらむ。え

眇 セイ のあはせめ。サイ。昔に同じ。

眇 ワン かねぬ。めくら。めしひ。

眇 メン ミン。ねむる。やすむ。さかんなり。きびし。あざむく。つたなし。

眠藏 メンザウ 家の納戸の如きこと。

眠食 メンシキ ねむることと食ふこと。

眞 シン シン。まこと。すなほ。くばし。ただし。みち。

眞人 シンジン 道家にて道德の成就したる人の稱。まことの道を會得したる人。「虚」。

眞空 シンクウ 空氣の存在せざる空。

眞正 シンテイ まことなること。

眞實 シンジツ ほんもの。にせもの。

眞偽 シンギ まこととさいつはり。

眞假 シンカ まことなることと然らざること。を鑑別す。

眞誠 シンチ 偽りのなきまこと
眞甲 シンカウ 額のまんなか。
眞相 シンサウ 眞實の有様。かざりなき實際のさま。「ぬ心」
眞心 シンシン 心の心。かざらざる實際の様子。「へ」
眞狀 シンカウ 實際の様子。「へ」
眞價 シンカ 實の價。まことのあた
眞景 シンケイ 實際の景色。
眞意 シンイ まことの心。ほんしん
眞影 シンエイ まことのすがた。寫眞。
眞書 シンカキ 細かき楷書を書くに
眞締 シンシマリ 表面はしまりなきやうに見えて心の底にはしめく、りあると。
眞個 シンコ まことに。ほんとに。
眞愛 シンアイ まことのいつくしみ
眞筆 シンヒツ 其人がまことに書きたる筆跡。又眞蹟といふ。
眞鎗 シンチユウ 銅と鉛との合金。
眞教 シンケウ まことのをしへ。
眞底 シンソコ 心のそこ。最下底。

眞摯 シンシ 心のまつすぐにして敢爲の氣象に富むと。
眞趣 シンシユ まことのおもむき。
眞珠 シンジュ おもに眞珠貝より生ずる一種のたま。「儒者」
眞儒 シンジュ 世道人心を裨益する
眞信 シンシン まことの信仰。
眞性 シンセイ 人爲の加はらざるありのまゝの天性。萬有の實相。
眞諦 シンタイ (佛) 平等の理性即ち
眞法 シンポウ まことの法。「眞如」
眞劍 シンケン 眞の刀にて戦ふと。
眞理 シンリ 動かぬ道理。まことのまじめなると。①の勝負。
眞味 シンミ まことの味。「道理」
眞否 シンヒ マことまことならざると。「もの」
眞物 シンブツ 眞實の物。偽ならぬ
眞皮 シンヒ 外皮の下にある皮膚。
眞字 シンジ 楷書に書きたる文字。
眞實 シンジツ 偽なきまこと。
眞率 シンソツ ありのまゝにて偽り

かざらぬと。正直にしてきつばりしたると。「のなき心」
眞情 シンジヨウ まことろ。いつはり
眞直 シンチョク 少しも曲りのなきと。ますぐ。
眞砂 マツサ 砂の細かきもの。いさ
眞如 シンニョ (佛) 心の迷を去りてわが本性にかへると。
眞宗 シンシュウ (佛) 親鸞上人の創めし佛敎の一派。
眞面目 シンメンボク しかつめらしきと。ありてい。まじめ。
眞空管 シンクワツワン (理) 空氣をぬきたる玻璃管。
眞割引 シンワキキ 手形などを未だ支拂期日に達せざる前に支拂ふとき其時より支拂期日に至る間に於て現價より生ずべき利息を割引すること。
眞分數 シンブンスウ (數) 分數の値が一よりも小なる分數の總稱。
眞言宗 シンゴンシュウ (佛) 僧空海の

創めし佛敎の一派。
眞言院 シンゴンイン 古禁中にありて僧の參集して修法せし所。
眞珠貝 シンジュカイ (動) 方形の殻を有し中に眞珠を含める貝。
眞珠光 シンジュウワウ 眞珠に似たる光澤。
眞如月 シンニョツキ 煩惱とけて現はれ出づる心の本體にいふ語。
眞影流 シンカゲリウ 劍術の一派。元龜天正の頃信州の住人上泉秀綱の創始せるもの。
眞珠石 シンジュセキ (礦) 玻璃質火山岩の一、質堅くして眞珠に似たる光澤を有す。
眞言祕密 シンゴンヒツミツ (佛) 陀羅尼の祕密。呪言の祕密。
眞言兩部 シンゴンリヤウフ (佛) 胎藏界と金剛界と、即ち理と智と。
眞如不變 シンニョウヘン 一切の萬有は悉く眞如の妙理にして花紅柳綠すべてこれ眞如の當體な

りといふと。
眞如隨緣起 シンニョズイエンキ (佛) 一切の萬有はことごとく縁にしたがひて眞如より生ずといふ。マイ。マイ。「ふと」くらし。
眇 シヤウ。まぶし。とがくもる。わざはひ。あやまち。かすむ。
眇 みる。みはる。
眇 おごろきみる。
眇 タウ。ダツ。ちかめ。
眼 ガン。ゲン。め。まなこ。あな。からめ。
眼目 ガンモク 主眼。文章などにて凡て肝要なる點。
眼瞼 ガンモン 眼のかすむと。視力の衰へてくらむと。
眼光 ガンコウ 眼の玉の光り。①

爛々。「を見分くる力」
眼力 ガンリキ 視力。物の理非善惡
眼球 ガンキウ 眼の玉。まなこ。
眼窠 ガンサウ 眼のうつつる。眼球のある穴。
眼病 ガンビョウ 目の病氣。めやみ。又眼疾・眼症・眼氣といふ。
眼瞼 ガンケン 眼球の上下を被ふ皮まぶた。
眼孔 ガンコウ 目のくぼみ。眼球の眼前 ガンゼン まのあたり。目のまへ。目前。
眼瞳 ガンドウ ひとみ。又眼睛とい
眼角 ガンカク 目のすみ。目の兩端。
眼底 ガンテイ 目のそこ。眼中。
眼水 ガンスイ なみだ。又眼泉とい
眼瞼 ガンモン まつげ。「ふ」
眼科 ガンガク 専ら眼の研究治療をなす醫術。
眼界 ガンカイ 見渡すかぎり。
眼識 ガンシキ めさきのきくと。鑑識の明らかなると。

瞻

セン。みる。のぞみみる。

瞻望 センリョウ みわたすと。あふぎのぞむ。

瞻依 センイ 仰ぎ見て親み依ると。

瞻仰 センリョウ あふぎみること。

瞻視 センシ 見つむること。

曖

アイ。かくる。くらし。

曖昧 アイマイ ころしるぐらきと。確實ならぬと。

瞼

ボウ。モウ。くらし。めしひ。あきめくらし。おろか。

瞼目 ボウモク かすみ目。「えぬ貌」。

瞼然 ボウゼン ぼんやりしたるさま。

瞼語 ボウゴ ぼんやりといふ。「に」。

瞼體 ボウタイ おぼろかに。かすか。

瞼體 ボウタイ 詩文などの意義。

の明瞭ならざるもの。畫の輪廓の明かならざるもの。

瞼車夫 ボウシャブ 人を見掛け

て法外の酒手を強制する無頼の車夫。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

瞼 ボウ クワク。カク。あはてみる。つかむ。すこやか。

矚

カン。みる。うかがふ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚目 カンモク 目をつける。見ると。ながめ見ると。又矚望といふ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矚 カン シヨク。ソク。みる。みつむ。ながむ。

矢

シ。や。はなつ。つらぬ。ちかふ。ただし。すなほ。ほどこす。

矢部

矜

キョウ。シヤク。ほこ。さしこる。

矜

キョウ。シヤク。ほこ。さしこる。

矜恤 キョウシツ あはれみめぐむと。

矜大 キョウダイ 自ら賢とし尊大なるをいふ。

矜寡 キョウカ 老いて妻なきものと老いて夫なきものと。

矜式 キョウシキ 敬ひのつとること。

矜帶 キョウタイ えりさおびと。

矜度 キョウド むねのひろきこと。ごさう。

矜願 キョウガン あはれみかへりみる。

矜大 キョウダイ 自ら賢とし尊大なるをいふ。

一五畫

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢直 ヤチキョウ 矢の如く直しきこと。節義をまげざること。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矢大 ヤダイ 神社の樓門の兩方にある隨身の如き人形。下等なる飲食店にて空樽を腰かけこし片脚を擡げなからるるみ酒を呑むと。

矣

イ。かな。語の末尾に用ひて斷定の意を表す字。チ。しる。さとる。れがふ。さとす。つかさ。つかさ。ざる。ものしる。

知

知音 チオン 己れを知れる親しき友。最親しき友。善く心を知りあひて居る人。又知人。知友。さいふ。

知足 チク 足ることを知ると。満足する。分限を知ると。

知己 チキ 自己を能く知りて居る人。ちかづき。しりあひ。友人。

知行 チキョウ 武家時代に武士にあてがひし領地。

知者 チヤ 事理に通曉したる人。

知解 チカイ 事。さとる。こと。

知見 チケン みこみ。ちしき。いけん。智慧と見識と。

知性 チセイ 事物を認識する性能。

知名 チメイ 名を世間に知られてある。名高きこと。

矢部 二一五畫

知事 ちし 府縣の行政長官。
 知縣 ちけん 縣の長官。
 知識 ちしき 知るといふ意識の作用。(佛)能く事理を辨別せる人の稱。
 知命 ちめい 天命を知ること。五十歳の稱。「又知道といふ」
 知曉 ちがう さとること。のみこむこと。
 知遇 ちぐう よく見ぬかれて待遇せらるること。①を忝うす。
 知了 ちりょう さとること。通曉すること。
 知慮 ちりょ 事物をさとりにかんがへること。かしこきおもんばかり。①淺薄。
 知新 ちしん 新しいきを知ること。①温(心)當面の感覺を過去の經驗とによりて起る認識作用。
 知照 ちせう 先方へ照會すること。
 知故 ちこ 前からの知り人。
 知言 ちげん もつともなること。道理のある言葉。「知ること」
 知分 ちぶん 分際を知ること。分限を

矢部 七畫以上

知府 ちふ 府の長官。
 知苦齋 ちくさい やぶいしや。庸醫。
 知死期 ちしき 陰陽家にて人の死期を知るさいふ法。しにぎは。
 知覺精神 ちかくせいしん 事物を正當に知覺する所の心意。
 矧 せき ことば。あらはる。はぐき。
 侯 こう コウ。ク。
 侯に同じ。
 矩 けい ク。コ。のり。つれ。まがりがね。すみしるす。かど。
 矩形 けいけい (數) 各の角が直角なる四邊形。
 七畫以上

矢部 七畫以上

短刀 たんたう あひくち。短く小さい刀。又短劍といふ。「日」
 短日 たんじつ 日みじか。冬の短き日。
 短小 たんせう 小ききこと。短かきこと。低くして小ききこと。「才」
 短才 たんさい 才智のたらしぬこと。小かじに。又短逝。短折といふ。
 短功 たんこう 僅少のてがら。
 短曲 たんきョク 歌などの短かき曲。
 短音 たんオン みじかき音。
 短繁 たんはん ひくきともしび。
 短箋 たんせん みじかき料紙。簡單なる文書。「句」
 短句 たんく みじかき句。字數少き句。
 短文 たんぶん みじかき文章。
 短冊 たんさく 歌などを書く細長き料紙。
 短命 たんめい みじかき命。わかじ短見 たんけん あさはかなる考。
 短兵 たんべい みじかき兵器。刀に

矢部 七畫以上

て接戦すること。①一戦を開く。
 短長 たんちやう 短かきと長きと。良きと悪きと。拙と巧と。
 短所 たんじョ 突れる所。非難すべき點。缺點。「なること」
 短氣 たんき 氣みじかなること。性急。
 短路 たんろ ちかみち。捷徑。
 短視 たんし ちかめ。「かのま」
 短期 たんき 期限の短かきこと。わづ短評 たんべい 短かく評をすること。簡單に批評すること。①を試む
 短夜 たんや みじかき夜。夏の夜。
 短軀 たんこ たいひくきからだ。
 短瘡 たんそう 短き宿場のみち。
 短牘 たんこく みじかき手紙。又短簡といふ。「やり」
 短槍 たんちやう てやり。柄の短かき槍。
 短縮 たんしゆく 短かく縮むること。みじかくなること。
 短歌 たんか みじかうた。三十一文字の歌。長歌の對。
 短褐 たんこく 粗末なる短き着物。

矢部 七畫以上

短銃 たんじゆウ 短きてつぽふ。びすさる。
 短篇 たんぺん 短き詩文など。①小説。
 短價 たんげん 價をまくること。
 短慮 たんりょ 氣みじかなること。氣はやくこと。あさはかなる量見。
 短日月 たんじつげつ わづかのつきひ
 短記性 たんきせい おぼえのわるきたち。
 短兵急 たんべいきゅう にはか。迅速。至急。
 短篇物 たんぺんぶつ みじかき著作物
 矮 さい みじかし。たけひくし。
 矮人 さいじん 丈けひくき人。
 矮幹 さいかん 低く小ききみき。
 矮軀 さいこ 低く小ききからだ。
 矮短 さいたん 低くみじかきこと。
 矮屋 さいおく 小きき家。ひくき家。
 矮樹 さいじゆ ちひさき樹木。
 矮小 さいせう たけ低く小ききこと。
 矮林 さいりん 矮樹の林。

矢部 七畫以上

矮鷄 さいけい 鷄の一種にして身體矮小なるもの。ちやほ。
 矮人觀場 さいじんくわんじやう たけひくき人が中に立ち交りて見物する處にて知見乏しきもの。觀察をいふ。
 矯 けう ケウ。つよし。いつはる。たむる。ただす。みだり。つける。ほしいまま。いっはり。かこつける。いさむ。たけし。とびあがる。
 矯矯 けうけう つよく勇ましき貌。又矯然。矯焉といふ。
 矯勵 けうれい 心を正しほげますこと。
 矯直 けうちよく 理を非にまげること。
 矯風 けうふう 悪き風俗をためなほすこと。又矯俗といふ。「と」
 矯正 けうせい 悪しきをためなほすこと。
 矯誣 けうぶ いっはりて言ふこと。
 矯飾 けうじやく 情をためてうはべをかざること。

石部

矯心 カウシン 心をためなほすと。
矯激 カウキキ 強いて普通と異なる
舉動を爲すと。「すこ」。
矯揉 カウジウ まがれるをためなほ
矯詐 カウサ いっぱるを。
ワク。さし。
獲 カク のり。ものさし。

石部

石 セキ シヤク。いし。いは
かたし。あつし。こく。
石人 セキジン 石にて作りたる人形
徒に人の形あるのみにて好悪
を知らざると。
石工 セキコウ 石細工人。いし屋。い
しく。又石匠といふ。
石女 セキメウ うまずめ。子をばら
まぬ女。又石婦といふ。
石火 セキカ 石に物の烈しく觸れ
ていづる火。速かなるとに譬ふ

石部

石 セキ シヤク。いし。いは
かたし。あつし。こく。
石人 セキジン 石にて作りたる人形
徒に人の形あるのみにて好悪
を知らざると。
石工 セキコウ 石細工人。いし屋。い
しく。又石匠といふ。
石女 セキメウ うまずめ。子をばら
まぬ女。又石婦といふ。
石火 セキカ 石に物の烈しく觸れ
ていづる火。速かなるとに譬ふ

石部

石 セキ シヤク。いし。いは
かたし。あつし。こく。
石人 セキジン 石にて作りたる人形
徒に人の形あるのみにて好悪
を知らざると。
石工 セキコウ 石細工人。いし屋。い
しく。又石匠といふ。
石女 セキメウ うまずめ。子をばら
まぬ女。又石婦といふ。
石火 セキカ 石に物の烈しく觸れ
ていづる火。速かなるとに譬ふ

石部

石 セキ シヤク。いし。いは
かたし。あつし。こく。
石人 セキジン 石にて作りたる人形
徒に人の形あるのみにて好悪
を知らざると。
石工 セキコウ 石細工人。いし屋。い
しく。又石匠といふ。
石女 セキメウ うまずめ。子をばら
まぬ女。又石婦といふ。
石火 セキカ 石に物の烈しく觸れ
ていづる火。速かなるとに譬ふ

石部

石 セキ シヤク。いし。いは
かたし。あつし。こく。
石人 セキジン 石にて作りたる人形
徒に人の形あるのみにて好悪
を知らざると。
石工 セキコウ 石細工人。いし屋。い
しく。又石匠といふ。
石女 セキメウ うまずめ。子をばら
まぬ女。又石婦といふ。
石火 セキカ 石に物の烈しく觸れ
ていづる火。速かなるとに譬ふ

石部

石 セキ シヤク。いし。いは
かたし。あつし。こく。
石人 セキジン 石にて作りたる人形
徒に人の形あるのみにて好悪
を知らざると。
石工 セキコウ 石細工人。いし屋。い
しく。又石匠といふ。
石女 セキメウ うまずめ。子をばら
まぬ女。又石婦といふ。
石火 セキカ 石に物の烈しく觸れ
ていづる火。速かなるとに譬ふ

石花菜 セキカサイ ところてんぐさ
石灰珊瑚 セキライサンゴ 珊瑚の分
體が分泌したる石灰質の骨骸。

石灰洞窟 セキライドウクツ (地)石灰
岩が地下水のため溶解せら
れて作りたる空洞。

石炭瓦斯 セキタンガス 炭素と水素
と化合したる氣體、火を點すれ
ば光を放ちて能く燃ゆ。

石器時代 セキキジイ 人智尙幼稚
にして金屬使用の道を知らず
石材を以て刃物其他の器具に
製造使用したる時代。

硃 シヤ カウ。コウ。
いしばし。さびいし。
ケキ。クワク。皮と骨と
の相はなるる聲。

砒 ヒ ヒ。ハイ。
あしものいし。

砒石 ヒシ 玉に似たる石。
砒素 ヒソ (化) 非金屬元素の一、
質脆く銀白色を帯ぶ劇毒あり
砒霜石 ヒシヤウシ (化) 銀又は銅な
どを吹き分くるさき生ずる砒
素の化合物、劇毒を含む。
砒酸 ヒシヤン (化) 無水亞砒酸を強
硝酸にて熱して得る結晶體、顔
料又は染料に供す。
砂 サ シヤ。サ。すな。
いさご。すなご。
砂上 サジョウ 砂の上。基礎のよわ
きに譬ふる語。○の樓閣。
砂土 サド 多量の砂を含みて質
粗鬆なる土壤。
砂漏 サロウ 砂ぞけい。
砂礫 サレキ 砂と小石。じやり。

砂金 サキン (鑛) 黄金の砂と混じ
て河底に沈澱せるもの。
砂鑛 サウカウ (鑛) 砂金・砂鐵・砂
錫等の總稱。
砂嘴 サシ (地) 潮流又は風向等
によりて砂洲の一方に延長し
たるもの。
砂鐵 サテツ (鑛) 崩壊したる磁鐵
鐵の細粒が雨水の爲に流され
て河床又は海岸の砂に浸入し
て存在するもの。
砂洲 サシュ (地) 流水又は波濤の
爲に運搬せられたる土砂が堆
積して成りたるしま。
砂丘 サヒ 砂より成れるおか。
(地) 海又は湖等の沿岸に平行
して連亘する砂のおか。「り。
砂塵 サチン 砂ほこり。すなけぶ
砂利 サリ 極めて小さき石。
砂石 サシ すな。まさご。
砂磧 サシキ かばら。「なち。砂場。
砂地 サヂ 砂の多くある土地。す

砂金 サキン (鑛) 黄金の砂と混じ
て河底に沈澱せるもの。
砂鑛 サウカウ (鑛) 砂金・砂鐵・砂
錫等の總稱。
砂嘴 サシ (地) 潮流又は風向等
によりて砂洲の一方に延長し
たるもの。
砂鐵 サテツ (鑛) 崩壊したる磁鐵
鐵の細粒が雨水の爲に流され
て河床又は海岸の砂に浸入し
て存在するもの。
砂洲 サシュ (地) 流水又は波濤の
爲に運搬せられたる土砂が堆
積して成りたるしま。
砂丘 サヒ 砂より成れるおか。
(地) 海又は湖等の沿岸に平行
して連亘する砂のおか。「り。
砂塵 サチン 砂ほこり。すなけぶ
砂利 サリ 極めて小さき石。
砂石 サシ すな。まさご。
砂磧 サシキ かばら。「なち。砂場。
砂地 サヂ 砂の多くある土地。す

砂水 サスイ 砂ごしにしたる水。
砂防 サボウ 砂石を以て築きたる
どて、堤防などの水に流れぬた
めのふせぎ。
砌 セ セイ。サイ。石たのみ。
みきり。わり。ころ。

破 ハ ハ。わる。くだく。やぶる
さく。くづる。ひきさく。
ひらく。

破瓜 ハクワ 女子十五六歳ころに
至り初めて經水を見ること。
破戒 ハクケ (佛) 戒を破ること。
破竹 ハクチク 竹をわると。勢の烈し
くして止め難きにいふ語。
破却 ハクキョク 破りすつること。
破蓋 ハクガイ やぶれてあさかたの
なくなりしこと。
破身 ハクシン 處女の始めて男子と
交接すること。「こ。

破邪 ハクジャ (佛) 異端を論破する
こと。

破身 ハクシン 處女の始めて男子と
交接すること。「こ。

破邪 ハクジャ (佛) 異端を論破する
こと。

破門 ハクモン 師弟の義を絶つこと。宗
門を脱せしむること。「捨つること。
破約 ハクヤク 約束を破ること。前約を
破風 ハクフウ 屋根の切棟の端の山形
をなすところ。搏風。「あること。
破損 ハクソン やぶれたむと。こは
破格 ハクカク なみはづれ。格にはづ
る。と。例外。○の昇進。
破倫 ハクリン 人道をはずれたること。
破産 ハクサン 家産を失ふこと。身代限
りすること。(法) 商人が自己の財
産にて總ての負債を完済する
こと能はずして支拂を停止し
たるさき本人又は債權者の申
立により裁判所が決定を以て
爲したる宣告に基き其財産を
各債權者に正當に配當すること。

破裂 ハクレツ やぶれさけること。
破滅 ハクメツ やぶれてほろぶこと。滅
亡すること。「れ砕くること。
破碎 ハクサイ やぶりくだくこと。やぶ
破船 ハクセン 船の暴風雨に遇ひ又

破門 ハクモン 師弟の義を絶つこと。宗
門を脱せしむること。「捨つること。
破約 ハクヤク 約束を破ること。前約を
破風 ハクフウ 屋根の切棟の端の山形
をなすところ。搏風。「あること。
破損 ハクソン やぶれたむと。こは
破格 ハクカク なみはづれ。格にはづ
る。と。例外。○の昇進。
破倫 ハクリン 人道をはずれたること。
破産 ハクサン 家産を失ふこと。身代限
りすること。(法) 商人が自己の財
産にて總ての負債を完済する
こと能はずして支拂を停止し
たるさき本人又は債權者の申
立により裁判所が決定を以て
爲したる宣告に基き其財産を
各債權者に正當に配當すること。

破裂 ハクレツ やぶれさけること。
破滅 ハクメツ やぶれてほろぶこと。滅
亡すること。「れ砕くること。
破碎 ハクサイ やぶりくだくこと。やぶ
破船 ハクセン 船の暴風雨に遇ひ又

破裂 ハクレツ やぶれさけること。
破滅 ハクメツ やぶれてほろぶこと。滅
亡すること。「れ砕くること。
破碎 ハクサイ やぶりくだくこと。やぶ
破船 ハクセン 船の暴風雨に遇ひ又

破裂 ハクレツ やぶれさけること。
破滅 ハクメツ やぶれてほろぶこと。滅
亡すること。「れ砕くること。
破碎 ハクサイ やぶりくだくこと。やぶ
破船 ハクセン 船の暴風雨に遇ひ又

破毀 ハクキ やぶれこぼる。と。や
ぶりこぼすこと。(法) 上告裁判所
に於て原裁判所の判決を違法
として之を取消すること。
破棄 ハクキ やぶりすつること。
破算 ハクサン 置き分けたる算盤珠
を崩すこと。「といふ。
破獄 ハクゴク 牢をやぶること。又破牢
破綻 ハクタン やぶれほころびること。
完全にととのはざること。
破潰 ハククヰ やぶれつひゆること。
やぶること。
破談 ハクタン 相談のまとまらずし
てやぶれること。一旦ととのひた
る縁談を取消すこと。
破顔 ハクガン わらひ顔。○一笑す
破題 ハクテイ 詩文などの初めのか
きだし。ときはじめ。
破鏡 ハクキョウ 夫婦相別れること。こ
はれかがみ。○の嘆あり。

破毀 ハクキ やぶれこぼる。と。や
ぶりこぼすこと。(法) 上告裁判所
に於て原裁判所の判決を違法
として之を取消すること。
破棄 ハクキ やぶりすつること。
破算 ハクサン 置き分けたる算盤珠
を崩すこと。「といふ。
破獄 ハクゴク 牢をやぶること。又破牢
破綻 ハクタン やぶれほころびること。
完全にととのはざること。
破潰 ハククヰ やぶれつひゆること。
やぶること。
破談 ハクタン 相談のまとまらずし
てやぶれること。一旦ととのひた
る縁談を取消すこと。
破顔 ハクガン わらひ顔。○一笑す
破題 ハクテイ 詩文などの初めのか
きだし。ときはじめ。
破鏡 ハクキョウ 夫婦相別れること。こ
はれかがみ。○の嘆あり。

破毀 ハクキ やぶれこぼる。と。や
ぶりこぼすこと。(法) 上告裁判所
に於て原裁判所の判決を違法
として之を取消すること。
破棄 ハクキ やぶりすつること。
破算 ハクサン 置き分けたる算盤珠
を崩すこと。「といふ。
破獄 ハクゴク 牢をやぶること。又破牢
破綻 ハクタン やぶれほころびること。
完全にととのはざること。
破潰 ハククヰ やぶれつひゆること。
やぶること。
破談 ハクタン 相談のまとまらずし
てやぶれること。一旦ととのひた
る縁談を取消すこと。
破顔 ハクガン わらひ顔。○一笑す
破題 ハクテイ 詩文などの初めのか
きだし。ときはじめ。
破鏡 ハクキョウ 夫婦相別れること。こ
はれかがみ。○の嘆あり。

破毀 ハクキ やぶれこぼる。と。や
ぶりこぼすこと。(法) 上告裁判所
に於て原裁判所の判決を違法
として之を取消すること。
破棄 ハクキ やぶりすつること。
破算 ハクサン 置き分けたる算盤珠
を崩すこと。「といふ。
破獄 ハクゴク 牢をやぶること。又破牢
破綻 ハクタン やぶれほころびること。
完全にととのはざること。
破潰 ハククヰ やぶれつひゆること。
やぶること。
破談 ハクタン 相談のまとまらずし
てやぶれること。一旦ととのひた
る縁談を取消すこと。
破顔 ハクガン わらひ顔。○一笑す
破題 ハクテイ 詩文などの初めのか
きだし。ときはじめ。
破鏡 ハクキョウ 夫婦相別れること。こ
はれかがみ。○の嘆あり。

破毀 ハクキ やぶれこぼる。と。や
ぶりこぼすこと。(法) 上告裁判所
に於て原裁判所の判決を違法
として之を取消すること。
破棄 ハクキ やぶりすつること。
破算 ハクサン 置き分けたる算盤珠
を崩すこと。「といふ。
破獄 ハクゴク 牢をやぶること。又破牢
破綻 ハクタン やぶれほころびること。
完全にととのはざること。
破潰 ハククヰ やぶれつひゆること。
やぶること。
破談 ハクタン 相談のまとまらずし
てやぶれること。一旦ととのひた
る縁談を取消すこと。
破顔 ハクガン わらひ顔。○一笑す
破題 ハクテイ 詩文などの初めのか
きだし。ときはじめ。
破鏡 ハクキョウ 夫婦相別れること。こ
はれかがみ。○の嘆あり。

破毀 ハクキ やぶれこぼる。と。や
ぶりこぼすこと。(法) 上告裁判所
に於て原裁判所の判決を違法
として之を取消すること。
破棄 ハクキ やぶりすつること。
破算 ハクサン 置き分けたる算盤珠
を崩すこと。「といふ。
破獄 ハクゴク 牢をやぶること。又破牢
破綻 ハクタン やぶれほころびること。
完全にととのはざること。
破潰 ハククヰ やぶれつひゆること。
やぶること。
破談 ハクタン 相談のまとまらずし
てやぶれること。一旦ととのひた
る縁談を取消すこと。
破顔 ハクガン わらひ顔。○一笑す
破題 ハクテイ 詩文などの初めのか
きだし。ときはじめ。
破鏡 ハクキョウ 夫婦相別れること。こ
はれかがみ。○の嘆あり。

破壊 ハクワイ うちこぼすこと。うちやぶること。こぼること。
破天荒 ハクテウクワウ 未曾有のもの。なまはづれのこと。○一の偉業。
破裂音 ハクツクオン (文法) 一時氣流を遮りて其十分漲れるとき俄に之を放つによりて起る音。
破傷風 ハクシヤウフウ 傷口より風が入りて烈しき痲衝を起す病。
破産者 ハクサンシャ 破産の宣告を受けたる人。
破廉耻 ハクレンチ 耻を耻とも感ぜぬこと。職務をけがすこと。不正の手段又は不法の所爲によりて人の財物を取ること。
破魔弓 ハクマキウ 昔兒供の息災を祈るために正月室内に飾りたる小さき弓矢。
破裂丸 ハクツクワン 物にあたれば破裂して四方に飛び散る彈丸。
破落戸 ハクラクコ 一定の住所職業もなくしてさまよひあるくもの。

破軍星 ハクケンセイ 北斗の第七に當る星。陰陽家は、この星の指せる方位を萬事凶なりとす。
破壞説 ハクワイセツ 他の計畫又は論旨若くは組織等をうちこぼす意見。確實なる眞理又は善惡の標準等の存在を否定する見解。
破邪顯正 ハクシャケンテイ 邪道を説きやぶりて正理をあらはし弘むること。
破産財團 ハクサンサイダン (法) 破産の手續の終局に至るまで破産者の所有に屬し且つ強制執行の目的物たることを得る財團。
破廉耻罪 ハクレンチサイ (法) 竊盜罪收賄罪・詐欺罪等の稱。
破産裁判所 ハクサンサイバンシヨ (法) 破産者の營業所若くは住所を管轄する地方裁判所。
破産主任官 ハクサンチニンカン (法) 破産裁判所の命じて其破産の

事件を指揮監督せしむる判事。
破産管財人 ハクサンクワンサイニン (法) 破産者の財産を管理して正當に債權者に配當するなどの職務を掌るもの。
砒 ヒ いたしのひきうす。
砒 ヒ ド。ヌ。
砒 ヒ やのれいし。
砒 ヒ セキ。
砒 ヒ きげだつ。
砒 ヒ 砕截 セキウ 削りたるが如くつき立つこと。きはだつこと。
砒 ヒ へん。ホン。いしはじり。はりきす。
砒 ヒ チン。
砒 ヒ きめた。
砒 ヒ フ。
砒 ヒ しるいし。
砒 ヒ ハウ。礫に同じ。あやつりいし。いしはじき。おほづい。たいほう。

砲工 ハウコウ 砲兵と工兵と。銃砲などを作る工人。
砲手 ハウシュ 大砲をうつつとなつかさぐるもの。「する」と。
砲火 ハウカ 砲發の火。大砲を發するもの。
砲兵 ハウヘイ 大砲をとりあつかふ兵士。又其軍隊。
砲列 ハウレツ 大砲の列。砲兵が砲發する爲に大砲を排列すること。「一」を數く。「る職人」。
砲匠 ハウシヤウ 大砲小銃などを造る職人。
砲隊 ハウタイ 砲兵より成る軍隊。
砲眼 ハウガン 大砲をうち出す爲に城壁などに設けたる孔。
砲艦 ハウカン 大砲を備へて陸地の砲擊を主とする輕快なる軍艦。
砲發 ハウハツ 發砲すること。火砲をうつつこと。「響」。
砲架 ハウカ 大砲をもたせかけけるもの。
砲門 ハウモン 砲彈のいづる口。大砲のつゝ口。「彈雨の間」。
砲煙 ハウエン 砲發のけむり。「一」

砲擊 ハウキキ 大砲にてうつつこと。
砲座 ハウザ 大砲をすゑおくる所。
砲銃 ハウシュ 大砲と小銃と。
砲煩 ハウワン たいほう。おほづつ。
砲車 ハウシャ 火砲を裝置したる車。
砲身 ハウシン 火砲の主要部にして彈丸をこめて發射する所。
砲射 ハウセツ 火砲を發射すること。
砲墩 ハウダン だいば。
砲臺 ハウダイ 海岸の要所に大砲を据え付け防禦の設備をなせる所。
砲彈 ハウダン 大砲のたま。又砲丸。
砲塔 ハウタウ 軍艦の艦首と艦尾とにありて各一門又は二門の大砲を包圍せるところ。
砲戰 ハウセン 大砲をうち合ふこと。大砲にて戦ふこと。「る術」。
砲術 ハウジュツ 大砲小銃を運用する術。
砲聲 ハウセイ 砲發の音。「一般々」。
砲兵會議 ハウヘイクワイギ 砲兵の技術・兵器材料等に關して陸軍大

臣の諮詢に應じ且つ其改良進歩を圖り審査立案をなす所。
砲工學校 ハウコウガクカウ 陸軍教育總監の管理に屬し砲兵及び工兵の少尉中尉を學生として之に必要な學術を教ふる所。
砲兵工廠 ハウヘイコウワヤウ 陸軍所要の兵器・彈藥・器具・材料等を製造し又は修理する所。
砒 ヒ サイ。ゼ。とりで。しがらみ。
砒 ヒ カク。キヤク。ケイ。やぶる。われる。
砒 ヒ 砒石 ケイセキ (礦) 砒素の化合物なる水晶・瑪瑙又は燧石等の稱。
砒 ヒ 砒素 タン (化) 非金屬元素の一、天然に游離して存在せざれば化合物となりて多量に存在し砂石などの主成分を爲す。
砒 ヒ 砒酸 ケイセン 砒素と酸素と水との化合物。砂石又は玻璃などの主成分を爲す。

石の一種。「く作用。磁氣ジキ(理)磁石の如く鐵を引磁針ジシじしやくの針。常に南北方を指す針。「く類の總稱。磁器ジキ 石焼きの陶器。じしや磁場ジキ 磁氣作用の及ぶ範圍磁力ジキ 磁氣の強弱。磁石力。磁石盤ジキ 磁石の角を示す器。磁氣嵐ジキ (地)地磁氣の急激に變動を生ずる状態。

確 カク。コク。たしか。かたし。こほし。つよし。確固 カク。かたく確かなる。確乎 カク。堅固にして動かざるさまにいふ語。

確實 カク。たしかにまことなること。たしかなる。

確聞 カク。たしかに聞きこむ。確然 カク。しかと。確かに。動かさずしてあるさまにいふ語。

確定 カク。しかと定まると。定まりて動かぬ。

確認 カク。しかと認むると。確説 カク。しかと説いたる説。確かなる説。「かざる信仰。

確信 カク。しかと信ずると。動確立 カク。しつかりと立つると。確答 カク。たしかなるへんじ。確證 カク。確かなる證據。確報 カク。たしかなる報知。確守 カク。しかと守ると。「論。確論 カク。たしかなる議論。定確執 カク。互に我意をばりて譲らぬ。守りて動かぬ。不和になる。あらそひ。

確乎不拔 カク。たしかにして動かざる。

確定判決 カク。法(法)不服申立ての期間を経過したる判決。又は上告審の判決の稱。

確定公債 カク。償還の準備ある公債。

碼 パ。メ。うまのさづき。いろのたま。ヤード。ヤール。

ル。英・米の尺度を示す語にして一ヤードは我國の三尺強に當る。テン。きしる。碾 碾に同じ。俗の碾の字。碾茶 テン。春にて挽きて粉末にせる茶。ひきちや。碾磑 テン。ひきうす。

十一畫

磬 ケイ。キヤウ。樂器。はする。くびりこるす。しめす。さとす。

磬石 ケイ。樂器の一種。堅き石をかきなりに細工し吊してたたくもの。又これを作る石。磬折 ケイ。身体をかぎの如くにひがむると。甚しく腰をまげる。

確 サイ。セ。たかし。さがし。バ。マ。とぐ。みがく。こする。

磨 マ。ミ。みがき。へらす。磨減 マ。ミ。とぎて形を縮むると。磨きへらす。

磨損 マ。ミ。みがき。へらす。磨滅 マ。ミ。とぎて形を縮むると。磨きへらす。

磨利 マ。ミ。刀劍などをみがきて銳利になす。

磨弄 マ。ミ。おもちゃにしてなぶりしてあそぶ。

磨磑 マ。ミ。ひきうす。

磨礪 マ。ミ。とぎみがく。

磨齒 マ。ミ。齒をみがく。

磧 セキ。シヤク。まさい。すなばら。いそのいし。磧礫 セキ。いし。いし。こ。いしかばら。

磧裏 セキ。河原。かばら。リク。ロク。まるぶ。田を平かにする器。カ。ケ。いしのかけ。ザン。セン。さがし。けはし。いはほ。

磚 タン。セン。かばら。甌。同字。ロ。ル。いさ。こ。すな。

磚砂 タン。成分は鹽化アンモニヤにして色は黄白の二種あり。味は鹹く且つ澁し。

磚砂精 タン。磚砂の鹽素を去りたるもの。藥品とす。

十二畫

磽 カウ。ゲウ。かたし。いし。たたく。いし。ぢ。やまだ。うすし。やせぢ。

磽确 カウ。石まじりの土地。石多きと。やせたる。地味。磽肥 カウ。いし地と肥え地。相半す。

磽 ハン。ハ。いしのやじり。クワウ。カウ。ワウ。あらがれ。石の名。

磷 リン。きん。うすらぐ。うすきいし。リン。雲母。きらら。キ。ケ。い。そ。す。

磧 ケイ。水の石に激する處。磧路 ケイ。磧邊のみち。「れ。磧枕 ケイ。海邊に宿ると。いそ。磧松 ケイ。うみへに生ずる松。磧巾着 ケイ。海濱の岩上に生ずる腔腸動物。單體にして骨格を有せず。綠色のもの。紅色のもの。あり。

十三畫以上

礎 ギ。さがし。いはほ。げはし。シヨ。ソ。いし。す。いし。ぶみ。

礎石 ソキ。ど。だ。いし。いし。す。礎基 ソキ。いし。す。ど。だ。い。礎礎材 ソキ。基礎にする材料。「業。礎業 ソキ。ど。だ。い。なる。べき。事。

石部 十三畫以上

碯

タウ。そと。はたと。(國訓)ライ。レ。ころばす。系に同じ。

礧

壁に同じ。ツ井。

礧

ヨ。毒石。ねすみころしいし。ガイ。ゲ。さばる。とどまる。さまたぐ。やむ。へだつ。かざる。ふせぐ。

礧

礙質性 ガイネ(理)物質の性質の一、一物質の占むる空間に他の物質をして同時に占有せしめざること。

礧

レキ。リヤク。こいし。つぶて。

礧

礧石 レキキ 小石。礧礧 レキワイ。こいし。いしくれ。礧川 レキシ 小石などの多くある

石部 十三畫以上

幅せまき川。

礧

レイ。ライ。といし。あらといし。みがく。

礧

礧石 レイキキ あらと。質あらしき砥石。礧礧 レイロウ 砥石にかけてみがく。礧砥 レイト 質あらしき砥と質密なる砥。

礧

礧吻 レイワン 鳥などの嘴をこする。クワウ。あらかね。つよし。鑽に同じ。

礧

石の名。ヘン。パン。

礧

一種の礦物、染料に用ひ

礧

礧紅 ベンガ 色赤黒き繪の具。礧精 バンゼイ みやうばん。礧水 バンスイ みやうばんを溶かしたる水。礧沙 バンシ 明礬を膠の液にて溶したるもの、繪の具・墨などの散らぬ爲に絹・紙などにひくに

示部 十三畫以上

用ゆ。

礧

礧水紙 バンスイシ どのさなひきた。ロウル。穀をしらべ。

礧

礧磨 ロウマ 砥石にてとぎみがく。礧礧 ロウレイ はげしく砥石にてと

礧

ハウ。砲に同じ。はじきいし。カク。コク。むちうつ。さがし。ハク。おなじ。おほふ。まじる。ふさがる。しづまる。

礧

示部

示

示教 シキウ みせて教へると。教へ

示

示現 シケン あらはししめすと。神

示部 一一三畫

佛の靈等の現はると。示談 シン 双方の話し合ひにて中なほりすると。和談。示帖 シキウ ばりふた。

一一三畫

社

レイ。ライ。古の禮字。シヨウ。ニヨウ。なる。さいはひ。

社

キ。シ。おほいなり。のびやか。おほし。さかんなり。これ。ゆるし。しづかり。これ。ゆるし。しづかり。大いに寒きと。

社

シ。まつり。とし。やしろ。

社

シヤ。やしる。くにつや

社

しる。あつまり。くみあひ。

社

シヤウ 社の中。社の仲間。

示部 一一三畫

社會 シキウイ 世の中。互に相よりて生活する多數の人民。同じ種類。人々のむれ。労働。

社掌 シヤウ 府縣郷社にて社司の次位の神官。「社のまへ。

社頭 シヤウ やしろのほざり。神

社參 シヤン 神社に參詣すること。

社則 シヤク 會社などの規則。

社務 シム 神社又は會社の事務。

社債 シヤイ (法)會社が債券を發行して募集する金錢に對する債務。

社殿 シヤン 神社の神體を安置す

社祠 シヤシ ほんら。やしる。

社段 シヤダン 神社の階段。

社費 シヤヒ 社團の費用。會社の費用。神社の費用。

社家 シヤケ かんぬし。「分。社地。

社領 シヤウ 神社につきたる領

社鼠 シヤウ 君側の姦臣。

社團 シヤダン (法)二人以上のものが共同の目的を以て設立した

示部 一一三畫

示部 一—三畫

示部 一—三畫

示部 四—五畫

る團體。「其社につとむる人。
社員 シヤクシ 其社を組織せる人。
社説 シヤクシ 新聞雜誌などに其社の説として掲ぐる文章。
社號 シヤクシ 社の名。會社の號。
社務所 シヤクシ 神社の事務を執り行ふ所。「る證券。
社債券 シヤクシ 社債を證明する形式。發達・變遷等を研究する科學。
社會黨 シヤクシ 社會主義を抱任を負へる人。政府の要位を占むる高官。
社會意思 シヤクシ 社會の多數の人の智識經驗が古昔より或は衝突し或は融合し或は同化して成立したる結果。
社會教育 シヤクシ 社會一般の人に教育を施すこと。社會主義によりて行ふ教育。

社會主義 シヤクシ 各人の所有する財産及び地位は社會のものにして社會の各員は平等に其分配に與るものなりとの觀念に基く主義。
社會經濟 シヤクシ (經) 人類が社會を爲し經濟的活動を營むこと。
社會制度 シヤクシ 社會の財産及び階級等に關する制度。
社會政策 シヤクシ 社會問題を解釋せん爲に施行する國家の政策。
社會問題 シヤクシ 社會の經濟上に於ける強者と弱者との利害衝突を和し貧富の懸隔を救済して貧弱者を保護せんとする問題。
社團法人 シヤクシ (法) 一定共同の目的を有して集まれる集合體より成立する人格者。
社會共產黨 シヤクシ 社會主義を以て主義とする黨派。

會共產主義を抱持せる黨派。
社會共產主義 シヤクシ 社會の財産は各人の私有に屬すべきものにあらざるとして土地資本等を社會の共有となさんとする主義。

四五畫

訪 ハウ。ヒヤウ。よものまつり。
祉 ヒ。まつる。
祉 シ。さいはひ。よろこぶ。
祉 シラ。幸福。福祉。
祈 キ。ゲ。いのる。むくゆ。つぐる。やまつり。もさむ。さけぶ。おほいなり。「ふと。
祈禱 キマリ 神佛に祈ると。まじな
祈求 キキウ 祈りもとむると。
祈福 キクフ さいはひを祈ると。

示部 四—五畫

示部 四—五畫

示部 四—五畫

祈念 マシ 神佛をいのり念ずる
祈告 キコク 祈り告ぐる。「こと。
祈天 マシ 天に祈ると。
祈雨 キウ あまごひ。
祈願 キガシ 神佛への願ひ。祈りわがふと。「成就。
祈誓 キキ 神佛に誓ひて祈ると。ぐわんかけ。「祭事。
祈年祭 マシ 豊年を神に祈る
祈年穀 マシ 稲の實のらんとを神に祈ると。「託する寺院。
祈願所 キガシ 祈願の事を依ギ。くにつかみ。おほいなり。やすし。まさに。やむ。いつくしむ。
祠 シ。ほこら。まつり。やしる。はるのまつり。かへりまつり。
祠官 シヤクシ かんぬし。郷社などの神官。
祠前 シヤクシ やしろの前。「や。
祠堂 シヤクシ おたまや。ほこら。み

祠祭 シヤクシ はるのまつりこと。
祠堂金 シヤクシ 堂を建つるなどの料として寺に寄附する金。
崇 ソウ。ス。シユウ。あがむ。たたり。とがめ。
崇拜 シヤクシ 信じあがむこと。あがめたてまつると。「英雄」。
崇重 ソウジュウ たふさび重んずること。かさなりつむと。
崇奉 ソウホウ あがめいたゞくこと。たふとびしたかふと。
崇高 ソウカウ かさなりて高きこと。けたかきと。
崇敬 ソウケイ あがめうやまふこと。シン。シン。あまつかみ。あやし。かみ。たましひ。ひろし。のぶる。おさまる。つつしむ。なやむ。
神人 シンジン 神と人。神のやうに勝れたる人。神通を得たる人。
神木 シンボク 神社の境内などにある樹木。又神樹といふ。

神文 シンモン 誓を立てて神に申すこと。書きたる文。誓文。
神代 シンダイ 神のしるしめし。代。
神功 シンコウ 神の功德。不思議な事。
神仙 シンセン 神と仙人。仙人。
神色 シンシキ 神の色。仙人。
神交 シンカウ 長幼尊卑其他形式に拘らずして赤心を以て交ること。
神官 シンカン かんぬし。神社に仕ふる人。又神職といふ。
神品 シンピン 最もすぐれたる品位
神氣 シンキ 萬物を組成する原素。不思議なる雲氣。たましひ。こころ。
神力 シンリキ 神の通力。不思議な力。
神化 シンカ 不思議なる變化。
神權 シンケン 神の權威。神より授かり又は委任せられたる權力。
神遇 シンゴ 不思議の出會。時と所とを隔てたる人と精神の一致すること。

神怪 シンクワイ 不思議に怪しきこと。
 神傳 シンデン 神より傳へらるること。
 神妙 シンメイ けなげなること。殊勝なること。物のすぐれてあること。
 神佛 シンブツ 神と佛。神道と佛教。
 神社 シンジャ 神を祀るところ。やしろ。ほこら。又神祠といふ。
 神明 シンメイ 神さま。天照皇太神の特稱。「み。」
 神典 シンテン 神の事をしるせるふし。ふしぎに強き兵。
 神奇 シンキ 不思議に珍らしきこと。
 神苑 シンエン 神社の境内にあるそと。神の子孫。「の。」
 神祇 シンキ 天の神と地の神と。「リ。」
 神怒 シンド 神の怒り。「リ。」
 神事 シンジ 神を祭るとき。かみまつ。「リ。」
 神風 シンフウ 神の通力にて起すといふ風。かみかぜ。「と。」
 神託 シンタク 神の御つけ。かみご。「リ。」
 神祕 シンヒ 洩らすべからざる秘密。ふしぎなること。①の作用。

神宮 シンクウ 神のみやしろ。主に伊勢太神宮。
 神威 シンイ 神の威光。
 神號 シンガウ 神の名目。「る馬。」
 神馬 シンバ 神社にて神の料とす。神の靈妙なるはかりごと。
 神謀 シンボウ 神の功徳。
 神德 シンタク 神の功徳。
 神橋 シンカウ 神殿などに架けわたしたる橋。「我國の稱。」
 神國 シンコク 神の開き給へる國。
 神授 シンジュ 神より授けらるること。
 神惠 シンケイ 神のめぐみ。
 神機 シンキ 靈妙なる活動。變化きはまりなきはたらき。
 神勅 シンチヨク 神のおつけ。
 神酒 シンシュ 神に供する酒。
 神速 シンソク 極めてはやきこと。
 神前 シンゼン 神のおまへ。神靈の前。「ろ。」
 神庫 シンコ 神寶を蔵めおくところ。
 神域 シンキ 神を祭れるところ。靈妙きはまるところ。

神符 シンフ 神社よりいだす守札。
 神通 シンツウ 不思議の力。自在になし得る力。
 神智 シンチ 靈妙なる智慧。
 神道 シンダウ 天照太神の教へ示せし道。後には同太神の靈をも齋き祀れることより佛教儒教と並びて一宗教となる。かみのみち。かむながらのみち。
 神童 シンドウ 才智の非凡なる子供。
 神遊 シンユウ 心の空しくなること。
 神意 シンイ 神のみこころ。神の意思。①冒すべからず。
 神殿 シンテン 神を祀れる殿堂。
 神鬼 シンキ 神とおにと。みたま。敬稱。
 神君 シンクン 功德偉大なる祖先の敬稱。「語。」
 神語 シンゴ 神のおこさば。神來の靈驗ある水。「の寶物。」
 神水 シンスイ 神前に供へたる水。
 神寶 シンバウ 神聖なる寶物。神社神來。シンライ 神靈をふきこまれた

神詠 シンテイ 神のよみたりといふ。詠。
 神經 シンケイ 動物の體中にありて知覺と運動とを司る機關。
 神葬 シンサウ 神道の式を用ふる葬式。
 神領 シンリョウ 神社の領地。「式。」
 神聖 シンセイ 至明至善にして測り知るべからざる。いとたふと。きこ。①にして冒す可らず。きこ。②智慧ある計。巧みなるはかりごと。③妙策。
 神算 シンサン 智慧ある計。巧みなるはかりごと。③妙策。
 神廟 シンバウ 神のおたまや。
 神學 シンガク 神につきて研究する科學。
 神罰 シンバツ かみのばら。神のとが。神をまつるに用ふる器具。天子の御位。神より傳來の寶物。三種の神器の稱。
 神劍 シンケン 草なぎのつるぎ。神よりさづかりたる劍。
 神燈 シントウ 神に供ふるともしび。
 神魂 シンコン たましひ。①を奪

神德 シンタク 神のくどく。①明ばる。
 神影 シンエイ 神の畫像。
 神慮 シンリョ 神の思召。みこころ。
 神話 シンワ 太古人智幼稚なりし時代に宇宙の諸現象は神のしわざなりと想像せるによりて生じたる諸種の話。
 神役 シンヤク 神職の役目。
 神拜 シンハイ 神を拜むこと。
 神供 シンク 神の供物。
 神輿 シンウ 神靈を祭れる鳳輦の如きもの。おみこし。「藥。」
 神藥 シンヤク 不思議によくきく良鏡。やたのみかかみ。
 神鏡 シンキョウ 神社の前に立てる鏡。やたのみかかみ。
 神璽 シンシ 八咫瓊曲玉の稱。
 神韻 シンイン 文字又は形象の凡ならぬおもむき。
 神籌 シンチウ 不思議なる策略。すぐれたるはかりごと。又神策といふ。

神譚 シンタン かみのとがめ。神詞。
 神蹟 シンシヤク 絶妙なる音楽若くは詩歌などにいふ語。
 神饌 シンシヤク 神に供ふる供物。
 神髓 シンスイ かなめ。要點。
 神體 シンタイ かみのおすがた。神のみたま。「ざる變化。」
 神變 シンベン 人力の測り得べからざる。神のふしぎなる力。神のみたま。
 神社局 シンジャキョク 内務大臣の意思を承けて神社及び神宮・神職に關する事項を取扱ふ内務省の一局。
 神祕說 シンヒセツ (哲)事物の真相は尋常の理論認識の外に超越せるが故に之を會得せんには沈思して神の靈の祕密に默會せざる可らずといふ説。
 神祕的 シンヒテキ 普通の理論認識の外といふこと。
 神權說 シンケンセツ 君主の統治權

示部 四一五畫

示部 四一五畫

示部 四一五畫

神代杉 ジンダイスギ 杉材の水土の中に埋もれて多年を経たるもの。

神道流 シントウリウ 劍術の一派、常陸鹿島の人飯篠長威齋の創めしもの。

神無月 カネナヅキ 陰曆十月の異神嘗祭 カネナヅキ 其歳の新穀を神に供ふるまつり。

神祇官 ジンギクワン 神祇に關する一切の事務をつかさざりし官。

神祇伯 ジンギハク 神祇官の長。

神經家 シキョウカ 神經の過敏若くは病的なる人。

神經弓 シキョウキウ 脊推骨の背側に突起して弧状を爲す部分の稱。

神經塊 シキョウクワイ 神經細胞より成り身體の或部分に一個若くは數個存在して神經纖維を導くもの。

神經質 シキョウシツ 事物に感じ易く敏捷活潑性急にして優柔不斷なるもの。

神經病 シキョウビョウ 神經の作用が常態を失して學動の常人と異なるもの。

神經系 シキョウケイ 腦・脊髄及び之より出づる數多の神經の總稱。

神經中樞 シキョウチュウシュウ 腦髓・脊髓又は神經塊の總稱にして神經の傳達を受け又は神經に傳達を命ずる作用をなす機關。

神經細胞 シキョウサウバウ 極めて小さくして多くの突起を有する細胞にして神經塊を組成せるもの。

神經纖維 シキョウシニシ 神經塊によりて導かる、絲狀のもの。

神出鬼没 シニシユクキボツ 或は見え或はかくるる事の急なること。

神機妙算 シニシキウサン 不思議なる

はかりごと。

神宮司廳 ジンクウシヤウ 伊勢大神宮に附屬して其神事をつかさどる所。

神道修成教 シントウシウセイキョウ 神道の教派、造化の三神より受けたる心魂を愛養保存することを主旨となすもの。

神道習合教 シントウシウガクキョウ 神道の教派、神儒佛の三道を綜合して立てたるもの、昔は行はれたるも今はなし。

祝 シユク シウ。シウ。のつと。はふり。おる。たつ。いはひ。

祝宴 シユクエン 祝ひのさかもり。

祝意 シユクイ 祝ひの意。をを表す。

祝髮 シユクハツ かみをおろすこと。髮祝砲 シユクハウ 祝意を表するため放つ大砲。

祝捷 シユクシヤウ 勝利を祝ふこと。

祝賀 シユクガ いはひ喜ぶこと。

示部 四一五畫

示部 四一五畫

示部 四一五畫

祝酒 シユクシユ 祝ひて飲む酒。

祝詞 シユクジ 祝ひの意を表することば。又祝辭といふ。

祝祈 シユクキ 祝ひて未來の幸福をいのること。

祝電 シユクデン 祝ひの電報。を發す。

祝福 シユクフク よるこび。さいはい。

祝典 シユクテン 祝ひの儀式。「ち。

祝儀 シユキ 祝ひの儀式。はな。はシラゲ。こんれい。祝ひのことば。

祝日 シユクジツ いはひ日。めでたき日。

祝祭 シユクサイ 祝ひのまつり。

祝筵 シユクエン 祝ひの席。

祝部 シユクベ かりか入ぬしの次に立ちて神に仕ふるもの。「草。

祝文 シユクブン 祝意を書きたる文。

祝肴 シユクヤク 喜びおもふこと。

祝杯 シユクハイ 祝ひの盃。祝ひのさかもり。

祝融 シユクユウ 支那の火の神。火災

祝捷會 シユクシヤウクワイ 勝ちいくさを祝ふ集會。

祝賀狀 シユクガザウ 祝賀の意をのぶる書狀。

祝祭日 シユクサイジツ 祝日と祭日とイウ。ウ。神のたすけ。

祐助 ユウシュウ 神のたすけ。

祐福 ユウフク 大なるさいはい。

祐福 ユウフク キヨ。はらふ。やる。おふ。つよし。しりぞく。ひらく。ちらす。さづ。

祛 ク アウ。エフ。

袂 タビ わざはい。

祚 ソク ソ。ズ。さいはい。とし。

祇 ジ たもつ。くらぬ。

祇 ジ シ。ただ。まさに。

祇 ジ つつしむ。

祇 ジ 「親。

祇 ジ シ。ウ。や。う。や。しく。つつしむ。

祇 ジ シ。クイ。敬。ひ。つ。つ。し。む。

祇 ジ シ。ツ。つ。し。み。仕。へ。る。こと。

祇 ジ シ。ツ。つ。つ。し。み。侍。り。居。る。こと。

祖 ソ ソ。ス。おほぢ。父の父。はじめ。とはつをや。せんと。のつとる。かみ。もと。ならふ。旅に出る時道の神を祭ること。

祖先 ソセン せんぞ。

祖宗 ソソウ せんぞと中頃の祖。現代以前の世々の君主の稱。

祖師 ソジ 佛教の正宗の開基者。轉じて僧の尊稱。特に日蓮宗にて日蓮上人の稱。

祖業 ソゴウ 先祖から傳はる業。しのりの業。を成就す。

祖國 ソコク 自己の祖先以來臣籍の屬する國。自己の本國。他國に對して自國をいふこと。

祖帳 ソチャウ 祖道の時に用ふる幕。送別の宴。

祖述 ソジツ 遠く其道を基として述へ弘むること。

祖室 ソシツ 先祖の家柄。本家。

祖道 ソダウ ソダ。旅路の無難をいのる

示部 四一五畫

示部 四一五畫

示部 四一五畫

ために道祖神を祭ると。送別の意を表して宴會を催すこと。はなむけ。①の宴。

祖席 ソセキ 送別會の席。祖筵。

祖宴 ソセキ 送別の宴。

祖考 ソカウ 男すぢの先祖。

祖妣 ソヒ 女すぢの先祖。

祖餞 ソセツ 酒を携へて行を送ること。旅立のはなむけ。

祖廟 ソベウ 先祖の靈屋。おたまや

祖神 ソシン うちがみ。せんぞの神

祖父 ソフ 父母の父。ぢぢ。

祖母 ソボ 父母の母。ばば。

祕方 ヒョウ 祕密にして人に知らしめざる調薬の方法。

祕本 ヒョク 祕藏の書籍。

祕封 ヒョウ 他に見せざるやうに堅く封をなし置くこと。又そのも

祕事 ヒョウ 祕密なる事柄。「の。

祕密 ヒョウ ひそかにす。なまむ。とづ。きびし。

祕密 ヒョウ ひそかにす。かくして知らせざる。公開せざる。おくのて。奥儀。うちわ。

祕書 ヒョウ 祕藏の書籍。其の人に直屬して機密の事務を掌るもの。

祕術 ヒョウ 人に知らざる術。「お

祕曲 ヒョウ ひめて容易に人に傳へざる音曲。「なる計略。

祕計 ヒョウ 祕密なる計略。不思議

祕訣 ヒョウ おくのて。奥儀。

祕結 ヒョウ 大便のしづり滞りて通ぜざること。「と。又其もの。

祕藏 ヒョウ ひめて大事にかこふ

祕謀 ヒョウ 祕密にしたるばかり

こと。奇妙なるばかりこと。又

祕策 ヒョウ といふ。

祕書役 ヒョウ 銀行商會などに

て重役に直屬して機密事務に

與るもの。

祕書官 ヒョウ 大臣・總督・統

監等に直屬して機密事務を取

るもの。

祕書官 ヒョウ 大臣・總督・統

監等に直屬して機密事務を取

るもの。

扱ふ高等官。

祕色 ヒョウ 色目。かさねの色目。表は經紫にして緯青なる織色

にして裏は薄色なるもの。瑠璃

色。「聽を禁する會。

祕密會 ヒョウ 祕密の集會。傍

傍聽を禁する會議。

祕密會議 ヒョウ 祕密の集會。傍

傍聽を禁する會議。

祕密結社 ヒョウ 存在又は組

織等を祕密にして公に知らし

めざる結社。「す集會。

祕密集會 ヒョウ 祕密にな

る集會。存在又は組

織等を祕密にして公に知らし

めざる團體。

祕密團體 ヒョウ 祕密にな

る團體。存在又は組

織等を祕密にして公に知らし

めざる團體。

祕祭 ヒョウ 新に先祖のたまや又

は其墓に合葬する時に行ふ祭

事。フツ。フチ。はらひ。

いさぎよくす。

示部 六一八畫

示部 六一八畫

示部 六一八畫

祓清 ハツク はらひ清むること。

祓除 ハツク わざはらひをばらひ清

むること。

祓 ハツク コ。グ。さいはひ。

あつし。

祭 サイ サイ。セイ。すすむ。まつ

る。まつり。いたる。たて

まつる。あきらか。まじ

はる。

祭祀 サイ まつり。さいてん。

祭典 サイ まつりの儀式。まつ

り。又祭禮といふ。

祭事 サイ まつり。神事。

祭案 サイ 神に供ふる稷。くもつ

祭日 サイ まつりの日。神祭に

て死者を祭る當日。おほやけの

祭典ある定日。

祭酒 サイ 支那にて學政を掌り

し官。昔大學頭の唐名。まつり

に供ふる酒。

祭服 サイ 祭主又は神官などが

祭典の時に着る衣服。「る文。

祭人 サイ まつりに神靈に告ぐ

祭主 サイ まつりをつかさどる

人。伊勢神宮の神官の長。

祭神 サイ 神社などにまつられ

たる神。神をまつること。

祭壇 サイ まつりを行ふだん。

祭政 サイ 祭事と政事と。まつ

りこと。①一致。「費用。

祭資 サイ 祭事の資金。まつりの

祭官 サイ 祭をする人の總稱。

祭案料 サイ 祭典に關しての

入費の金。

祭政一致 サイ 上古天皇の

皇祖を尊崇したまふは即ち國

家を統御したまふ所以にして

宮殿は神器の王宮と天皇の所

在となかれたりし状態の稱。

票 ヒョウ へう。うご。しるし。

あがる。すみやか。

票單 ヒョウ へう。しるしの手形。切符。

票然 ヒョウ 軽く中空などに上が

るさまに。いふ語。

票目 ヒョウ 切符の番號。

票禽 ヒョウ すみやかに飛ぶ鳥。

票紙 ヒョウ 切手の紙。切符。

テウ。うつせるたま。

祧 ヒョウ せんぞをまつるたまや。

シヤウ。わざはひ。さい

はひ。しるし。めでたき

と。きざし。

祥瑞 シヤウ めでたき前兆。吉瑞

祥雲 シヤウ めでたきざしの

雲。①謎。

祥福 シヤウ さいはひ。

祥月 シヤウ 人の死にし月とお

な。し月。「氣。瑞氣。

祥氣 シヤウ めでたきざしの

シヤウ。わざはひ。

ひのかさ。さかんなり。

キン。やむる。ふさぐ。は

らふ。いむ。いましむる。

つつしむ。あたる。たへ

示部 六一八畫

禁闕 キンケツ 御所の御門。天子の御所。こてん。皇居。又禁廷・禁門・禁中といふ。「や。宮中。」

禁裏 キンリ 天子の御所。おほみ禁戒 キンゲイ いましめ。はつと。

禁錮 キンコ さいめふさぐと。一室内にとらこめて自由を束縛する。法。自由刑の一。輕罪の犯人に科する刑罰。重禁錮・輕禁錮の二種あり。

禁令 キンレイ はつと。禁止の法令。(法)民事上にて他人の權利を害し若くは自己の義務を怠る行為の豫備又は繼續をなすものに對し關係者の請求により其の行為を禁止する爲に裁判官の發する命令。

禁獄 キンコク 獄中に監禁すること。(法)自由刑の一。重罪の犯人に科する刑罰の名稱にして重禁獄・輕禁獄の二種あり。

禁止 キンシ さいしむると。其物事を禁じとむると。發行し。

禁遏 キンアツ せいしむると。禁制 キンセイ 或行為又は或物事をさいしむると。或行為又は或物事を禁じたる法規。

禁酒 キンシュ さいけを飲むをたつと禁烟 キンエン たばこをのむをたつと禁厭 キンエン まじなひ。「と。」

禁體 キンタイ 漢詩の咏物にて其の題に普通使用しがちなる字を禁じてつくること。

禁城 キンシヤウ 天子の御所。天子の住み給ふ城。

禁穴 キンクツ 其所を害せば一命に及ぶべき體中の局部。最も緊要なる箇所。

禁忌 キンキ 忌みて禁すること。禁足 キンソク あしごめ。外出を差止むると。

示部 六一八畫

科する刑罰の名稱にして重禁獄・輕禁獄の二種あり。

禁遏 キンアツ せいしむると。禁制 キンセイ 或行為又は或物事をさいしむると。或行為又は或物事を禁じたる法規。

禁酒 キンシュ さいけを飲むをたつと禁烟 キンエン たばこをのむをたつと禁厭 キンエン まじなひ。「と。」

禁體 キンタイ 漢詩の咏物にて其の題に普通使用しがちなる字を禁じてつくること。

禁城 キンシヤウ 天子の御所。天子の住み給ふ城。

禁穴 キンクツ 其所を害せば一命に及ぶべき體中の局部。最も緊要なる箇所。

禁忌 キンキ 忌みて禁すること。禁足 キンソク あしごめ。外出を差止むると。

示部 六一八畫

禁句 キンク 忌み避くべき詞。人の感情を害するが如き言葉。

禁札 キンサツ 禁止すべきことを記したる立札。制札。

禁聲 キンセイ 鳴りものを差止むる禁物 キンモツ いましめとめたるもの。すかぬもの。好まぬもの。

禁苑 キンエン 御所の御園。

禁壓 キンアツ 強いておし止むると禁斷 キンダン 或行為を明示して一般に禁すること。さいしとめ。殺生一の場所。

禁酒會 キンシュウイ 規約を設けて互に禁酒を勵行し又其の利益を唱導する會合。

禁廷様 キンテイサマ 主上を申し奉る尊稱。又禁裏様さいふ。

禁裏附 キンリツキ 徳川時代に幕府より禁中の守護につけおさし武士の稱。

禁治産 キンチサン (法)心神喪失して法律上自ら財産を管理し處

示部 六一八畫

分するの能力なきと。禁制品 キンセイピン 法律又は命令により有害なりと認めて其輸入を禁止せる貨物。すべて政府が輸送販賣等を禁制したる物品。戰時。

禁治産者 キンチサンヤ (法)禁治産の宣告を受けたるもの。

禁慾主義 キンヨクシユイ (倫)肉體上に關する一切の慾望若くは名譽利害富貴等を得んとする念慮を禁止するを以て道徳に進む手段となす主義。

稟の俗字。ヒン。ロク。たまもの。さいはひ。よし。ふち。

祿仕 ロクシ 秩祿を受けて仕官す祿給 ロクキ ぶち。俸祿。「ること。祿券 ロクケン ぶちだかのかきつけ。祿の代りに受くる公債證書祿制 ロクセイ 俸祿に付ての規則。

示部 九一十畫

祿高 ロクカカ 給與せらるゝ祿の高祿秩 ロクシヤウ ぶち。仕官に對して賜はる手當。給金。又祿俸とい祿物 ロクモノ かづけもの。「ふ。祿米 ロクマイ ぶちごめ。祿盜人 ロクヌスド その任に堪えずして食祿を受くる人。尸位素餐。クワン。コク。そそぐ。まつり。キ。ギ。よし。さいはひ。やすく。ゆたかなり。祺祥 キキヤウ めでたきさが。祺兆 キキヤウ めでたき前兆。さいはひのきざし。

九一十畫

禘 テイ。タイ。王者の大祭。なつのまつり。

禘祭 テイサエ 先祖のまつりごと。なつの祭。

示部 九一十畫

禔 シ。テイ。さいはひ。やすし。いたる。まさに。禔福 シヤク さいはひ。幸福。フク。フ。さいはひ。めぐむ。をさむ。よし。おなじ。たすけ。めでたし。福祿 フクロク 福とろくと。さいはひ。ふしあはせ。「せの人。福人 フクジン 福のある人。しあは福社 フクシャ さいはひ。幸福。福祥 フクヤウ さいはひ。めでたきこと。光明幸福を興ふる訓誨。福音 フクイン さいはひなるおとづれ。光明幸福を興ふる訓誨。福分 フクブン さいはひ。めでたきこと。「民の一を増進す。福利 フクリ さいはひ。利益。人福田 フクデン (佛)敬田・恩田・悲田の總稱。「しき人相。福相 フクサウ 幸福多き人相。福々福者 フクキヤウ さいはひ。福々福茶 フクチャ 黒豆・昆布・梅干など

示部 九一十畫

を加へたる煎茶。「語。

福福 フクフク 福の多きさまにいふ

福壽 フクジュ さいはひ。ことぶき。

福助 フクスケ 脊低くして頭の大な

る人形。又其形したる人。

福沸 フクリカシ 正月に神に供へた

る餅を粥に入れて煮たるもの。

福引 フクビキ 圖を引きて物を分ち

取る。宴會などの餘興に行ふ

わざ。「いはひ。

福徳 フクトク しあはせよきこと。さ

福草履 フクザリ 間にて編みたる

草履。緒太くして白紙を巻ける

もの。

福多味 フクタミ とこぶしの肉さ

腸を刻みて少しく鹽を加へ

たる一種の食品。「病。

福來病 フクライヤウ 頸部のぼる

福神漬 フクジンヅケ 茄子・大根など

を細く切りて味をつけたる醬

油に漬けたるもの。

福祿壽 フクロクジュ 七福神の一、丈

示部 九一十畫

短く頭長き老人が杖つきて、鶴

を従へたる像をいふ。福さ縁さ

壽と。

福壽草 フクジュサウ (植) 高さ二三

寸菊の如き黄色の花を開く、歳

首に床の飾とす。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

福善禍淫 フクゼンカウイン 善人にさ

いはひ悪人に禍のかかること。

示部 九一十畫

禍福 クワフク 福とさいはひと。

禍兆 クワシヨウ わざはひのおこるき

ざし。

禍厄 クワヤク わざはひ。災厄。又禍

殃といふ。

禍災 クワイ わざはひ。災害。

禍心 クワシン 悪しき心。むほん等

を企つる心。「幸。

禍難 クワナン わざはひ。なんざ。不

禍害 クワイ わざはひ。凶事。

禍事 クワイ わざはひ。あしきと。

邪なること。

禍事 クワイ わざはひ。あしきと。

邪なること。

禍事 クワイ わざはひ。あしきと。

邪なること。

禍事 クワイ わざはひ。あしきと。

邪なること。

禍事 クワイ わざはひ。あしきと。

邪なること。

禍事 クワイ わざはひ。あしきと。

邪なること。

示部 十一畫以上

【御】

ギョ。ゴ。いましむる。あ

【御止】

ギョシ。ふせぎとむむ。「止。

【御寇】

ギョウ。あだなふせぐと。

【御侮】

ギョウ。あだなふせぐと。

【禪】

セン。サ。しづか。まつ

【禪宗】

センシュウ。佛教の一派にして、

【禪門】

センモン。「門に入りたる男子。

【禪師】

センシ。法師。知徳高き禪僧に

【禪林】

センリン。禪宗の寺院。又禪閣

【禪僧】

センソウ。禪宗の僧侶。

以上

禪定 ゼンテイ (佛) 入定すること。靈

山に登りて修業すること。

禪味 ゼンミ 禪のおもむき。「け。

禪榻 ゼンダ 禪定を修することしか

禪閣 ゼンカク 攝政又は關白たりし

人の致にして佛門に入りたる

時の稱。

禪學 ゼンガク 禪によりて智慧を開

く學問。禪宗の教學。

禪室 ゼンシツ 禪を修する室。

禪衣 ゼンイ おひすり。「ま。

禪尼 ゼンニ 禪門に入りたる女。あ

禪位 ゼンイ 天子の位をゆづること。

禪法 ゼンポウ 禪學にてなすわざ。

さとりを開くみち。

禪家 ゼンカ 禪宗の寺。禪宗。

禪話 ゼンワ 禪學のはなし。禪談。

禪定門 ゼンテイモン (佛) 男子の戒

名の下に附くる語。

禪讓放伐 ゼンジョウハツバツ 天子の位

を他姓のものに譲り君を放ち

或は伐つこと。

示部 十一畫以上

【禩】

キ。ケ。さいはひ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

【禩】

キ。よし。つぐ。

示部 十一畫以上

示部 十一畫以上

禮金 レイキン 謝禮としておくる金
禮法 レイハフ 禮ののり。「錢」
禮砲 レイハク 敬意を表する爲に發する大砲。
禮參 レイマキ 神佛などに祈願成就の謝禮としてまうづると。
禮遇 レイグ 禮儀あつき待遇。特別待遇。又禮待といふ。
禮辭 レイジ 禮を以て挨拶すること。辭退すること。
禮數 レイスウ 尊卑親疎に相應する禮儀の數をいふ。
禮謝 レイシャ 禮意をのぶること。禮者
禮者 レイシヤ 新年を賀する人。
禮讓 レイジヤウ 禮をつくして人にへり下ること。
禮狀 レイジヤウ 禮を述べたる手紙。
禮拜 レイハイ ながむこと。
禮式 レイシキ 禮儀の式。作法。
禮帽 レイバウ 禮服用の時に冠むる帽子。
禮聘 レイヘイ 禮を備へて人を招くこと。

示部 十一畫以上

禮錢 レイセン 神佛にたてまつる錢
禮堂 レイダウ 寺院にて本尊などを置きて讀經などするところ。
禮盤 レイパン 寺院にて本尊のすゑてある前の高き壇。「衣服」
禮服 レイフク 儀式の時に着用する禮拝堂
禮拝堂 レイハイダウ 宗教上の容體を禮拜する爲に設けたる堂。特に耶蘇教の會堂。「の隱語」
禮寶道 レイハウチ 酒を飲むこと
禮遇停止 レイグワイシ 禮遇をとめたい。ナイ。「らるゝこと」
禰 ちのたまや。
禰宜 チキ 神主の下役。列任官待遇の神官。
禰 タウ。トウ。こふ。つぐる。いのる。もこむ。まつる。
禰 シヤウ。ナウ。ばらふ。しりぞく。
禰祭 シヤウイ 禰ひをばらふ祭り。
禰災 シヤウイ 禰ひをばらふこと。

内部 禾部

論 ヤク。まつりのと。約に同じ。
内 シウ。ニウ。あしあとふむ。ウ。むし。のびる。ゆるやか。
内 ウセキ 漢土を稱していふ。
禹 カ。めざる。あかめざる。わから。まらまら。きざし。あらはる。
禺 キン。とり。いけざる。とりこ。とらへる。
禽 キジウ。さりけたもの。禽獸。キジウ。さり。さり。
禾 クワ。わら。あは。なへ。いれ。

禾部 二一三畫

禾苗 クワベウ 稻の苗。
禾穗 クラスキ 稻の穂。
禾束 クワク 稻の束。
禾本 クワホン 稻のたぐひ。
禾本科 クワホンク (植) 單子葉植物の中竹・すゝき・稻・麥の類を名づく。
禾草類 クワサウルキ 家畜の飼料として栽培する草の禾穀類に似たるもの。
禾穀類 クワコクルキ 稻・麥・粟・稗・黍・蜀黍・玉蜀黍等の總稱。

秃 トク。髪なきこと。かふる。はげる。
秃頭 トクトウ 髪をあげあたま。髪のぬけ落ちたる頭。「さ」
秃痕 トクコン 髪ぬけ落ちたるあ
秃筆 トクシツ 毛のすりきれたる筆。古き筆。自己の文の謙稱。
秃老 トクラウ 秃頭の老人。

禾部 二一三畫

秃木 トクボク 枝も葉もなき枯木。
秃瘡 トクサウ 頭部に發生する一種の皮膚病。「山」
秃山 トクサン 樹木のなき山。はげ
秃頭病 トクトウビョウ 頭髪のぬけ落ちる病。
私 シ。わたくし。ひそか。めぐむ。あひむ。よこしまなること。わたくし。くしに用ふる。わたくし。わがための用事。わた
私人 シジン 公ならぬ一人。
私心 シシン 己の考。私慾をはかる心。
私犯 シハン (法) 債權の原因となる不法行為。「と。官立の對」
私立 シリツ 私人の設立維持する
私交 シカウ わたくしのつきあひ。

禾部 二一三畫

私印 シイン 一人の印章。
私曲 シキョク よこしまなること。わたくし。
私用 シヨウ わがための用事。わた
私有 シヨウ 一人の所有。
私行 シヤウ 私人としての行為。しのびあるき。「の出版」
私生 シセイ 公然たらざる夫妻間
私記 シキ わたくしの訓録。
私會 シカイ ないくゝの會。緣故あるものゝみの集會。
私償 シシヤウ 私しのつぐのひ。
私家 シカ 自分の家。一人の家。
私利 シリ 自分一己の利益。
私門 シモン 自分の家。
私邸 シテイ 自分やしき。「物」
私版 シハン 人民の出版したる書
私見 シケン おのれ一己の意見。
私法 シハフ (法) 私人相互間の權利義務の關係を規定したる法律。「ないくゝの通知」
私信 シシン 公事にあらざる通信。

私書 シヨ 一人の文書。ないしよの手紙。「室」

私室 シヨ ないしよ。自分の私事 シヨ わたくし事。自分一個

私事 シヨ 一家に關係したる事柄。又は一家に關係したる事柄。

私怨 シヨ 己れ一個の怨み。公ならぬうらみ。

私財 シヨ 己れ一個の財産。

私消 シヨ ひそかに消費すること。私益 シヨ 一人の利益。一般に

私淑 シヨ 其人を慕へども其門に及ぶ能はず故に其道を聞き

私通 シヨ 男女の密通すること。私考 シヨ 自分一個の考へ。

私資 シヨ 自分の資産。私恩 シヨ 特別に其人にのみ施す恩。公正ならぬ心より施す恩。一を賣る。

私設 シヨ 私人の設立。個人又は

或一部分のもの、使用に供するための設立。「る財産」

私産 シヨ 一人の所有に屬する私訴 シヨ (法) 犯罪によりて生じたる損害の賠償若しくは贓物の返還等を公訴に附帯してなす訴訟。

私論 シヨ 己れ一己の論。公ならぬ私情 シヨ 自分の便利をはかる心。自分一己の情愛。

私費 シヨ 私人の負擔支出する費用。費用を自ら拂ふこと。

私意 シヨ 自分の意見。自分の考へが儘の心。ひそかにたくらみはかること。偏頗なる熱心。

私製 シヨ 一人の製造。てせい。物かに製すること。

私語 シヨ ひそひそばなし。物かに語る。ささやき。喃喃。

私塾 シヨ 私立の塾。「る心。私慾 シヨ 自分一己の慾。むさば私憤 シヨ 私事のいきどほり。

私謁 シヨ ひそかに御目通りすること。私事の爲に謁を請ふこと。

私議 シヨ ひそひそうはさする。物かに議すること。

私權 シヨ (法) 國家が私人に認めたる權利。私人相互の關係を規定する權利。

私學校 シヨ 私立の學校

私經濟 シヨ 一身一家の經濟

私生兒 シヨ 男女密通して生める子。庶子。ててなし子。

私菓子 シヨ ちこく。淫賣。

私法人 シヨ (法) 私權の主體たる法人。

私設鐵道 シヨ 民間の資本により民間の經營にかゝる鐵道。官設鐵道の對。

私製端書 シヨ 遞信省の製造に係る端書に對して民間の發行にかゝる端書をいふ。

私署證書 シヨ 公正證書の對、一人の作れる證書。

私書偽造 シヨ (法) 手形・證書其他權利義務に關係する私書を偽造又は増減變換すること。

私印偽造 シヨ (法) 他人の印形を偽造行使用すること。

私印盗用 シヨ (法) 他人の印形をぬすみ之を使用すること。

私書偽造行使 シヨ (法) 私書を偽造若しくは増減變換して之を行使用すること。

季 デン。ネン。年に同じ。とし。みのり。

秀 シヨ シユ。ひで。ひいづる。さかんなり。かふばし。うるはし。いなぶさ。

秀逸 シヨ すぐれたるもの。又秀絶といふ。

秀美 シヨ すぐれてうつくしき

秀歌 シヨ 秀逸なる和歌。

秀才 シヨ ぬきいでたる才學。支那にて科擧の試験に及第せしもの、稱。

秀傑 シヨ 衆人にすぐれたるも

秀士 シヨ すぐれたる人。「の。秀拔 シヨ 他にすぐれて秀でたること。「ひかけたる言句。

秀句 シヨ 秀逸なる詞句。巧みに秀實 シヨ 禾穀などの能くみのりであること。

秀出 シヨ ぬきんづること。

秀徹 シヨ すぐとほること。

秀吟 シヨ 秀逸なる詩歌。

秀庫 シヨ 神の寶物をおさめおく。轉じてやしる。神社。

秀靈 シヨ 秀でて靈妙なること。

秀麗 シヨ すぐれて美麗なること。セン。わせごめ。うるち。うるしね。

秉シヨ へい。ヒヤウ。とる。いなづか。いなたば。ひとにぎり。

秉持 シヨ 權力などをとり保つ

秉權 シヨ 權力をさること。

秉燭 シヨ 土器の油皿の中央

乗 にある臍の如きもの、それに燈心をよせかけてとす。

乘桴 シヨ 常の道により従ひて行ふこと。

四畫

秕 ヒ。しひな。けがす。ぬか。

秕糠 ヒカもみぬか。しひな。秕政 シヨ 役にたため政治。よからぬ政治。

杭 カウ。キャウ。わせごめ。うるしね。ベウ。メウ。のきさき。かすか。すこし。時間又は角度を算ふるに用ゆる語。一秒は一分の六十分の一。

秒時 ベウ わづかのじかん。

秒秋 ベウ 陰曆九月の異稱。

秒忽 ベウ 極めて細かきこと。いふ語。

科

クワ。ほど。かぎり。しな
 じな。もと。なを。ち。う
 つる。あな。かす。うつけ
 たり。しげる。とが。

科目 クワセウ 物事の区分。箇條。
 科程 クワイ 學科などのほごあ
 ひ。しな。

科人 クワシ 罪を犯したる人。罪
 科帽 クワバウ ぼうしをぬぐも。
 科頭 クワトウ 頭上に帽子などをか
 ぶらぬも。すあたま。

科斂 クワリン ねんぐのとりにたて。
 科料 クワレイ (法) 違警罪の附加
 刑。五錢以上一圓九十五錢以下
 の範圍により其の輕重に應じ
 て犯人より徵收す。

科學 クワガク 假定のの上に立ちて特
 殊なる現象の原理に關し概括
 して系統的に論述證明せる學。
 科學的 クワガクテキ 個々の事實に
 就き秩序なき想像又は意見に
 あらずして概括して系統を立

科斗書

て論述し證明するさまにいふ
 語。
 シウ。シユ。あき。つむ。
 をさまる。あがる。わし
 る。さき。おり。

秋

秋天 シウテン あきの空。
 秋心 シウシン ものさびしき心。も
 のなしき心。心のかはるこ。
 秋意 シウイ 秋の風情。「祭。
 秋社 シウシャ 秋の社日。秋の鎮守
 秋懷 シウクワイ 秋のおもひ。
 秋月 シウグツ 秋の夜の月。
 秋日 シウジツ 秋の日。秋陽。
 秋分 シウブン 二十四氣の一、晝夜
 平分の日。秋の彼岸の中日。
 秋水 シウスイ 秋の頃よく澄みわた
 りたる水流。くもりなき利刀。
 ◎三尺の鐵斷つべし。
 秋色 シウシヨク 秋の風景。◎日光の
 秋風 シウフウ 秋ふく風。情の薄く

秋思 シウシ 秋の思ひ。淋しき思ひ
 秋波 シウハ 秋のなみ。いるめ。よ
 こめ。婦女の媚を寄する目つき
 秋冷 シウレイ 秋の冷やかなるこ
 秋の冷しき氣。「いれ。
 秋收 シウシウ 穀物などの秋の取り
 秋郊 シウカウ 秋の野邊。
 秋季 シウキ 秋の節。秋のすゑ。
 秋涼 シウリヤウ 秋のすすしさ。陰曆
 八月の異稱。

秋晴 シウサイ 秋の晴れたる日。
 秋霖 シウリン 秋のながあめ。
 秋景 シウケイ 秋の景色。「ふ音。
 秋聲 シウセイ 秋風の木の葉をばら
 秋興 シウキョウ 秋のながめのなも
 しるみ。
 秋雨 シウウ 秋ふるあめ。
 秋扇 シウセン 寵愛の衰へて捨てら
 れたるに譬へていふ語。
 秋氣 シウキ 秋のけしき。秋の氣候
 秋霧 シウム 秋立つきり。
 秋毫 シウガウ 極めて僅かなると又

秋

は極めて小さきことにいふ語。
 シウ。シウ。あけがた。
 シウ。秋の曇り空。
 シウ。秋のしも。刑罰の明
 かなること。

秋分點 シウマンテン (天) 太陽が赤
 道の北より南に向つて通過し
 て赤道を直射する點。
 秋海棠 シウタイダウ (植) 濕地に生
 じ斜狀心形の葉を有し淡紅色
 の花を開く。觀賞用として栽培
 せらる。

秋津洲根 アキツシマネ やまごしま
 ね。大日本國の異稱。
 秋霜烈日 シウサウレイジツ 權威のお
 こそかなること。又は刑罰の明
 かなることにいふ語。
 秋季皇靈祭 シウキウワレイサイ 大祭
 日の一、秋の彼岸の中日に行は
 せらる。皇靈祭。
 シウ。秋の本字。

五畫

柜

キヨ。
 くるきび。

柢

キ。
 みのる。

柘

セキ。シヤク。
 百二十斤。

秩

チツ。イツ。つむ。しなじ
 な。つかさ。ととのへる。
 ついづる。つく。ものし
 る。あきらか。つらなる。

秩次

チツジ 順序。ついで。

秩序

チツジヨ 物事の條理又は順序

秩祿

チツロク その人の官等の次第
 によりて賜はる祿高。ふち。

秩秩

チツチツ 清くあきらかなるさま。
 ま。流行して已むなきさま。つ
 り。しむさまなどにいふ語。

秩然

チツゼン ちやんと順序だちて
 あるさまにいふ語。

秧

アウ。ヤウ。
 なへ。

秧苗

アウヘウ 稻のなへ。

秧穰

アウキョウ 禾穀の密生せるさま
 にいふ語。

秦

シン。ジン。
 あは。はだ。

秦皮

シンヒ (植) とれりこ。

秦風

シンフウ 西の風。

秤

テイ。シヨウ。
 はかり。「目方。

秤量

シヨウリヤウ はかりにかけたる

秤目

ハカリメ 物の目方。衡に盛り
 たる貫・匁・分・厘等の標目。

秤索

シヨウサク はかりのひも。

秤匠

シヨウシヤウ 秤を造り又は賣る
 人。秤師。

秣

バツ。マツ。
 まぐさ。かふ。

稔

レイ。リヤウ。
 としよはし。

關する國家の規定。「す稱」
稅稻 ゼイタク 米つぎものにさし出
稅廩 ゼイリン 貢米を藏め置く倉。
稅務署 ゼイムシヨ 内國稅に關する
 事を取扱ふ役所。
稅務屬 ゼイムシヨク 稅務監督加若く
 は稅務署に屬して稅務上の庶
 務及び檢査に従事する判任官。
稅務官 ゼイムシヨウ 稅務を取扱ふ
 高等官。
稅金拂戻 ゼイキンハラヒ 一旦徵
 收したる稅金の全部又は一部
 を納稅者に還へすこと。
稅務監督局 ゼイムカントクキョク 大藏
 大臣の管理の下に内國稅に關
 する事務を監督する所。
稀 キ 薄く、いぬあは。
稀薄 キハク 薄く、いぬあは。液體氣體な

どの密度の薄きと。
稀少 キウシウ 少なきと。まれなる
 と。◎人口。
稀疎 キマばらなること。
稀有 キウメツラしきと。ふしぎ。
 多くなきと。◎一の珍事。
稀硫酸 キウサン 水を加へて稀薄
 にしたる硫酸。
 八一九畫
稠 チウ。テウ。きびし。ひそ
 か。おほし。さかん。しげ
 し。うごく。やはらぐ。
稠密 チウミツ しげきと。家なごの
 建て込みて、みあふと。◎人家
 稠人 チウジン 人ごみ。人のむれ居
 リン。ヒン。うくる。たま
 ばる。そなへる。あたへ
 る。稟の本字。
稟求 リンキウ ねがひもさむると。
稟申 リンシン 上官などに事を申上

ぐる。又稟日といふ。
稟告 リンコウ 上の人に對して事を
 告ぐる。つけしらすと。
稟帖 リンテツ 請願の文書。
稟性 リンテイ 天より受け得たる性
 質。うまれつき。又稟質といふ。
稟請 リンテイ 上に申立て、ねがふ
稟賜 リンメイ 下したまはると。「と。
稟復 リンブツ こたへると。へんじ
 する。と。
稜 ロウ。リョウ。かご。
稜稜 リョウリョウ かどかどしきさま
 又ばきびしきさまにいふ語。
稜威 リョウイ みいつ。強き勢ひ。天
 子の御威光。
稜角 リョウカク かご。
稚 チ。ヂ。なまなと。ちひさ
 し。いとけなし。
稚子 チシ 小さなこ。幼兒。又稚兒
稚鷄 チキ ひよこ。ひな。「といふ
稚禽 チキン ひよどり。子どり。

稚兒輪 チヨウ 十歳位の女兒の髮
 の結び方。
植 チヨク。
 早く蒔きたる木。
稗 ハイ。ベ。ひえ。
 こまかし。ちひさし。
稗史 ハイシ 世間話・風説などを書
 きたるもの。歴史的に書ける小
 説。◎小説。
稗官 ハイクワン 小役人。ひくき官職
 シン。ニン。
稔 シン。みのるとし。
 うむ。みゆる。とじ。
稱 ショウ。ほむ。とぐる。は
 かる。あぐる。となふ。よ
 ぶ。かなふ。こころよし。
稱號 ショウガウ となへ。よび名。又
 稱呼といふ。
稱贊 ショウサン ほめたまふると。
稱制 ショウセイ 天子に代りて國政
 を執ると。
稱名 ショウメイ 佛の名號をとなふ
 る。又稱念といふ。

稱量 ショウリヤウ ほごよきかげん。
稱首 ショウシュ 首として其の名を
 稱ふる義にて傑出の士をいふ。
 かしら。
稱讚 ショウサン ほめたたふると。又
 稱揚といふ。「と。
稱美 ショウビ ほむると。たたふる
稱辭 ショウジ ほめことば。
稱貸 ショウタイ 利息つきの貸金。
種 ショウ。シユ。たぐひ。
 しく。ううる。
種子 シユシ(植) 子房内の胚種の
 成熟したるもの。たね。
種卵 シユラン たねたまご。
種禽 シユチン たねどり。
種牛 シユウ たいせうし。
種蠶 シユカイ 作物のうえつけ。
種屬 シユク 又種族に作る。同一
 の部類に屬するもの。たぐひ。
 と。がら。「なわけ。
種別 シユベツ 種類による區別。し
種類 シユルイ 種類。たぐひ。しな。

種痘 シユトウ うえばうさう。
種皮 シユヒ(植) 種子の外皮。
種目 シユモク 種類の項目。
種馬 シユバ たねうま。
種種 シユシ いろ／＼。さま／＼。
 しな／＼。くさ／＼。
種種雜多 シユシヤクダ いろ／＼。さ
 まじりたるさまにいふ語。
 十畫
稷 ショク。シキ。
 あは。みたまや。
稷然 ショクゼン すべてふさふさし
 たるさまにいふ語。
穀 コク。たなつもの。よし。
 いきる。つくる。やしな
 ふ。こめ。もみ。
穀祿 コクロク ふち。ろくだか。
穀旦 コクタン 吉日。よき日。
穀物 コクモノ 米・麥などの總稱。五
 穀。又穀類といふ。
穀倉 コクウ 穀物を入れ置く倉。

穀雨 ヨウウ 二十四氣の一、四月二十日頃に當る。

穀菽 ヨウシユク 米・麥・粟・大豆・小豆等の總稱。

穀言 ヨウゲン 善きことば。

穀斷 ヨウダン 神佛などに祈願して穀物を断ちて食はぬこと。

穀價 ヨウカ 穀物の値段。

稿本 カウ 稿本。カウ。いなくき。わら。したがき。れざらふ。やか。

稿稿 カウ 稿に同じ。

稿本 カウ 稿に同じ。

稿本 カウ 稿に同じ。

稿本 カウ 稿に同じ。

稿本 カウ 稿に同じ。

稿本 カウ 稿に同じ。

稿本 カウ 稿に同じ。

穎性 チョウ さいりの善き性質。

穎穂 チョウ さいり。ほさき。

穎果 チョウ (植) 単胞にして單種子を有する閉果。

積弊 セキヘイ 久しき間の悪弊。年積分 (數) 或函數の微分を知りて其函數を求むること。

積惡 セキアク 古くつゝもつゝの悪事。

積怨 セキオン 古くつゝもつゝの怨み。

積善 セキゼン つもりたる善事。善積習 (セキフ) 昔よりの習はし。久しき間のならばし。

積習 セキフ 昔よりの習はし。久しき間のならばし。

積極 セキヨク 進むこと。續くこと。動くこと。改むること。又は表・陽・正・誠・肯定等を表はす語。

積陰 セキオン うち續きて天氣のはれやかならざること。

積極的 セキヨクテキ 物事の積極なるにふ語。①行動。

積惡除殃 セキアクノヨウ 積りたる惡事のむくひにはわざはひの來るといふこと。

積極主義 セキヨクシギ 向上主義。又は精力主義若くは進歩主義等の稱。

積極義務 セキヨクギム (法) 或事を爲すべき義務。即ち行為の義務。

積善餘慶 セキゼンノヨクイ 積りたる善事の結果自ら幸のむくひ來ること。

積土成山 セキツチヲナス 積み重なる土ぐれが山を爲すといふ義。にて微細なる事物も積れば大に至るといふ義。

積羽沈舟 セキウヲシム 至つて輕き羽毛も積れば舟を沈むるに至るといふ義にて微小なることと油断すべからずといふ意。

積毀銷骨 セキヘイヲマウス 讒言し或

穎性 チョウ さいりの善き性質。

穎穂 チョウ さいり。ほさき。

穎果 チョウ (植) 単胞にして單種子を有する閉果。

積弊 セキヘイ 久しき間の悪弊。年積分 (數) 或函數の微分を知りて其函數を求むること。

積惡 セキアク 古くつゝもつゝの悪事。

積怨 セキオン 古くつゝもつゝの怨み。

積善 セキゼン つもりたる善事。善積習 (セキフ) 昔よりの習はし。久しき間のならばし。

積習 セキフ 昔よりの習はし。久しき間のならばし。

積極 セキヨク 進むこと。續くこと。動くこと。改むること。又は表・陽・正・誠・肯定等を表はす語。

積陰 セキオン うち續きて天氣のはれやかならざること。

積極的 セキヨクテキ 物事の積極なるにふ語。①行動。

積惡除殃 セキアクノヨウ 積りたる惡事のむくひにはわざはひの來るといふこと。

積極主義 セキヨクシギ 向上主義。又は精力主義若くは進歩主義等の稱。

積極義務 セキヨクギム (法) 或事を爲すべき義務。即ち行為の義務。

積善餘慶 セキゼンノヨクイ 積りたる善事の結果自ら幸のむくひ來ること。

積土成山 セキツチヲナス 積み重なる土ぐれが山を爲すといふ義。にて微細なる事物も積れば大に至るといふ義。

積羽沈舟 セキウヲシム 至つて輕き羽毛も積れば舟を沈むるに至るといふ義にて微小なることと油断すべからずといふ意。

積毀銷骨 セキヘイヲマウス 讒言し或

積聚 セキジュ つみあつむること。つりあつまること。

積雨 セキウ 連日降る雨。

積雪 セキセツ 降りつゝもつゝの雪。

積算 セキサン あつめて勘定すること。

積雲 セキウン (地) 地面に近く浮遊して殆ど水平の底面を有する球形の雲塊の集まりたるもの。

積量 セキリヤウ 船舶車馬に積載し得べき分量。

積憤 セキフン つもりたるいきどほ。

積年 セキネン 年をつむこと。多年。

積蓄 セキチク 積み貯ふること。多年のたくばへ。又積儲といふ。

積日 セキジツ つもつた日かす。多くの日。

積德 セキタク つもりたる德行。徳。

積鬱 セキウツ ながらくつゝもつゝの鬱。

積學 セキガク 學問の功を積むこと。

積翠 セキスイ ふかきみどり。松の異名。

積極的 セキヨクテキ 物事の積極なるにふ語。①行動。

積惡除殃 セキアクノヨウ 積りたる惡事のむくひにはわざはひの來るといふこと。

積極主義 セキヨクシギ 向上主義。又は精力主義若くは進歩主義等の稱。

積極義務 セキヨクギム (法) 或事を爲すべき義務。即ち行為の義務。

積善餘慶 セキゼンノヨクイ 積りたる善事の結果自ら幸のむくひ來ること。

積土成山 セキツチヲナス 積み重なる土ぐれが山を爲すといふ義。にて微細なる事物も積れば大に至るといふ義。

積羽沈舟 セキウヲシム 至つて輕き羽毛も積れば舟を沈むるに至るといふ義にて微小なることと油断すべからずといふ意。

積毀銷骨 セキヘイヲマウス 讒言し或

稌 チョウ 稲。

糜 チョウ 糜。

稗 チョウ 稗。

稗孺 チョウ 稗孺。

稗孺 チョウ 稗孺。

稗孺 チョウ 稗孺。

稗孺 チョウ 稗孺。

稗孺 チョウ 稗孺。

稗孺 チョウ 稗孺。

稗孺 チョウ 稗孺。

穴部 三一四畫

穴部 三一四畫

穴部 三一四畫

空華 クワ かすみたる眼にて月を望めば空中に花ある如く見ゆること。煩惱の満ちたる心に種々の妄想の見ゆるにいふ。

空胞 クワウ 内部の空虚なる細胞

空然 クワゼン 何もなく空虚の貌。

空虚 クワキョ 内部に物なきこと。何もなきこと。「無益なる理窟、

空理 クワリ 事實さばなれたる理。

空間 クワカン 上下前後左右に極まりなく廣がりたる場所。すさま(哲)上下・四方・遠近・長短等に

空想 クワウ あてのなき考。とりとめなく空しき思ひ。(心)現實よりかけはなれたる思想。

空漠 クワボク 何もなくて廣々とせると。ぼんやりとして要領を得ざること。

空腹 クワフク 腹のうえたること。

空閑 クワケン そひぶしすべき人の居ぬれや。①を守る。

空蒼 クワサウ あをそら。蒼空。

空談 クワタン 無益なる話。れなしこと。「又空楮といふ。

空紙 クワシ 何も書きてなき白紙。

空林 クワリン 木の葉のおちたる林

空論 クワロン 無益なる議論。より所なき論。實行出来ぬ論。

空濠 クワワ 水のなきほり。

空囊 クワナウ 内部に物のなきふくら。からざいふ。

空取引 クワトリヒキ 實際に物品の賣買を爲さず其相場の高低のみによりて損益の計算を爲す取引。又空相場といふ。

空間美 クワカンビ 繪畫・彫刻等の稱

空氣枕 クワキマク 空氣の漏れざるやうにして空氣を吹き入れ膨らして使用する枕。

空氣銃 クワキキウ 空氣の作用にてたまを打ち出す鐵砲。

空氣洋燈 クワキヤウテイ 光力を強くする爲に心を通して上下に空氣のよく通ふ装置をなせる洋燈。

空氣蒲團 クワキマク 側を空氣の漏れざるやうにし中に空氣を吹き入れ膨らして使用する装置の蒲團。

空空寂寂 クワクワシヤシヤ (佛) 宇宙の有形も無形も其實體自性は空にして何等の思惟をも絶つこと。思慮なきこと。

空即是色 クワクセシキ (佛) 諸法の本體は空なれど因縁の相續により歴然として存在し其まゝに有なりざいふこと。

空中電氣 クワチュウデンキ 空中に現る、電氣。

空中樓閣 クワチュウロウカク あてのなき企圖などに譬へて言ふ語。

空前絶後 クワケンゼツゴ 前にも後にもなきこと。①の大事業。

穴部 三一四畫

穴部 三一四畫

穴部 三一四畫

空也念佛 クワニチンブツ (佛) 天台宗の一派、空也上人を祖とす。

空谷蛩音 クワコクノキョウオン 空谷に聞ゆる人の足音といふ義にて寂しきにわびてある時に出會せしうれしき話などにいふ語。

【穹】

穹窿 クワウリウ 天などの廣大にまろやかなる状。中央高くして兩端次第に垂下せると。半圓形。

穹蒼 クワウサウ あをぞら。蒼空。

穹谷 クワウコク 深き谷。

穹廬 クワウロ 天幕なり。穹窿の如き状を爲したる家といふ義にて匈奴などの住家をいへるより起る。

穹窿形 クワウリウケイ 天空の如く中央高くして側邊の弧状となし垂下する形状。

【窳】

セキ。ジャク。つかあな。よる。チユン。トン。タン。ながきよ。うづむ。あつし。火を以て穴の中を見る。トツ。テツ。つきいづる。なめらか。あざむく。ふる。うがつ。にはか。けむりだし。

【窳】

突進 トウシン つき進むこと。わきめもふらずにつき進むこと。

突然 トウゼン いきなり。不意に。①事に起る。「しぬけ。

突如 トウジツ いきなり。不意に。①

突猝 トウソツ にはか。いきなり。

突出 トウシュツ つきいづること。

突衝 トウシュウ つきあたること。

突騎 トウキ 突進する騎兵。

突擊 トウゲキ 突進してうつこと。①敵に迫る。

突貫 トウクワン ときの聲をあげて敵軍につきかかると。

【窳】

突唇 トウシツ くちびるをたがらすこと。

突過 トウクワ つきやぶりてすぐる

突飛 トウヒ とびぬけてあること。並はづれなると。冒險なる事をすること。

突堤 トウテイ 海中に築造したるご

突入 トウニウ 突きせまると。

突戦 トウセン 突進して戦ふこと。

突兀 トウゴツ 高くけばしくそびゆること。尖りてそびだつこと。

突起 トウキ 急に高くおこること。

突破 トウパ つき破ると。①敵陣を

突梯 トウテイ 圭角なきこと。おさへラウ。みつ。牛馬を養ふをり。牢に同じ。

【穿】

穿窬 センユ 壁に穴をあけ又は牆などを超えて家にひそみ入ると。①そこそこるぼう。小盗人。

立部

立憲 リウケン 憲法を定むる事。
立願 リウケン 神佛などに願う事。
立禮 リウレイ 起立にて行ふ敬禮。
立論 リウロン 議論の順序を定むる事。
立體 リウタイ (數) 平面の對、長さ厚さ高さ有するもの。
立太子 リウタイシ 公式に皇太子を定むる事。

立部

所、即ち帝國議會。
立錐地 リウスイチ 錐を立つる程のせまきすさま。
立體美 リウタイビ 彫刻などにあらはれたる美。
立體角 リウタイカク (數) 三つ以上の平面一點に交りて爲す角。
立憲國 リウケンコク 憲法に基きて國政を行ふ國。
立法機關 リウハクキカン 立法に參與する國家の機關。即ち帝國議會をいふ。
立憲政體 リウケンセイタイ 憲法を立て立法・行政・司法を區別して各獨立機關を設け議會をして立法に參與せしめ元首は其の協賛によりて政務を行ふ政體。
立憲政治 リウケンセイジ 憲法を制定し之によりて政治を行ふ事。
立體幾何學 リウタイキカクガク 立體表面及表面の上に畫きたる圖形に就て論ずる科學。

立部 五十六畫

立憲君主政體 リウケンクニシユセイタイ 君主が主權者となりて憲法を行ふ政體。
立憲代議政體 リウケンダイギセイタイ 立憲政體に同じ。

五六畫

竈 リヨウ。リュウ。たつ。おこる。古の龍字。
竈立 チョリツ たすむ事。

竝 ヘイ。ハウ。ならぶ。あはする。ならびに。あつむ。つらなる。なみ。たすく。並の條を見よ。

站 タツ。すはる。
站足所 タツタシヨ 兩驛間の小驛をいふ。

章 シヤウ。サウ。あきらか。あやなす。のり。あらは

立脚地 リウキョクチ 事を爲すべき基となる所。たちば。一を定む。
立法院 リウハクフ 法律を制定する

竦然 ショウゼン おそれすくむ貌。
竦懼 ショウク 恐れすくむ事。
竦驚 ショウキョウ 驚きすくむ事。
竦縮 ショウシュク ちぢみ屈む事。
竦起 ショウキ ぞつとして立ちあがる事。
竦動 ショウドウ ぞつとして心を動かす事。

章 細川頼之が將士の間に廉耻の氣風を養成し詔諛の弊を絶たんとす。將士の間を周旋せしめ多くのもの、玩弄物となして其の醜態を見せたるもの。
童貞 ドウテイ きむすめ。
童顏 ドウガン こどものかほ。年わかきときのかほつき。白髮一
童形 ドウギョウ 古貴人の子弟の元服前の姿。わらは姿。をさな姿。
童氣 ドウキ 兒供らしきと。わらはじみたる事。
童僕 ドウボク いとけなきつかひをとこ。罪ありて奴僕となれるもの。又童使といふ。
童舞 ドウマツ わらはまひ。
童童 ドウドウ さかんなるさまにいふ語。堂々に通じて用ふ。
童牛 ドウウ 未だ角のなき牛。
童幼 ドウウ 幼少。わらへ。こども。
童體 ドウタイ 兒供のからだ。わら

立部 七十八畫

竦 ショウ。シュ。つつしむ。うごく。あがる。おそる。

立部 七十八畫

童 ドウ。わらへ。しもべ。かぶる。山の草木なき事。
童年 ドウネン いさげなき事。
童男 ドウナン とこの子供。
童女 ドウメウ なんの子供。
童子 ドウジ わらへ。幼な子。こども。又童兒といふ。「心」
童心 ドウシン 幼稚なる心。をさな
童孩 ドウガイ 極めて幼なき小供。みどりこ。
童土 ドウド 草木の生へぬ土地。
童坊 ドウボウ 足利義滿のとき執事

立部 七十八畫

童 細川頼之が將士の間に廉耻の氣風を養成し詔諛の弊を絶たんとす。將士の間を周旋せしめ多くのもの、玩弄物となして其の醜態を見せたるもの。
童貞 ドウテイ きむすめ。
童顏 ドウガン こどものかほ。年わかきときのかほつき。白髮一
童形 ドウギョウ 古貴人の子弟の元服前の姿。わらは姿。をさな姿。
童氣 ドウキ 兒供らしきと。わらはじみたる事。
童僕 ドウボク いとけなきつかひをとこ。罪ありて奴僕となれるもの。又童使といふ。
童舞 ドウマツ わらはまひ。
童童 ドウドウ さかんなるさまにいふ語。堂々に通じて用ふ。
童牛 ドウウ 未だ角のなき牛。
童幼 ドウウ 幼少。わらへ。こども。
童體 ドウタイ 兒供のからだ。わら

立部 七一八畫

童蒙 ドウモウ 幼くして物事の分らぬもの。幼くして物事に暗きもの。①の訓話。

童謡 ドウガウ 兒供の唄ふ歌。はやりうた。①時俗を寓す。

童子格子 ドウシコウシ 子持筋のあら格子編。

竣工 シュンコウ 仕事の出来上ると。落成。①を告ぐ。

竣功 シュンコウ できあがると。成功。又竣成といふ。

族 シ。まつ。うかがふ。シユ。

豎 たて。俗の豎の字。豎立 シュリツ 眞直に立つと。

堅起 シンキ たちたるも。立ちあがりたるも。

立部 九畫以上

九畫以上

端午 タンゴ 五月五日の節句、五節句の一。

端陽 タンヤウ 五月。端午の月。

端愨 タンケツ 正しくまことあること。端衣 タンイ 儀式のさき着る服。禮端月 タンゲツ 正月の異稱。「服端平 タンペイ たいしく平かなること。端末 タンマツ はし。する。端書 タンショ はしがき。はがき。端行 タンカウ 正しき行ひ。正しき歩みかた。「なるも。端的 タンゲキ たゞしきこと。まこと端嚴 タンゲン おごそかにただしきこと。威儀あること。又端莊といふ。端艇 タンテイ はしげふね。ボート。端唄 ハタタ 俗間にて謠ふ今様風

立部 九畫以上

の歌、文句あまり長からず多く二上りの調にてうたふもの。端本 ハホン 全部揃はぬ書籍。鉄本 端面 タンメン (數)角礫の境界面の中にて側面にあらざる兩端の面。

端坐 タンザ 行儀正しくすわると。端然 タンゼン とつひて正しきさまにいふ語。「の人。

端正 タンテイ 正しきこと。①人格。端倪 タンゲイ かぎり。はし。うかふこと。推測すること。②隱見出沒すべからず。

端言 タンゲン 正しき言葉。おちついてものを言ふこと。

端緒 タンショ こぐち。いとぐち。始め。①擾亂の一。

端麗 タンレイ 正しくしてうるはしきこと。②容姿。

端數 タンズ はんげの數。はした。端溪 タンサイ 支那廣東省端溪より産する上等の硯石。

立部 九畫以上

竭命 ケツメイ 事に當りて有らん限りの力を盡すと。

竭論 ケツロン 心に思ふ限りを遠慮なく述べつくして論ずると。

競 ケイ。キヤウ。あらそふ。きそふ。さかんなり。つよし。たかし。にはか。

競争 ケイサウ キソウキソウ せりあふこと。①入札。

競馬 ケイバ 乗馬を駈けて互に其選速を争ひ勝敗を決すると。

競進 ケイシン キソウキソウ せりあふこと。走りくらべすると。

競走 ケイソウ 走りくらべすると。かけつこ。

競合 ケイカウ (法)同一の目的物上に各権利が互に衝突すると。

競漕 ケイソウ こぎくらべ。船にて速力をきそふこと。ボートレース

競逐 ケイソク 争ひ逐ふこと。競先 ケイセン 先きをあらそふこと。

立部 九畫以上

競賣 ケイバイ 多數購買者より呼上げたる價格の内にて最高の額によりて買受人を定むると。せりうり。

競買 ケイバイ 多人數の買手が己が手に入れんと争ひて高價にて買ふこと。せりがひ。「こ。

競奔 ケイホン 先を争ひてはしる競辯 ケイベン 語りくらべすると。いひあらそふこと。

競落 ケイラク 競賣・競買・請負等にて其物事が己れの手に落ちると。せりおち。

競進會 ケイシンカイ 學術・技藝の進歩發達を計らんが爲めに多數の作物を陳列し品評して之を公衆に見せると。

競争入札 ケイソウニラサ 多人數のものに入札せしめて其中の最高價又は最低價の入札者を落札者とする。

競争試験 ケイソウケンケン 多人數の

竹部

竹部

竹凡 タクキ 竹にて造りたる椅子又はテーブルの類。

竹印 タクイン 竹に刻したる印。

竹竿 タクカン 竹ざな。

竹刀 タクタウ 竹ざなひ。

竹枝 タクシ 竹の枝。土地の風俗を詠したる詩。「をーに垂る。

竹帛 タクハク 書籍の異名。①盛名竹亭 タクテイ 竹にて造りし家。竹春 タクシュン 陰曆八月の異稱。竹簾 タクレン たけのすだれ。

竹部

竹圃 チクソ たけのしがらみ。竹のやらい。

竹秋 チクシュ 陰曆二月の異稱。

竹刑 チクケイ 君の命を受けずして私に刑法を作り竹簡に書き置きしこと。

竹林 チクリン たけやぶ。又竹田と竹篾 チクダ 竹をあみてつくりたるいこだ。

竹流 チクリウ 昔金銀を溶して竹簡に鑄込み適宜に切りて通貨とせるもの。『この稱。』

竹簡 チクカン 竹の札。記録・歴史な竹紙 チクシ 竹の幹の中にあるあま皮。薄き鳥子紙。雁皮紙の異稱。

竹園 チクエン 親王・皇子の異稱。竹を植えたる園。竹の園生。

竹葉 チクエフ 竹の葉。酒の異名。竹篾 チクダ 禪家にて人をうち戒むるに用ゆる竹のむち。

竹叢 チクソウ たかむら。たけやぶ。

竹部 二一三畫

竹夫人 チクフジン 夏日涼を取るために竹にて造りたる抱きかこ。

竹醉日 チクスイジツ 陰曆五月十三日の稱。又竹迷日といふ。

竹馬友 チクバトモ おさなきともだち。舊友。仲善き友。幼時共に竹馬に乗りて遊びたる友といふ。

竹帛功 チクハクコウ 書籍に書き記す鳥の子紙。

竹槍席旗 チクサセキ 百姓一揆の持もの。

竹林七賢 チクリンシチケン 支那晋の世に放逸世に背きて竹林の遊びを爲し、七人、即ち嵇康・阮籍・向秀・劉伶・阮咸・王戎・山濤の稱。

二二三畫

〔竺〕 チク たく。トク。たけ。あつし。篤に同じ。

竹部 四畫

竺土 チクド 印度をいふ。

竺典 チクテン 佛經のこと。ロク。ねだけ。

〔笏〕 チク たけのこ。古文の笏字。カン。おかす。

〔竿〕 チク さな。たげざな。カトリ。さなのさき。

竿頭 チクダウ カン。ぼう。

竿棍 チクコン カン。セまること。ちかづくこと。竿牘 チクダク 簡牘のてがみ。

竿露 チクロ 三味線に合せてうたふ俗歌。ウ。チ。ふえ。

〔筭〕 チク おきもの。樂器。ウ。チ。ふえ。

〔笑〕 チク セウ。わらふ。よろこぶ。あむ。ほころぶ。花ひらく。あざける。

笑口 チクコウ おどけぐち。

笑止 チクシ きのどくなること。片腹痛きこと。なかしきと。①一千萬。

竹部 四畫

笑佛 セウボツ 寺院の五重の塔の下層などに安置する佛像。

笑氣 セウキ (化) 亞酸化窒素のこと。

笑聲 セウセイ わらひこゑ。『中。』

笑中 セウチュウ わらふ顔又は心の笑資 セウシ わらひのたれ。

笑破 セウハ 笑ひ倒すこと。價なしとして。笑に附すること。

笑侮 セウブ さげしみ笑ふこと。

笑柄 セウヘイ 笑ひ種。をかしき話。笑納 セウナツ 笑ひをさむること。自分の贈物を他人の受取ることを敬稱。①御一被下度候。

笑倒 セウタウ 笑ひたふすこと。價なしとしてひやかし笑ふこと。

笑談 セウタン わらひながらのもの。がたり。たばむれのことば。

笑樂 セウラク わらひたのしむこと。うちとけたのしむこと。

笑殺 セウシツ かくし笑ひ。笑ひ倒すこと。いたくわらふこと。

笑話 セウワ 笑ふべきはなし。

竹部 四畫

笑語 セウゴ 笑ひながらはなすこと。笑罵 セウバ 笑ひののしる。大聲にて笑ひさばぐこと。

笑顔 セウガン 笑ひがほ。にこにこ顔。笑覽 セウラン わらひながら見ること。人の見ることの敬稱。

笑中有刀 セウチュウウタウ うはべは溫和を装ひ内に害心をふくむをいふ。

〔笏〕 チク コツ。もつ。とる。しやく(東帯の時右手に持つもの。木又は象牙にて造る)。

笏室 チクシツ 方丈のこと。

笏柏子 チクハクシ シクヘウシ 雅樂を奏する時柏子を取る樂器。笏を二枚叩きて鳴す。

〔筭〕 チク シュン。たけのこ。

筭皮 チクヒ たけのこのかは。

筭乾 チクカン ほしたるたけのこ。サツ。セウ。いかき。ざる。

竹部 五畫

〔笏〕 チク ケイ。カン。筭に同じ。キフ。おひばこ。ふばこ。ほんばこ。

笏摺 チクシツ 笏を負ふとき肩にあつるもの。巡禮者の着る一種の袖なき衣。ハ。へ。かきれ。いばらだけ。まがき。あぜがき。

〔筭〕 チク カ。ケ。あしのはぶえ。をさ。こまぶえ。

〔筭〕 チク コウ。ク。ウ。ヘ。ド。ヌ。

〔筭〕 チク とりがこ。とりこ。

笏籠 チクロウ 竹にて造れる籠類。竹婦人。

答捷 チヨウ 勝ちうちつと。
答詬 チヨウ 勝ちうちばづかしむる。

答擊 チキ 勝ちうちてうちたたく。
答責 チキ 勝ちうちてせむる。

【笛】

笛伶 チキ 笛を吹く樂人。又笛生といふ。

【笙】

笙韻 シヤウ 笙の音。笙の聲。サウ。シヤウ。しやうのふえ。ほそし。

【筓】

筓子 シヤウ しやうのふえ。カ。たかな。たかの。

【笠】

笠懸 シヤウ 鎌倉時代の騎射の式。射場に高く綾間笠を掛けて遠矢を射る。

【筭】

カウ。つみ。

【筥】

シ。はこ。

【策】

策命 サク 命書・辭令書・御沙汰書。「する線路」。

策線 サク 軍隊が作戦目標に達する線路。

策馬 サク 馬に鞭うつこと。

策謀 サク はかりごと。①一を運らす。「と。て。だ。て。」

策略 サク たばかり。はかりごと。策書 サク てがみ。文書。辭令書。又は命令書。「る」と。

策士 サク はかりごとを立つる人。策のある人。よく手段をめぐらす。

策名 サク 己の名を君の策に書して臣たる義を明かにする。

策勵 サク 勝ちうちばづかす。

策命使 サク 策命を奉じて行く使者。

答 タク たふ。むくゆ。あたふ。たけのこもつな。あはす。

【答】

答禮 タク 他の禮に答へて己れよりも禮すること。挨拶すること。

答應 タク 答へ應ずること。挨拶すること。

答辭 タク 返答の辭。挨拶の辭。おもに式場などにて目上の人

の式辭に對して述ぶる辭の稱。

答電 タク たへの電報。

答案 タク たへの案文。「し。」

答酬 タク たへの。へんじ。かへ

答辯 タク たへの。いひひらき。

答射 タク 敵に向つて射返すこと。

答拜 タク よきあしらひ。感謝

筒丸 トウ まるがはら。

筥蹄 セン やな。わな。てびき。あふない。目的を達する爲の方便。①譯文。

筥子 セン かんむりのとめ。トウ。ツ。ふえ。

【筒】

筒丸 トウ まるがはら。

筥簪 セン かんざし。ケイ。筥の本字。かんざし。かうがい。

【筥】

筥子 セン かんむりのとめ。

【筒】

筒丸 トウ まるがはら。

の意を表する爲にする拜禮。

答書 タク 返書。へんじ。

答信 タク こたへの音信。

答意 タク 答への意味。答への要領。①明かならず。

答報 タク 答へ。答へかへすと。答砲 タク 先方の禮砲にこたへて此方より發砲すること。

答禮砲 タク 他よりの祝砲に對して返禮する爲に發射する大砲。

答辯書 タク 答へ書。いひひらきの文章。(法)口答辯論にて答辯せんとする事項を記載したる準備の書きもの。

答辯 タク 答へ。答へかへすと。答砲 タク 先方の禮砲にこたへて此方より發砲すること。

答禮砲 タク 他よりの祝砲に對して返禮する爲に發射する大砲。

答辯書 タク 答へ書。いひひらきの文章。(法)口答辯論にて答辯せんとする事項を記載したる準備の書きもの。

答辯 タク 答へ。答へかへすと。答砲 タク 先方の禮砲にこたへて此方より發砲すること。

答禮砲 タク 他よりの祝砲に對して返禮する爲に發射する大砲。

答辯書 タク 答へ書。いひひらきの文章。(法)口答辯論にて答辯せんとする事項を記載したる準備の書きもの。

答辯 タク 答へ。答へかへすと。答砲 タク 先方の禮砲にこたへて此方より發砲すること。

筒車 トウ みづぐるま。チク。ひろふ。樂器。

【筑】

キヤウ。カウ。かたみ。はこ。

【筐】

筐底 キヤウ はこの底。筐篋 キヤウ ものをいれるかご。筐筥 キヤウ はこ。

筐牀 キヤウ 四角な寢臺。筐箱 キヤウ たんす。

【筏】

筏舫 バツ いかだ。かご。バツ。ハツ。いかだ。かご。

【笱】

シヨ。ニヨ。たけのこ。たかな。セン。ふせこ。

【筥】

うへやな。のしつけ。うへやな。のしつけ。

筥蹄 セン やな。わな。てびき。あふない。目的を達する爲の方便。①譯文。

筥蹄 セン やな。わな。てびき。あふない。目的を達する爲の方便。①譯文。

筥漁 セン やなにて魚を捕ふる。キン。ケン。

【筋】

筋肉 キン 高等動物の骨格の周圍に附着し收縮によりて之を動かすもの。

筋骨 キン 筋と骨と。身體。體力

筋力 キン 筋の力。筋の力。筋力

筋書 キン 事の経過又は梗概を書きたるもの。演劇にて脚本を筋書といふ。

筋肚 キン 筋肉の中央の赤色を帯べる柔き部分。

筋纖維 キン 筋肉をなせる無數の細線にして筋肉の收縮作用は主としてこれあるによるもの。

トウ。たぐひ。ともがら。ひとし。ならび。しなま。つ。うかがふ。はかる。しなじな。

トウ。たぐひ。ともがら。ひとし。ならび。しなま。つ。うかがふ。はかる。しなじな。

トウ。たぐひ。ともがら。ひとし。ならび。しなま。つ。うかがふ。はかる。しなじな。

トウ。たぐひ。ともがら。ひとし。ならび。しなま。つ。うかがふ。はかる。しなじな。

トウ。たぐひ。ともがら。ひとし。ならび。しなま。つ。うかがふ。はかる。しなじな。

トウ。たぐひ。ともがら。ひとし。ならび。しなま。つ。うかがふ。はかる。しなじな。

とし。同じ仲間。くみ。「同役。
等輩 トウバイ 身分の同じき仲間。
等式 トウシキ (數) 等號を以て二つの式又は一つの式を一つの數を結びたるもの。「族の區別。
等親 トウシン 親疎の等級による親
等閑 トウカン なほざりなる。おろそかにする。①に付す。
等號 トウガウ (數) 兩數の相等しきを表する爲に用ふる符號。
等角 トウカク (數) 互に相等しき角
等差 トウサ かな。わかち。ちがひ。
等勢 トウセイ ひとしき勢ひ。「と。
等比 トウヒ 二つの比の相等しき
等外 トウガイ 等級の外なるもの。
等級 トウキョウ 上下の等。くらゐ。階級。しな。①選舉。
等身 トウシン 人の體軀と同じ高さ
等邊 トウベン (數) 凡ての邊の長さの同じきと。「その同じきと。
等軸 トウチク (礦) 結晶體の軸の長
等分 トウブン ひとしく分つと。平

分。同じ分量。
等倫 トウリン 同じほごあひ。仲間。
等位角 トウチカク (數) 一直線が二直線となるさき各の直線の同側にある角。
等質體 トウシツタイ (理) 物質分布の割合が何れの方向にも等しき物體。
等方體 トウハウタイ (理) 何れの方向へも物理的性質の等しき物體。
等高線 トウカウセン (地) 地圖上海水面より等しき高さの地を連ねたる線。「の一種。
等置法 トウチハフ (數) 方程式解法の爲め元素の互に交換するさき水素を單位とせる各元素の重量の比。
等時性 トウジセイ (理) 螺旋の振動の如く等しき時間に等しき運動を行ふと。
等比理 トウヒリ (數) 二群の量あ

りて各群の第一の量と第二の量との比相等しく又各群の第二の量と第三の量との比相等しく以下最後の量に至るまで皆斯の如きときは各群の第一の量と最後の量との比は相等しといふ原則。
等壓線 トウアツセン (地) 地圖上氣壓の等しき諸點を連絡せる線。
等温線 トウオンセン (地) 地圖上等しき温度の點を連ねたる線。
等身書 トウシンショ 吾が身の丈と相等しき書の義にして著述の多きことなどにいふ。
等差級數 トウサキスウ (數) 三個又は三個以上の量が一定の法則によりて排列せられ其中の一量と其前項にある他の一量との差が常に同一なるさきは此等の量は等差級數にありといふ。「二邊の相等しき梯形。
等邊梯形 トウベンダイテイ 平行せる

等級選舉 トウキョウセンキョ 選舉者の財産額により等級を設けて各等級によりて其中より議員を選擧せざる制度。
等磁力線 トウリキヨクセン (地) 地球トの地磁力の等しき所を連ねたる線。
等比級數 トウヒキスウ (數) 三つ又は三つ以上の量が常に互ひに一定の比をなしたるとき之を等比級數といふ。
等高曲線 トウカウキョクセン (地) 地圖上海水面より等しき高さの地を連ねたる線。
等方位角線 トウハウチカクセン (地) 地圖上磁氣子午線の方位角の等しき點を連ねる線。
等角直線形 トウカクチキョクセンダイ (數) 一つの直線形の角がそれ他の角に等しきと。
等邊三角形 トウベンサンカクダイ (數) 各邊の相等しき三角形。

〔筈〕 クワツ。クワチ。やはづ。はづ。
筈矢 ハツヤ 矢をへがへる。と。
筈溜 ハツライ 弓弦の矢の筈をうけす所。
〔筆〕 ヒツ。ふで。
筆法 ヒツホフ 文字のかきかた。かきぶり。
筆者 ヒツシャ 文字を書く人。文字を書きたる人。かき手。
筆洗 ヒツセン ふであらひの器。ふでを洗ふと。「に盡し難し。
筆紙 ヒツシ 筆と紙と。文章。①筆架
筆架 ヒツカ 筆を置く器。
筆硯 ヒツケン 筆と硯と。文墨にたつさばるもの。起居の義。
筆意 ヒツイ 文字の結構の趣き。筆づかひ。「字のさま。
筆跡 ヒツキ 筆の跡。書きたる文
筆耕 ヒツコウ 賃錢を取りて書き物を寫すと。寫し書くと。文筆に

よりて衣食すること。賃銀を受けて寫字をなすこと。
筆頭 ヒツトウ 筆の先。物のかしら。第一番。
筆匠 ヒツヤウ 筆を製造する職工。
筆船 ヒツセン 筆のふで。いれ。
筆致 ヒツシ 筆のおもむき。
筆生 ヒツセイ 文字を書きうつすことを業とするもの。
筆記 ヒツキ 書きしるすこと。
筆筒 ヒツトウ 筆をさし。ふでづつ。
筆力 ヒツリキ 筆の力。筆のはたらき。「勢ひ。
筆勢 ヒツセイ 筆の勢ひ。文字の勢ひ。
筆談 ヒツタン 用事を文字に書き顯はして談じ合ふこと。
筆誅 ヒツシュ 文章にいたく攻撃すること。「慢。
筆華 ヒツカ 文詞のあや。①欄
筆勞 ヒツラウ ものを書く勞力。
筆戰 ヒツセン 文章を以て議論を戦はすこと。

竹部 八畫

筥

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

箠

ス井。ツ井。むち。つゑ。ふし。

竹部 八畫

器。易に用ふる長さ三寸許の角なる木。[すに加ふる。]

算入 サシラ かぞへ入るる。か

算筆 サシラ かぞふる。と書く。と

算畫 サシラ 工夫する。と。

算定 サシラ 計算して定むる。と。

算崩 サシラ いしだ。みにしたる縦横の筋ある稿又は模様。

算道 サシラ 古大學寮の課程にして、孫子・五曹・九章・海島・六章

綴術・三開重差・九司・周髀等を授く。

算段 サシラ つもりを考ふる。と。手段を工夫する。と。さいかく。

算當 サシラ かぞへて見當をつくる。と。かんぢやう。

算術 サシラ (數) 記數又は計算を講究する科學。

算法 サシラ かぞへ方。

算命 サシラ 運命をうらなふ。と。

算用 サシラ けいさん。勘定。

竹部 八畫

算數 サシラ 計算したる結果の數

算勘 サシラ ものの數を計算する。と。算盤の道。

算博士 サシラ 古大學寮に屬し算術を教ふる事を司りし役。

算用數字 サシラ 洋算の數字。則ち $0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9$ の稱。あらびや數字。

算定風袋 サシラ 秤の重量を豫め算定しおく風袋。

箕 キ。み。ちり。り。

箕踞 キヨ 兩脚を伸ばし箕形の如くうづくまる。と。「る。と。

箕裘 キヨ 親ゆづりの事業をす

箕張 キヨ みの如くひろがる。と

箕帚 キヨ みとはうき。賤しき業に譬へていふ。めしつかひ。めかけ。はしため。「と。

箕箒之妾 キヨ さまとなる

箕裘之業 キヨ 祖父の業を繼ぐ。と。

竹部 八畫

箔

ハク。バク。すだれ。

箔

箔砂 ハクヤ 金銀の箔粉。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

箒

シウ。シユ。ははき。たけのな。

竹部 九畫

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

筥

カイ。ゲ。うへとなす竹器。タフ。サツ。さす。しるす。コ。カ。かす。およそ。たけのかす。個の條を見よ

竹部 九畫

築城 チラシ 城をきづく。と。地形を利用して堅固なる陣地を構成すること。

築營 チラシ きていとなむ。と。ヘン。あむ。あつむ。あまねし。ひるがへる。むちうつ。ひとつりになりたる書物。首尾全く揃ひたる詩文。

篇首 ヘン 書物のはじめ。

篇什 シシ 書卷を稱する語。

篇技 シシ 文學のわざ。

篇尾 ヘン 編章のをはり。

篇牘 シシ ながみ。

篇帙 ヘン 書冊。卷帙。

篇題 ヘン 書籍の名稱。げだい。

篇目 シシ 書籍などの表題。

篆字 シシ 篆書の文字。「る。と。がまる。つりがねのひぼ

篆刻 シシ 印に文字を刻りつく

篆書 シシ 漢字の書體の一。即

竹部 九畫

ち楷書・隷書の祖たるもの、秦以前には主に之を用ひしが後には鐘鼎の銘題及び符節の文字のみに用ふるこまなれり大小二種あり。

【範】 ハン。ボン。のり。つれ。すすむ。てほん。かた。

範型 ハン。キ。きまつた形。手本。模

範圍 ハン。キ。区域。かこひ。かぎり。

範民 ハン。シ。法律に從ひて民を治むるこ。

範規 ハン。キ。定め。なきて。

範式 ハン。キ。のり。かた。

範疇 ハン。キ。分類。部屬。(哲)外物を認識して之を概念とする時に執る形式、即ち根本的思维的

【篁】 クワウ。ワウ。たけ。たかむら。たかなへ。タカウチ。たけのはやし。タラウチ。節せまりて圓體堅

竹部 九畫

質且つ皮の白き竹。しのだけ。チヨ。チャク。ほし。ただし。著に通じ用ふ。セツ。セチ。ふし。まここへだつ。みさを。とごまる。はた。ほごよし。つづまやか。てうし。

【節】 節日 チヨウ。君王の御誕生日。節日 チニ。氣候のかはりめなどに祝ひを行ふ日。

節士 チヨウ。節義を重んずる人。

節刀 チヨウ。昔出征の大將に天子よりたまはりし刀。

節酒 チヨウ。飲酒の量をほごくにするこ。

節物 チヨウ。時節ノのもの。其節文 チヨウ。のり。みち。あや。

節句 チヨウ。節日の稱。

節期 チヨウ。とき。をり。

節分 チヨウ。四季の時候のかはり日。立春になるべき日。「約。節用 チヨウ。むだを爲さぬこ。儉

竹部 九畫

節次 チヨウ。じゆん。ついで。順序。又節序さいふ。「ふし。節目 チヨウ。かてう。こわけ。歌の節季 チヨウ。陰曆十二月の異稱。年のくれ。月のみそか。「いみ。節忌 チヨウ。月日定まりたるもの節操 チヨウ。みさを守りて變らざる主義又は道徳。

節儉 チヨウ。つづまやかにするこ儉約するこ。質素なる生活を爲すこ。「まるこ。

節約 チヨウ。つづまやかに引きし慾をひかゆるこ。

節略 チヨウ。てころにはぶくこ。

節省 チヨウ。かぎりをつけてはぶくこ。略するこ。

節婦 チヨウ。操止しき女。

節會 チヨウ。古朝廷にて定まりたる公事ある時の集會。

節斷 チヨウ。ふしをきるこ。

節制 チヨウ。つつしむこ。ほごよ

竹部 九畫

くするこ。ひかへめにするこ。

節度 チヨウ。きまり。おきて。のり。ほご。さしづ。げち。

節減 セン。つづめへらすこ。

節鉞 セン。支那にて出征の大將に天子より賜はりしまさかり。

節理 セン。きめ。すぢ。みち。

節符 セン。わりふ。てがた。

節録 セン。よきほごに書きしるすこ。「る録。

節祿 セン。節會の時臨時に賜はる義又は道義。

節義 セン。守りてかはらざる主

節度使 セン。一方面の軍旅を都督し且其諸政を監督する官職。

節甲類 セン。カシ(動)頭部・胸部は明かに區分せられ體の各節に肢ありて二對の觸角を有するもの。

節振舞 セン。ルマヒ。節日の饗應。節分草 セン。フシ(植)毛茛科に屬する宿根草、葉は莖頭に叢生

竹部 九畫

し中に一個の花を着く花は白色にして節分の頃開く。

節用集 チヨウ。手数をばぶきて簡略に當用を引き得らるる一種の辭書。

節足動物 セン。クワウ(動)昆蟲類・蜘蛛類・多足類・甲殻類の總稱。

【箭】 セン。セン。や。すすむ。こだけ。しのだけ。

箭羽 セン。矢につくるはね。

箭幹 セン。矢に用ゐたる竹。や

箭鏃 セン。矢じり。「がら。

箭癩 セン。矢を受けたるきず。やきず。「ふ。

箭眼 セン。やさま。又箭窓とい

箭室 セン。やなぐひ。えびら。シン。カン。いましめ。はりさす。たけ。をしゆる。いさむ。

【箴】 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。

【筵】 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。

竹部 十畫

箴言 シン。忠告の言。則とるべ

箴規 シン。てほん。「き言。シヤウ。サウ。かばこ。はこ。ひさし。くら。くるまや。

【箱】 セン。ヨ。はこ。

箱筥 セン。はこ。

箱裏 セン。はこ。なか。

箱底 セン。はこ。そこ。

【筋】 セン。ワイ。ふるひ。さほし。ふるふ。

筋子 セン。ふるひ。

筋骨 セン。眼高の内後をなすうすき小骨。リヤウ。たけのやな。へい。ひ。ハイ。かんざしへら。みちびく。たうぐし。筵と同字。

【筵】 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。

【篔】 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。箴誨 シン。ワイ。いさめ教ゆるこ。

簡怠 カシイ おこたり。ぬかり。
簡馬 カシイ 兵馬を閑する。
簡擇 カシイ 多数の内よりえらみ
 ざる。①其宜しきを得。
簡練 カシイ 簡擇して練習せしむ
 る。①久しきに亘る。
簡約 カシイ つづまやかなる。
簡略 カシイ てがる。つづまやか
簡要 カシイ 物事をつづまやかに
 したる要點。
簡單 カシイ てみじか。簡畧。
簡法 カシイ 手がるきしかた。簡
 易なる方法。
簡習 カシイ ならふ。
簡靖 カシイ やすらかにしてしづ
 かなる。①の境に立つ。
簡憲 カシイ 寛大なるおきて。
簡拔 カシイ えりぬく。
簡稽 カシイ 兵器をしらべ士卒を
 計る。①の更。
簡明 カシイ 手がるにて分り易き
 こと。①にして其要を盡す。

簡箋 カシイ 紙を細く切り絲
 のく。註りたるもの。「文」
簡牘文 カシイ 手紙の文。日用
簡閱點呼 カシイ 毎年一回在
 郷の豫後備兵を召集して檢閱
 を行ふ。
筭 タン。テン。
 たかむしる。たけのな。
筭筒 タン 横に口ある大いなる
 箱にして中に棚あるもの。「こ
筭瓢 タン 飯をもるざる。ひさ
筭食壺漿 タン 旅行用の辨
 當及び液體を入れる器の稱より
 轉じて旅行の準備にいふ語。
筭食瓢飲 タン 筭ば竹器
 食は飯にて少量の飲食物とい
 ふ義。まづしき生活。
簿 ホ。ハク。フ。フ。ひら。ふ
 だ。すぶる。すだれ。せま
 る。書冊。

簿冊 ホク 帳面。帳簿。又簿書と
 いふ。
簿記 ホク 簿記法によりて日々
 取引出納を帳簿に記入して之
 を整理すること。
簿記法 ホク 日々の取引又は出
 納を規則正しく順序を逐ひて
 各種の帳簿に記載し之が勘定
 整理を爲す方法。
簾 レン。ロン。
 すだれ。たけのたばり。
簾窓 レン すだれのかかつてあ
 るまじ。
簾政 レン 簾の内の政治。主に
 女が口を出してする政治。
簾隙 レン すだれのすき間。
簾風 レン みるをもちて吹き來
 る風。①徐るに至る。
簾鉤 レン すだれをかくるかぎ
簾臺 レン 家の内の一段高くか
 まへて前に御簾を下げる所。
簾屏 レン すだれを屏風。すだ

れのしきり。
簾府 レン 大臣の敬稱。
簾櫳 レン すだれのかゝりたる
 れんじまじ。
簾箔 レン みるすだれ。
簾中 レン すだれのなか。公卿
 大臣・諸侯の内室の敬稱。
簽 セン。ソン。
 か。こ。ふけ。
簽名 セン 支那にて皇帝の御名
 を署するにいふ語。
簽 ハ。ビ。箕を以て米のぬ
 かを去る。ひる。あふ
 りあぐ。
簾汰 ハク 箕を以てよなぐ。
簾却 ハク ばたきかへす。
簾颯 ハク 米を揚げて糠を去る
 エン
簾 のき。
簾端 エン きのき。又簾頭とい
簾下 エン きのきのした。「ふ」
簾椽 エン きのきのたるき。

簾頭瓦 エン ともゑがはら。
籍 セキ。ジャク。ジャ。
 ふみ。ふだ。こさば。ふる
籍没 セキ 財産を官にとりあげ
 らる。こと。
籍口 セキ 口實。言ひまへにす
籍甚 セキ 評判の盛にきこゆる
 こと。聲名はなほだ高きと。
籍籍 セキ 甚だ暗しきさま又は
 甚だ名高きさまにいふ語。
籌 チウ。ヂユ。いた。く。か
 す。とり。はかる。はかり
 こと。
籌畫 チウ ばかりこさをしぐ
籌略 チウ ばかりこと。又籌策
 といふ。
籌算 チウ ばかりかぞふること。
籌度 チウ ばかりかぞふること。
籃 ラン。ロン。か。か。か。か。
 おほか。か。か。か。

籃筐 ラン 竹製のたけかご。
籃仔 ラン 竹製のたけかご。「るごし」
籃輿 ラン 竹製のたけかごのりもの。あじ
簍 ソウ。ス。め。か。ご。よ。れ。か
 し。おしまづき。やぶ。
簍林 ソウ やぶ。たけやぶ。
簍澤 ソウ やぶ。たけやぶ。物事
 の多く集りたる所。
簍入 ソウ 奴婢の暇を得て暫く
 家に歸ると、多くは正月十六日
 と七月十六日に定む。やぶさ
 かり。
籐 ロク。
 はやぶ。まびら。
籐 チウ。ヂユ。
 ふみよむ。
籐 リユウ。
 神の名。
籐 トウ。やぶ。つ。に。か。だ。げ。
 又籐に作る。
籐 ハン。ホン。おほ。ふ。
 おほひ。大なる箕。

竹部 十四畫以上

【錢】

セン。竹の名。ロウ。ル。かご。めかご。つちかご。とりかご。こむる。うるほふ。かがり。

【籠】

籠括 ロウカツ つみくもる。籠羅 ロウラ かごとあみと。轉じて籠絡の意に用ふ。

籠絡 ロウラ 他人を己が術中にくめる。こむと。人心をす。

籠寫 ロウシャ 文字又は繪畫の外廓のみを寫し取る。

籠城 ロウジヤウ 城にたてこもる。籠居 ロウキヨ 家の内にこもり居る。

籠輿 ロウウ かのりのりもの。主に罪人の乗るもの。

籠囚 ロウシウ おしこめびと。籠中鳥 ロウチュウトリ かののうち鳥。轉じて自由のかなはざる。ライ。こごにいふ。ふきもの。ふえ。

竹部 十四畫以上

【籟】

タク。草の名。たけのこのかは。リヨク。ロク。

【籟】

はこかご。ヤク。ふえ。ふだ。かぎ。一種の樂器。セン。ソク。くじ。ふだ。かすさり。つらぬく。しるし。するどし。

【籟】

ヘン。ベン。かたみ。まつりのうづは。

【籟】

籟豆 とうり 支那にて祭の供物を載する竹製の器。

【籟】

たけぐし。サン。

【籟】

はしづつ。はしいれ。リ。かき。まがき。まがき。

籟

籟下 リカまがきのもと。かきれのもと。籟笹 リカ。かき。まがき。

米部

籟

籟畔 リン かき。ほとり。又籟邊 籟垣 リン まがき。「さいふ。籟隙 リン かきのすきま。籟甕 リン かきのぞきする。籟。かたみ。したみ。籟。たけがはら。ふるひ。籟箕 リン 竹にて造れる箕。ワク。ヨク。いとまき。かたむら。ユ。ヤク。よぶ。よばふ。

籟

籟。ユ。ヤク。よぶ。よばふ。

米部

【米】

ベイ。マイ。こめ。よれ。こごめ。ひるむしる。やぶじらみ。

米商 ベイヤリ 米のあきなひ。米のあきなひをする人。米廩 ベイヤリ。こめぐら。米庫。米穀 ベイヤリ。こくもつ。米糶 ベイヤリ。米のぬか。

米部

米偏 ヲン 漢字の偏の名。糠。糶。等の字の左傍にある米の字の稱。「生活費を支ふるもの。

米櫃 ヲビロ 白米を入れおく櫃。米舖 ベイホ こめや。米價 ベイカ 米の値段。「こ。

米粒 ベイヤリ こめつぶ。ちひさき米粉 ベイヤリ こめのこ。米點 ベイヤリ 樹木又は山谷などを點を打つて描きあらはす。

米飯 ベイヤリ こめのめし。米粟 ベイヤリ 米と粟と。米苞 ベイヤリ こめだわら。米納 ベイヤリ 米を金に代へて租税納むる。

米壽 ベイヤリ 八十八歳の賀の祝ひ。米突 イール 佛蘭西國の尺度を計るに用ゐる名。一米突は凡そ我が三尺三寸に當る。

米團 ベイヤリ だんご。米飲 ベイヤリ おもゆ。「たる汁。米瀝 ベイヤリ しろみづ。米をとぎ

米部 三十一畫

米部 三十一畫

【粉】

米糶 ベイヤリ ほしいひ。米相場 コンヤリ 米穀の相場。米穀の投機的取引。米搗蟲 コンツキシム (動) 鞘翅類中頭蟲科に屬し全身褐色にして尾端細く其の體を押しふれば頭を振るさま宛も人の米を搗くに似たるより此の名あり。米商會所 ベイヤリ ワイヤリ 米穀取引所の舊稱。米穀取引所 ベイヤリ トリヒキシヨ 米相場師が米穀の取引を爲す所。

【粉】

國字。もみ。もみながら。米の殻皮を去りたるもの。フン。ホン。こ。こな。おしろい。ぬる。つける。かざる。いろざり。

粉

粉米 フンマイ こな。こめ。白米。粉白 フンバク おしろい。粉飾 フンショウ おしろいを塗つて

粉

飾ると。飾りつくると。こはべをかざると。粉末 フンマツ こな。こ。粉黛 フンタイ おしろいとまゆすみ。こけしやう。粉華 フンカワ かざりつくるひてはなやかなる。粉面 フンメン おしろいをつけたる粉筆 フンビツ ぶのぐふで。粉筐 フンキョウ おしろいばこ。粉潰 フンクワイ 細く粉の如くなりて散る。粉碎 フンサイ こなみぢんにくだくと。はげしく打ちくだくと。粉埃 フンアイ こな。ちり。粉壁 フンベキ 白土又は石灰を以て塗れるしら壁。かべ。粉采 フンサイ 色ざり飾る。粉骨 フンコウ 骨を折りに働くと。粉本 フンポン 畫のしたがり。粉骨碎身 フンコウサンシン 骨を粉にし身を碎くほど辛苦する。

米部 三十一畫

米部 五―六畫

米部 五―六畫

米部 五―六畫

【耗】

ミリメートル、佛蘭西國の尺度を計るに用ゆる名、一耗は我が三厘三毛に當る。

【糝】

しひな。

五六畫

【粘】

デン。ネン。つく。ねばる粘に同じ。

【粘】

粘性 チシキ (理) ねばる性質。流動せんとするとき、各部の互に抵抗を及ぼす性質。「粘土」

【粘】

粘皮 チシキ (礦) 礦脈の兩側にある粘膜 チシキ 皮膚に連続して略其構造を同じし内腔の表面を蔽ふ薄き皮膜。

【粘】

粘體 チシキ (理) 固體と液體との中間の状態をなす物質。

【粘】

粘着 チシキ ねばりつくこと。

【粘】

粘液 チシキ ぬめり。ねばき液汁。

【粘】

粘土 チシキ ねばつち。(礦) 長石を

含める岩石の分解によりて生ずる土壤 「粘性質」

粘土質 チシキ 粘土を多量に含

粘液質 チシキ (心) 刺激を感

受すること運鈍薄弱にして興奮

奮激昂すること少く熱心活氣

の乏しき氣質。

粘液腺 チシキ (生) 粘膜の粘

液を分泌する腺。

粘着力 チシキ (理) 異なる

物體の分子の互に引く力。ねば

りつく力。

粘板岩 チシキ (礦) 泥板岩の

一層凝結したるものにて剝離

し易く通常黒色若くは灰色な

り。

粘着果實 チシキ (植) 牛蒡

の果實などの如く人の衣袂な

ごに粘着するもの。

粘性砂土 チシキ 多量の粘土

の混じたる砂土。

粘性粘土 チシキ 百分中五割

以上の粘土の存在する粘土。

【粘】

コ。

【粘】

そくいひ。

【粘】

ワス。あらし。ほぼ。

【粘】

うさし。しろし。

【粘】

粗容 ソラ そまつのなりかたち。

【粘】

みすぼらしきかたち。「ろと」

【粘】

粗笨 ソラ あらきと。綿密ならざ

【粘】

粗漏 ソラ 不行届きなること。お

【粘】

ち。おろそか。ぬかり。

【粘】

粗野 ソラ いやしくて禮儀に外れ

【粘】

ること。不作法。●朴訥。

【粘】

粗維 ソラ そまつ。ざつ。

【粘】

粗造 ソラ 粗末なる製造。又粗作

【粘】

といふ。

【粘】

粗食 ソラ そまつなるくひもの

【粘】

粗服 ソラ そまつなる衣服。

【粘】

粗暴 ソラ 物事のおろそかにし

【粘】

てあららしきこと。

【粘】

粗忽 ソラ 事をなすに念の入ら

【粘】

ぬこと。そまつかしきこと。「け」

【粘】

粗俗 ソラ 不作法なること。ぶしつ

米部 五―六畫

米部 五―六畫

米部 五―六畫

粗放 ソラ あらきと。しまりなき

こと。めんみつならざること。

粗樞 ソラ 格子のあらきれんじ

まじ。

粗膳 ソラ 粗末なる膳。粗末なる

粗密 ソラ あらきと。こまかきと

粗なること密なること。

粗末 ソラ ゆるかせ。念を入れざ

ること。多く手数を省けること。品

等の下れること。綿密ならざること

粗製 ソラ 粗末なるつくりかた。

精密に人工を加へざること。

粗布 ソラ 織り目のあらき布。

粗面 ソラ あらき面。

粗鄙 ソラ いやしきこと。「ならぬと

粗厲 ソラ あらきと。めのこまか

粗陋 ソラ みやびやかならざること。

粗惡 ソラ 粗末にしてあしきこと。

粗言 ソラ あらあらしき語。無禮

粗炭 ソラ 石炭の一種、光澤なく

して土質をふくむもの。

粗糙 ソラ 買あらくしてざらざ

らすること。

粗醜 ソラ あらくしてみにくき

粗葉 ソラ 粗末なる葉。己が煙草

を人に進むるときにいふ語。

粗大 ソラ あらくしくして綿

密ならぬこと。「かせ」

粗慢 ソラ 心を用ぬざること。ゆる

粗略 ソラ おろそかにやること。

粗着 ソラ 粗末なるさかな。人に

すすむる着の謙稱。

粗衣 ソラ みすぼらしき衣服。

粗酒石 ソラ 葡萄酒を製造す

るとき生ずる沈澱物。「石」

粗面岩 ソラ 面の粗糙なる岩

粗製品 ソラ 粗末なる製作

品。米。綿などの如く精製品の

原料となるもの。

粗密波 ソラ (理) 媒質の或は

粗となり或は密となりて進む

波をいふ。縦波。

粗笨農業 ソラ 磨き土地に

小資本と少勢力とを用ひて營

む農業。

粕 ハク。さけのかす。

粒 しぼりかす。かす。

粒 こめつぶ。いちつぶ。

粒銀 ソラ 銀のつぶになりてあ

るもの。ぎんだま。銀塊。

粒鹽 ソラ 粒の如き鹽。鹽の粒。

粒粒 ソラ 一粒一粒の義。くる

しみの形容。●辛苦の跡。

粒子 ソラ つぶの形したるもの。

粒食 ソラ 穀物をくらふこと。

粒雪 ソラ あられの異稱。

粒リン。のび。

きつれび。ほたるび。

シユク。イク。ヨク。かゆ

しるがゆ。えびす。へり

くだる。よはし。つる。

米部 七一九畫

粵

エツ。ヲチ。ここに。つしむ。かんがふ。あつし。ここに。おいて。

粵

シ。セイ。もち。しとぎ。きび。

粧

シヤウ。サウ。よそほふ。けしやう。シヨク。ツク。あは。

粟

もみこめ。水の名。粟粒。リヤウ。こめつぶ。一る國。粟散國。ソクセンコク。粟粒の如き小な

七一九畫

粳

カウ。キヤウ。うるしれ。うるこめ。俗の杭の字。粳梁。カウヤウ。うるしれ。サン。しらげこめ。うつ

粳

くし。あきらか。ゆたか。つまびらか。いさぎよし。三人の女。

粳

粳然。サシシ。きらびやかなるさまにいふ語。

米部 七一九畫

粳

サシシ。きらびやかに美しきリヤウ。ラウ。あは。おほあは。

梁

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

梁

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

梁

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

糧

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

精

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

精

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

精

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

精

リヤウ。サウ。おほあは。よきこめ

米部 七一九畫

精妙。キョウ。くはしく巧みなると極めてたへなる。

精子。キョウ。動。雌性元素なる卵

精通。キョウ。くはしく通ずる。

精明。キョウ。いさほつきりしたる

精彩。キョウ。ひかり。つや。

精良。キョウ。すぐれてよき。

精悍。キョウ。才智するどくして勇

精勤。キョウ。職務に勉強する。

精根。キョウ。身體精神の元氣。

精密。キョウ。こまかなる。くはしき。なる調査。

精一。キョウ。くわしくしてもつば

精舍。キョウ。寺院。書齋。

精緻。キョウ。極めて精密なる。

精美。キョウ。すぐれて美しき。極

米部 七一九畫

て巧みにして美しき。一と。精微。キョウ。極めてこまやかなる

精忠。キョウ。毫も私意のなき純

精細。キョウ。くはしくこまかなる

精勵。キョウ。きほめてはげむ。

精米。キョウ。搗きて白けたる米。

精粗。キョウ。くはしきとあらき。

精液。キョウ。雄性の生殖器中に生

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

精製。キョウ。念を入れてよく造る

米部 七一九畫

熟練してするごき兵。精靈。キョウ。死者の魂。(哲)自ら

宇宙間に存在する精神若くは

物質の本源。精魂。キョウ。たましひ。

精精。キョウ。つぎめはげむさま又

は十分に見積るさまにいふ語。

精兵。キョウ。よりぬきの兵士。す

るごき兵士。「いなる。」

精好。キョウ。製作のよき。され

精選。キョウ。すぐりぬく。えり

精進。キョウ。(佛)一心に佛道を

修業する。身を清め物いみな

あると。「かり。かやき。

精華。キョウ。物事のきつすぬ。ひ

精神。キョウ。たましひ。こころ。心

意。根本の意義。氣力。

精査。キョウ。くはしくしらぶ。

米部 七一九畫

精緻。キョウ。くはしくしてこまか

なる。精確。キョウ。くはしくたしかなる

精分。キョウ。純粹の成分。滋養分。

精神家。キョウ。精神上の事を重

んする人。「來す病。

精神病。キョウ。精神に異状を

精神的。キョウ。精神上のこころを

重んずるにいふ語。

精製品。キョウ。粗製品に人工を

加へて出来たる品。

精好織。キョウ。練絲を經とし生

絲を緯として織りたる織物。

精進料理。キョウ。肉類を用

ひずおもに菜類・穀類を材料と

したる料理。

精勤證書。キョウ。精勤を賞

米部 七一九畫

其名譽の章として渡す證書。

精力主義。キョウ。身心

の能力を發達完成せしむるを

旨とする主義。

米部 七一九畫

米部 七一九畫

米部 十畫以上

精神生活 セイシキセイタクワウ 生活上の意義がおもに精神上にあると。

精神の活動せると。

精神科学 セイシキガク 精神の作用より生ずる現象を研究の對象とする科学。

クワ。しらげよれ。

稗 あらひよれ。いひ。「れ。

裸米 クライ あらひよれ。かしよ(國字)。かうち。米を蒸してしやしを加へ酒などを作る原料となすもの。

粃 リン。いしみゆる。ソウ。ス。ちまき。

粃 ちまき。米の粉をだんごの如くこれて搦又は笹の葉にまき煮て熱せしめたるもの。

粃 ハイ。へ。しらげよれ。

粃 しらげよれ。

粹

スキ。くだく。くはし。ただし。もつばら。ひとすぢ。まつたし。

粹姿 スキヤ さしきすがた。粹液 スキヤ 物體中より分泌する純粹のしる。

粹白 スキヤ 純白なること。

粹味 スキヤ すぐれたる味ひ。

粹士 スキヤ いきな人。風采のさつぱりしたる人。又粹人といふ。

糊 コ。のり。のりつく。かゆ。みだり。

糊斗 コト のりいれ。

糊刷 コサ のりばけ。

糊口 コロ 身すぎ。世わたり。生計。からく生計を成立つること。

糊塗 コト 分明ならざること。あいまい。一時をこまかしおくと。

糲 ショ。ソ。かて。しとき。いりこめ。しらげ。糲液 ショキ しろみつ。米のさぎ汁。

糲

糲米 ショキ 神に供ふる爲に白けたる米。あらひよれ。かしよれ。キク。コク。こな。

糲 キウ。ク。ほしいひ。いりこめ。

糲餌 キウ ほしいひの兵糧。糲糲 キウ ほしいひ。タウ。

糖 あめ。さとう。

糖分 タウ 砂糖質の成分。

糖蜜 タウ 砂糖にて製する蜜。

糖菓 タウ 砂糖づけの菓子。

糖花 タウ さらめ。氷砂糖。

糖球 タウ ミルクの一名。

糖糲 タウ 菓子の名。こんべいたう。菓子の名。あるへいカウ。コウ。もちいひ。むしもち。くさのもち。

米部 十畫以上

米部 十畫以上

米部 十畫以上

穀

コク。たなつもの。なる。みのろ。みいる。俗の穀。ピ。セ。ハイ。「字。

糠

カウ。ぬか。くづ。もみぬか。あらぬか。

糠桶 カウ ぬかを入る桶。

糠敷 カウ ぬかの中にて破れざるもの。

糠釘 カウ ぬかに釘を打つ如く効力のあらはれぬこと。

糠糲 カウ ぬかともみと。

糠雨 カウ こあめ。きりあめ。

糟 サウ。ソウ。かす。さけの。かす。もろみさけ。

糟粕 サウ さいけのかす。のこりかす。滋味なき殘物。

糟茄 サウ ならづけのなす。

糟瓜 サウ ならづけのうり。

糟糠 サウ かつさぬか。あしき食物。「たる妻。糟糠妻 サウ 貧苦を共にし

糞

サウ。ソウ。あらこめ。もみよれ。くるこめ。サイ。セ。しらげよれ。

糞土 フン きたなきもの。こやし役に立たぬもの。

糞田 フン 田に肥料を施すこと。

糞坑 フン くらそだめ。

糞汁 フン くらそしる。

糞溜 フン かはや。

糞土言 フン 道理なくして賤むべき語。

糜 ビ。ミ。かゆ。ただる。た

糜爛 ビ いたる。つひやす。

糜敗 ビ いたる。つひやす。

糲 サン。シン。まじはる。ねばる。こめつぶ。

糲薯 シン たいきたる魚肉に播

糲

芋又は饅頭粉などを加へてしたる料理。シヤウ。サウ。かざる。よそほふ。リヤウ。ラウ。かて。ほしいひ。

糲餉 リヤウ かて。かれひ。又糲米といふ。「リヤウ。

糲食 リヤウ かりやうまい。かて。リヤウ かりやうまい。かて。ほしいひ。

糲道 リヤウ 兵糧をおくるみちすぢ。敵の絶つ。

糲ハク。ヒヤク。ヘキ。かたにへのめし。クワイ。ケ。

糲 あらぬか。ダ。ナ。ナン。もちこめ。

糲 糲麥 タウ しろむぎ。しらげたる

糲レイ。ライ。あらし。くるこめ。

糲 レイ。ライ。あらし。くるこめ。

糲米 レイ いただしらげざる米

くろまい。
糲飯 レイハンくろまいのめし。
【糲】 テキ。ヂヤク。テウ。
かひよれ。いりよれ。

糲買 テウイ 米穀を買ひ入るゝと
糲米 テウイ 買入れたる米。
糲取 テウイ 同業者より頼まれたる物を他店につきて尋ねあるき買ひ來りて其間の口錢を取るとを業とする。

【糲】 テウ。
糲賣 テウイ 品物を持ちあるきて商ふと。行商。
糲糲 テウイ 米をうりかひするも賣米と買米と。 「競賣物」
糲物 テウイ セリうりにする品。
糲吳服 テウイ 吳服物を行商するも。

糸部

【糸】 ヘキ。ミヤク。ほそきいさ。すくなし。わづか。つらなる。

【糸】 キウ。ク。ただす。糾の俗字。もとる。なまむ。
糲明 テウイ 事理を正して明かにするも。

【系】 ケイ。カイ。つく。かけ。る。つなぐ。つづく。いごぐら。かかる。つらなる。
系列 ケイレイ 配列せらるゝ物事の關係或は性質の共通類似の點に關する一定の法則に従ひ順次連繫せる配置をいふ。
系累 ケイレイ 身のかかはりさなるも。手足まといさなるも。

系譜 ケイフ 先祖より代々の家すぢを記せるもの。系統を圖式によりて記せるもの。又系圖といふ。

系統 ケイトウ 血すぢ。家柄のすぢ。一の原理又は法則の下に個々の事物の間に存する一般の關係を順序を立てて列ねるも。

系統的 ケイトウキキ 系統あるさまにいふ語。
系統的發生 ケイトウキキウイ 單純なる原始の状態より順序を追ひて次第に複雑なる状態に進化するも。

【糾】 キウ。ク。ただし。ただすもさる。すみやか。みづくりのなほ。いと。あきらか。おもむる。
糾罪 キウイ つみを取調ぶるも。
糾察 キウサツ 罪状などを取たしあきらむるも。きんみ。
糾正 キウセイ たいしなほすも。
糾戒 キウカイ 不正をたししていましむるも。
糾訂 キウテイ しらべたすも。
糾劾 キウカク つみをしらべたす

【糾】 キウク つみをたしして殺す
糾繩 キウジヤウ 法を以てたすも。
糾黜 キウテツ つみをたししてしりぞけるも。
糾問 キウモン とひただすも。又糾明といふ。 「さむるも」
糾合 キウカフ とりあつむるも。ま糾紛 キウブン とりみだるも。入り交るも。 「たたびするも」
糾返 キウヘン くりかへすも。あま

三畫

【純】 グリン。かさなる。むすぶ。なほ。白きねりぎぬ。
純袴 グラシ 白きねりぎぬの袴。又それを着くほごの身分。よき身分の人。
純素 グラシ 白のねりぎぬ。
純扇 グラシ 白きうすぎぬを張りたるうちは。
純絨 グラシ 白く細き葛の布。

純袴 グラシ 白きねりぎぬの袴。又それを着くほごの身分。よき身分の人。
純素 グラシ 白のねりぎぬ。
純扇 グラシ 白きうすぎぬを張りたるうちは。
純絨 グラシ 白く細き葛の布。

純袴 子弟 グラシ 子よき身分の人の子供。若君などいふ義

【紆】 コツ。ケツ。コチ。くつ。ふさきいと。

【紆】 ウ。チ。まがる。かかる。つかる。まさふ。

紆曲 ウキョク ぐるぐる廻りめぐると。まがりくねると。
紆紫 ウシ 紫とひめぐると。
紆餘 ウヨ ながりくねると。まはりさほさきと。巧みに言ひ廻すと。氣のふさぎと。氣のむすばれてとけざると。

紆折 ウセツ うねりまがるも。
紆結 ワケマ まさひむすぶも。
紆軫 ウシン いたく思ひわづらひて舒びざると。

【紅】 ク。コウ。べに。
紅友 コウイウ 酒の異稱。 「色」
紅色 コウシヨク くれなゐの色。赤き

紅晶 コウシヨク (鑽) 紅色の水晶。

紅染 コウセン こぞめ。べにぞめ。紅娘 コウニョウ (動) てんとうむしの異稱。

紅白 コウハク あかきと白きと。

紅顔 コウガン 桃色の顔。年若き人の顔。年若き頃の血色うつくし

紅面 コウメン あからがほ。 「き顔

紅塵 コウジン 塵埃の空に掲りて日光に映じて紅色に見ゆるもの。人ごみの多き所。世間の煩はしきと。 萬丈。 「の稱」

紅髻 コウセツ 赤きひげ。歐羅巴人

紅燭 コウロク 紅色のほのほ。(天) 太陽の光球の周圍より高く上騰せる美しき紅色の雲氣。

紅唇 コウシヨク くれなゐのくちびる

紅熱 コウネツ 物の熱して紅となる

紅潮 コウチウ 朝日などにうつりて紅に見ゆる浪。美人などがはぢ

糸部 三畫

糸部 三畫

糸部 三畫

らひて顔をあからむるも。
紅梅 コウバイ(植)梅の種、花冠紅色なり。紅梅色の略。
紅爐 コロロ炭火の盛んにおこりてあるぬり。
紅藻 コウサウ(植)根莖葉の區別判然せざる柔軟藻類にして紅色素を多く含めるもの。「日」。
紅暎 コウテン 光のくれなゐなる朝紅花 コウワ 色のくれなゐなる花
紅女 コウヤウ 機織をなすもの。
紅茶 コウチャ 茶の一種、煎汁の紅色を呈するもの。「名」。
紅藍 コウラン(植)あかねぐさの異名。
紅閨 コウケン 美人のぬや。ぬや。
紅樓 コウロウ 美しき高樓。遊郭。
紅菰 コウコ(植)べにたでの異名。
紅葉 コウジヤ もみぢ。かへで。秋季に變色してあかくなりたる木の葉。「一」潸然。
紅涙 コウルナ 血の涙。美人の涙。
紅筆 コウヒツ 女のかきたる文字。

紅霓 コウゲイ にじ。
紅粉 コウコン 紅と白粉と。
紅裙 コウキン あそびめ。妓女。美人
紅染月 コウゼンゲツ 陰曆八月の異稱
紅葉月 コウエツゲツ 陰曆九月の異稱
紅顔子 コウガンシ 年若き人。美しき人。血色うるはしき人。
紅梅色 コウバイロ 濃き桃色若くは赤に紫を帯びたる色。
紅梅燒 コウバイキ 饅頭粉と米の粉とに砂糖を混ぜ梅花の形に焼きたる菓子。
約文 ヤクブン 文章をつづめて短くするも。約めたる文章。
約束 ヤクダク 互に關係せることに

【約】

つき其の約束につきて互にさりきめおくと。因果。ちかひ。いひかはし。
約諾 ヤクダク 約束してうけあふと
約款 ヤクケン 約束したる個條。
約莫 ヤクバク 大凡。あらまし。
約省 ヤクシヤウ つづめはぶくと。
約略 ヤクリヤク つづむると。省略するも。とりちやむると。
約說 ヤクセツ つづめて説くと。
約定 ヤクテイ ちかひ。とりきめ。
約言 ヤクゲン つづめて言ふと。
約分 ヤクブン (數) 分數式を最も簡單なる既約分數に直すをいふ。
約數 ヤクスウ (數) 甲數を乙數にて割り切り得るとき乙數を其數の約數といふ。
約音 ヤクオン 反切の法によりて二音を一音につづむると。
約論 ヤクロン つづめて論ずると。
約者 ヤクシャ 約束したる人。つづまやかなる人。節儉なる人。

糸部 三畫

糸部 三畫

糸部 四畫

約撰 ヤクセン 大要をつづめて作るも。摘要の撰述。
約束手形 ヤクダクテガタ 手形法により金高支拂場所・期日を定めて振出すてがた。
約束郵便 ヤクダクユウビン 郵便局と特約して定期刊行物又は印刷物を郵送する上に郵便切手を貼用せず一定の期間後其郵送數に對する料金を納むる手續。
約定利率 ヤクテイリツ 當事者の間に互に取極めおきたる利率。チウ。チユ。「率」。
約 ヤク しがひ。
 キ。いとぐち。いさすぢ。あつまる。なさむる。しるす。こととしるし。こぐくり。あらはす。きはまり。ふもと。かはるところ。紀傳體の歴史中に書きたるもの。支那にて

十二年の稱。
紀元 キゲン 一國の起り創めの年。建國の初年。
紀綱 キカウ おきて。おほづな。
紀行 キカウ 旅行の日記。又紀行文といふ。「きて」。
紀律 キリツ 一定の秩序のり。お
紀念 キニン 後の思ひ出にのこしおく物事。かたみ。
紀事文 キジシブン 事實のままをかきたる文章。
紀傳道 キジデン 古の大學寮の四科の一、史記漢書等歴史を教へしこと。
紀傳體 キジデンタイ 歴史の一體、各人物につきてその傳をしるし列ねるもの。
紀念會 キニンカイ 以前ありし物事の記憶を新しくする爲に催す會合。「るいしぶみ」。
紀念碑 キニンヒ 紀念の爲にたてた
紀念祭 キニンサイ 紀念の爲に毎年

又は臨時に其事のありし當日に行ふ祭禮。「ありし當日」。
紀念日 キニンジツ 以前に其物事の
紀念章 キニンチャウ 或物事の紀念のために其場に列したる人なごに與ふる徽章。
紀綱僕 キカウボク 小役人をいふ。
紀傳博士 キジデンハクシ 古大學寮にて歴史の教授を司りし職。
紀事本末體 キジシブンマツタイ 歴史の編纂法の一體、年月の順に拘はらず一事實の終始をまとめて記せるもの。
紀念繪葉書 キニンエガキ 紀念の爲に發行する繪葉書。
索 サク シヤク。もさむる。たづねる。まさふ。さぐる。さがす。いと。つな。なは。つくる。えらむ。
索子 サクシ なは。

【紀】

【紂】

【索】

糸部 四畫

糸部 四畫

糸部 四畫

索求 サクキウ たづね求むること。

索引 サクイン さがし出すこと。書中の事をたやすく探し得るやうに組み立てたる一種の目録。

索然 サクゼン さみしきありさま。又はおもしろみの少きさまにふ語。興味。

索梯 サクダイ なはばしご。索取 サクキ 無理をいひかけて財寶などをとること。「あること」

索居 サクキョ ただひとりさみしく探り求むること。

索敵 サクテキ 敵の動靜又は所在を探り求むること。

索餅 サクペイ 麥粉と米の粉とを煉りて繩の如くねぢりたるもの。

索敵行動 サクテキカウドウ 敵の動靜を探知せんが爲に軍隊の爲す一種の行動。

〔素〕

ソ。ス。しろし。もと。すなほ。むなし。はなばし。ら。はじめ。すべく。まご。

素心 ソシン かれてのこころ。素王 ソウワ 其位なくして王者の徳をそなへたる人。

素素 ソソ きちのままにて飾り氣のなきさまにふ語。

素本 ソホン 訓點或は註解などの記してなき書物。

素侯 ソウコウ 諸侯とならずして其の樂しみあること。

素琴 ソケン かざらざる琴。

素行 ソカウ 平生の行狀。常の行ひ

素因 ソイン もと。おこり。原因。素志 ソシ 平生思ひつづけて居る志。かれてのれがひ。又素心・素意といふ。「なること」

素朴 ソハク きちのままにすなは素質 ソシツ 物の固有の性質。きち未來に發展する基本。素見 ソケン ただ見ゆるのみにて買はぬ。ひやかし。

素望 ソウカウ かれてよりのねがひ。豫てののぞみ。

素封 ソホウ 多くの財産を有せること。金を多く有せること。

素練 ソレン 白色のねりぎぬ。素振 ソウビン 顔色又は舉動の様子。衣服、葬祭の時に用ゆるもの。

素飽 ソハク あきるまでくらふこと。素餐 ソウサン 爲す事もなく食ひつぶしせること。こくつぶしの意。戸位。

素冠 ソクワン 白き冠。飾りなき冠。素履 ソリ 身分も位もなき人。本分をつくすこと。

素食 ソシキ 野菜もののみを食ふこと。まづいものをくらふこと。素讀 ソクダク 文字の意義を解せずよみながすこと。「の衣」

素絹 ソケン 白き絹。僧の着る白組素數 ソスウ (數) 自數又は一の外割り切れざる數。

糸部 四畫

糸部 四畫

糸部 四畫

素養 ソウヤ したち。學問の土臺。かれて習ひ覺えたること。

素焼 ソウキョウ くすりをかけた陶器。つちやき。

素襖 ソウダウ 直垂に似たる服。初は庶人の服。足利時代より武士の服。徳川時代には五等の禮服となる。

素絹甲 ソウケンカウ うのはなをぞし鏡の白體を白絲にて織したるもの。「る人」

素封家 ソホウカ 財産を多く有する人。ソウ。オン。さかんなり。みだる。おほひ。おこる。ソウ。ホン。みだる。まじはる。ゆるやか。まされる。「ふること」

〔紛〕 紛更 フシカウ かきみだして改めが紛争 フシカウ あらそひ。もめ。紛紛 フシシ 亂れ込み入るさま又はもつるさまにふ語。

紛失 フシシ 物の紛れうせること。

紛紅 フシクワン もつれ。もめ。いり亂る。まらざる。紛糾 フシカウ もつれみだれてをさ

紛亂 フシラン もつれみだる。紛錯 フシサク いりまじること。もつれまじること。又紛雜といふ。

紛擾 フシヤウ さわぎ。もめさわぐこと。みだれさわぐこと。紛塵 フシジン わづらはしき俗事。紛議 フシギ もつれたる議論。

紛訟 フシヤウ うちわもめ。こたぐ紛舛 フシサウ もつれそむこと。紛喧 フシケン かまびすしきこと。紛縉 フシカウ まぎれみだること。

紛霏 フシヒ 雪などのひらくこと。ちるさまにふ語。紛鬪 フシトウ みだれた。かふこと。キフ。わかち。ついで。つづる。しな。くらぬ。だん。くび。首級。

級等 キツウ だん。くらぬ。しな。しだい。

級數 キツウ (數) 或一定の法式に従ひて連續する諸數の稱。

紙 シ。紙上 シヤウ かみの上。新聞紙などに記載せる文句の中。紙子 シシ 紙にて仕立てたる着物。紙鳶 シエン たこ。いか。紙糊 シコ はりぬきの人形。又紙偶といふ。

紙型 シゲイ 活版を更に紙の型に採りたるもの。ステレオタイプ。紙帳 シヤウ 紙製の蚊帳。紙背 シハイ 文書などの背面。轉じて記されたる文字以上の意義。眼光 ーに徹す。

紙牌 シハイ 紙のはりふた。紙魚 シイ 書冊・衣類などの温氣のうちに生ずる小蟲にして全身銀色を帯び其尾魚の形をなせるもの。「稱」

紙煙 シエン 支那にて紙巻煙草の

納受 ナウシユ 受けをさむること。
納付 ナウフ 官に納めいること。
納収 ナウシウ 金をさめいること。
納所 ナウシヨ 経費のまかなひどころ。年貢などを納むるところ。
 寺院にて寺務を執る處。寺院にて寺務を執る僧。寺院の執事。
納得 ナウトク 得心すること。合點することのみこと。
納杯 ナウハイ 酒宴を終ふること。またその終ふる際に飲む盃。
納戸 ナウド 貴人の家の中にて衣服調度などを納め置くところ。
納幣 ナウヘイ 幣物をなまむること。
納涼 ナウリヤウ すすむこと。すすみ。
納稅義務 ナウゼキム 租稅を上納すべき義務。
納稅資格 ナウゼキシカク 納稅額の制限を一要件とする或資格。
〔紋〕 ぶん かん。國訓)あや。かたしやう。ふれのひきなは。

紋紗 モシヤ あやをりのしや。
紋日 モシヒ 家の紋と同じく定まりある日。廓などにて衣服を着替へなごする祝日。ものび。
紋羽 モシバ 地厚き綿布の一種。
紋所 モシドコロ 家々にてめじるしとする一定の紋。
紋切形 モシキガタ 通常のさだまりたる仕方。きまり。おさだまり。ぶん。もん。
〔紊〕 ぶん みる。みだる。
紊亂 ブラン みるる。みだす。ハウ。パウ。
〔紡〕 ぼう すぢ。つむぐ。うむ。紡絲 ぼうシ 糸をつむぐ。つむぐ。紡績 ぼうキン 糸をつむぐ。つむぐ。紡績 ぼうキン 綿をつむぎて糸をなす。
紡車 ぼうシャ いととりぐるま。クラ。ケ。くつ。いとぐつ。

〔絆〕 はん ほどす。つなぐ。ゆはへる。絆籠 ハンロウ ほどす。つなきて自由を妨ぐ。絆緊 ハンキチ からみつくと。リ。ス。くみ。
〔組〕 ぐい さすぢ。なる。組下 タミマ 下した。部下。組頭 タカウ 隊長のこと。組織 ソシキ ころへ。くみたて。個々の物を集合して一定の秩序關係を保ちて一體を形成せる状態。組成 ソウジ 各種の材料を用ひて一體を構成せしむること。組組 ソジン ぐみひも。組甲 ソウカ 組みひもにて造れる。組組 ぐみひもの模様をなせる鏡。組總 ソウク ぐみひものふさ。組合 カウヒ 友。仲間。二人以上の

當事者出資を爲して共同の事業を營むこと。(法)行政法上の人格を有し國家及地方團體と並びて特殊の行政組織を有する一種の團體。
組討 クミウチ 敵と引き組みて首を討ち取ること。
組織的 ソシキテキ 個々のものが一定の秩序關係を保ちて一體を爲すにふ語。
組織學 ソシキガク 動物又は植物の組織構造を講究する學問。
組手形 クミテガタ 手形の紛失に備へ又は流通の便を計る等のために振出す數通の同文の手形。ケン。ゲン。つるいと。
〔絃〕 けん ここのいと。
絃琴 ケン こと。
絃索 ケンソク 絲なりもの。
絃妓 ケンキ げいしや。げいき。
絃聲 ケンシ 絲のなり物の音。さみせんの音。

絃歌 ケンカ 三味線などをひきなうして歌うたふこと。①の巻シユウ。シユ。きはまる。きはまり。しぬる。つく。みつる。をばり。をばる。つひに。ことごとく。
終了 シユウ をはる。すむ。しまひ。又終末といふ。
終決 シユウケツ しまりのつくこと。
終年 シユウネン 一年中。一生涯。
終始 シユウシ をはりとはじめと。關係して其経過消長を同じくすること。
終手 シユウテ オくの手。秘藏の手。
終古 シユウコ いつも。久しき年月。①相渝らず。
終生 シユウセイ 生きてゐる間。一生。
終日 シユウジツ ひれもす。一日中。
終局 シユウキョウ 事件の落着。こと。のしまつ。はて。
終身 シユウシン 一生。いきてゐる間。
終結 シユウケツ をはり。しまひ。終

止。(數)定理を構成する第二の部分即ち假設より起り來るべしと主張する所のもの。
終世 シユウセ 世をなはるまで。一生の間。①の恨事。
終成 シユウセイ なしをはる。すむ。
終止 シユウシ をはり。はて。しまひ。
終夜 シユウヤ しますがら。一夜中。又終宵といふ。
終焉 シユウエン 命のをはり。死に瀕せるとき。物事のをはり。最期。
終極 シユウキョク 事のをはり。はて。
終審 シユウシン 一年中。
終期 シユウキ 或物事の終るとき。
終業 シユウギョウ 業をなはる。すむ。
終尾 シユウビ をはり。しまひ。
終朝 シユウチャウ 朝いつばい。朝の間。
終點 シユウテン をはりとなる個所。
終堆石 シユウタイセキ (地)氷河の堆石が氷河の雪線以下に下りて

糸部 五畫

融解するとき殘留して沈積したるもの。

終止言 シユウゼン (文法) 活用言語尾變化の一、文の終に用ひらるゝ言。

終身官 シユウシンカン 有罪の宣告又は懲戒區分の外自ら辭職せざる限りは免ぜらるゝことなき官。

終列車 シユウレツシャ 當日の最後に發する列車。

終結宿主 シユウケツシュ (動) 條蟲が先づ鮭鱒類に寄生し後人體に入りて成熟するが如く先づ或動物を宿主としたる寄生蟲が最後に宿主とするものゝ稱。

終局判決 シユウキョクハンケツ (法) 訴訟の全部又はその一部分を終局する判決。

終身議員 シユウシンギイン 本人の辭職せざる限り解職せらるゝことなき議員、即ち勳勞又は學識

糸部 五畫

によりて勅任せられたる貴族院議員の如し。

終身懲役 シユウシンチョウエキ 昔の刑名、今の無期徒刑に同じ。

終身年金 シユウシンネンキン 勳章に附屬して其勳章受領者に終身の間給與せらるゝ年金。

終身定期金 シユウシンテイキキン (法) 死ぬるまでの間定期に金銭その他の物を給する。

細 シユツ。チユツ。あかし。かがむる。

給 シユツ。チユツ。あかし。かがむる。

紵 シユツ。チユツ。あかし。かがむる。

紵 シユツ。チユツ。あかし。かがむる。

紵 シユツ。チユツ。あかし。かがむる。

糸部 五畫

紺 カン。コン。こんいろ。ふかあいろ。

紺屋 コンヤ そめものや。こうや。紺青 コンキョウ (礦) ぐんじやうの酸濃きものにして細末として繪具とす。

紹介 セウカイ はしわたし。なかだち。ひきあはせ。とりもち。

紹介書 セウカイショ 人を紹介する

紳士 シンシ 道徳正しくみやびやかなる人。身柄のよき人。上流

糸部 五畫

紳商 シンシャウ 上流の地位にある商人。身柄のあるあきんど。

紳淑 シンシュ 紳士と淑女。紳笏 ショウ おほおびとしくやくと即ち文官の朝服。

細心 ショウシン 綿密又は謹慎なる心小膽なること。①事に當る。

細雨 ショウウ 小かき雨。さりあめ。

細字 ショウジ 小かき字。

細行 ショウカウ ショウマシタる行ひ

細奸 ショウカン 度量狭くして性質ねぢけたるもの。小人。

細工 ショウク ショウマカシもの、製造。たくなみ。①を施す。

細人 ショウジン 度量のせまき人。根性のひがみたるもの。

細評 ショウヒョウ くはしき批評。「と。細微 ショウビ ショウマカシと。ちいさき細大 ショウダイ ショウマカシと。おほき

糸部 五畫

細細 ショウシヨウ ショウマカシにいふ

細菌 ショウキン (植) 微菌の一、肉眼を以て見能はざる程の細小なる生物にして他物に寄生して養分を吸収す。「質氏。細民 ショウミン 其日ぐらしの人民。細君 ショウクン 諸侯自らが己れの妻をいひし語。後誤りて他人の妻の敬稱。

細胞 ショウボウ 生物の組織を形成する微粒にして其解剖的原位をなすもの。

細流 ショウリウ ショウミゾ。どぶ。細き流れ

細事 ショウジ ショウササヤかなること。細川 ショウケン 河海はしを擇ばず。

細腰 ショウウシヨウ ショウヤかなる腰。美人

細美 ショウビ ショウマカシに美しきこと

細詢 ショウジュン ショウマカシにさひはか

糸部 五畫

細務 ショウム ショウマカシしたるつと

細箴 ショウセン ショウマカシのだけ。「ると。細箴 ショウセン ショウマカシにとりしらぶ

細論 ショウロン ショウマカシに論ずること。細路 ショウロ ショウマカシ。

細密 ショウミツ ショウマカシに論ずること。細察 ショウサツ ショウマカシに論ずること。細説 ショウセツ ショウマカシに論ずること。細見 ショウケン ショウマカシに論ずること。細書 ショウショ ショウマカシに論ずること。細女 ショウメ ショウマカシに論ずること。細末 ショウマツ ショウマカシに論ずること。細思 ショウシ ショウマカシに論ずること。細目 ショウモク ショウマカシに論ずること。細辛 ショウシン (植) 馬兜鈴科に屬す

糸部 五畫

る草、莖は上昇せず花は整齊にして三瓣紫黑色なり。
細註 サイキウくはしく説きたる註釋。細字にて書きたる註解。
細報 サイハクくはしき報知。
細風 サイフクそよ／＼と吹く風。
細碎 サイサイこまかにくだくと。
細棧 サイセンほそきかけはし。
細作 サイサツかんじや。しのびのもの。まはしもの。又細間といふ。①を放つ。「なる定め。」
細別 サイベツこまかに区分すると。
細波 サイハこまかき波。さざなみ。
細眉 サイビ 三日月形の眉。蛾眉。
細殿 サイテン 宮殿などの周圍にある人の通ふ細長き廊下。
細太刀 ホリダチ 公卿などの束帯のさき佩く太刀。
細胞膜 サイバウマク 細胞の原質の表面を被ふ薄膜。「しある液。」
細胞液 サイバウエキ 細胞中に充滿

糸部 五畫

細胞組織 サイバウシキ 生體が細胞の集合によりて構成せられたるもの。
細密検査 サイミケンサ 軍隊などに兵士などの携帶具、兵器などを細密に検査して悪しきは改めさすこと。
累代 ルサダイ よよ。代代。又累世。累葉といふ。
累累 ルルル かさなり集まる貌にいふ語。うなだるゝ貌にいふ。
累次 ルルジ たびたび。「語。」
累囚 ルルシウ めしうど。さらはれびと。囚人。「ると。」
累功 ルルコウ しきりに勳功を樹つる。「と。」
累日 ルルジツ まいにち。日日。
累加 ルルカ かさなりくははると。
累月 ルルゲツ 月をかさぬると。

糸部 五畫

累反 ルルサ わづらひの及ぶと。
累積 ルルサキ かさなりつむと。
累卵 ルルラン 積み重ねたる卵。危きさまにたとへていふ語。①よりも危し。「すると。」
累拜 ルルバイ しきりに官職を拜命する。「と。」
累祖 ルルソ 代代の先祖。「らみ。」
累恨 ルルコン 日ごろかさなりしう年。又累歳といふ。「と。」
累進 ルルシン ひきつゞきてすすむかほると。
累徴 ルルテイウ しきりに召し出す。「と。」
累重 ルルジュウ 身の繫累となるもの。妻子資産の類。これなり。
累患 ルルケン 度々のわづらひ。
累計 ルルケイ かさなりよせたるかさ。合せたる計算。「連座。」
累座 ルルザ マさぞへ。ひきあひ。
累宿 ルルシュク 月を重ねて宿ると。
累捷 ルルセツ つづげさまのち。

糸部 五畫

累曳 ルルサウ しばらると。罪囚となること。①の辱めを受く。
累進法 ルルシンポウ 或ものが上るに従ひ其割合を多くして順次に進ましむる方法。
累進税 ルルシンゼイ 資財額の多くなるに従ひて税率の高くなる租税。
累累然 ルルルセン つかれたる貌。みすばらしき貌。志を得ざる貌。セツ。セチ。つなぐ。ゆはへる。はなかは。つな。ゆだめ。こゆ。
綯 チウ。チユ。ひく。つむぎつづる。いとぐち。なさむ。わざ。
紬 シ。むらさき。
紫 わかし。
紫篋 シロウ 青き竹やぶ。
紫衣 シニ 紫色の僧衣。
紫房 シロウ 太後の居室。

糸部 五畫

紫緋 シ 紫色と緋色と。身柄ある人のみなりの稱。
紫銅 シドウ (礦) からかれ。
紫蘇 シ (植) 唇形科に屬し葉は紫色の下面を有し花は淡紅色又は紫色なり。葉と果實とを食用に供す。
紫葳 シ (植) 龍膽科に屬する水草にして圓狀心臟形の葉を有し夏花を水上に開く花冠は絲狀に細裂せる縁邊を有し色深黄なり。
紫氣 シキ むらさきの氣。賓客朋友の至らんとする。
紫袍 シロウ 紫の上着。
紫竹 シタク (植) まだけの一種、幹は紫色なり。
紫羅 シラ むらさき色のうすぎぬ(植) いちはつ又はあらせいとの異名。「いも。」
紫芋 シラサオモ あかみを帯びたる。
紫威 シロウシカラ (植) 葉は羽狀複

糸部 五畫

葉を爲し夏秋の交大形筒狀の黄赤花を開く、觀賞用として栽培せらる。
紫雲 シン 紫の雲。(佛) 一道の光明を放てる奇端の雲。
紫檀 シン (植) 豆科に屬する熱帶地方産の木、材は紫色を帯び質堅くしてうるはし、種々の器具に作りて珍重せらる。
紫苑 シン (植) 菊科に屬する草本にして山地に自生し花は頭狀の白色又は紫色を呈じ冠毛あり觀賞用として栽培せらる。
紫烟 シン 姫君の住む所の稱。きざめたばこ。
紫石英 シンメイ (礦) むらさきいろの水晶。「の稱。」
紫微花 シンクワ (植) さるすべり。
紫泥書 シンイ 天子の詔をいふ。
紫奪朱 シンサツシユウ 紫は間色にして朱は正色なり、姦邪の徒正職の士を犯すをいふ。

紫燕子 カキバタ(植)鳶尾科に屬する草本にして、葉は中肋脈を有せず、初夏花を開き通常は紫色なるもの多し、花蓋の内層の片は細長くして鋭頭を有す。かほばな。ふではな。

紫陽花 アザミ(植)虎耳草科に屬し平滑卵形の葉を有し花は美麗の四瓣碧色にして觀賞用に供す。

紫宸殿 シシジシ 京都禁中の正殿大禮を行はせらるゝ所。

紫雲英 レンゲ(植)豆科に屬する草、花梗の上に繖狀の帶紫色花を簇生す。蓮華草。

【架】 ガ。ナ。みだるる。サツ。サチ。まさふ。

【紫】 サツ。サチ。まさふ。紫付 サツからげつくるも。紫紐 サツからげを。からげたるひも。

【絳】 カウ。コウ。あかし。こきあか。絳霞 カウ、春季山の端の赤く照りて棚引ける霞をいふ。赤きかすみ。

【絲】 シ。一毛の十分の一。かひこのいと。いと。絲竹 シチ。いとたけ。くわんげん。絲絲 シシ。春さめの、こまかなる貌。絲毫 シリ。わづかばかりのもの。絲縷 シリ。いとすぢ。絲鞋 シイ。いとすぢにてつくりたるわらぢ。絲製の鞋。

絲瓜 シワ(植)へちまうり。絲烟 シン。きざみたばこ。絲綸 シン。天子のみここのり。絲恩髮怨 シン。少しの恩と僅かの仇と。

【統】 トウ。一につぎ。あさつき。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

【統】 トウ。すべをさむるも。統御 トウ。すべをさむるも。統系 トウ。すぢみち。統合 トウ。一つにすべ合はする。統督 トウ。すべただすとつつか

給恤 キョウシツ めぐみほごこと。
給水 キョウスイ 水を供給すること。
給額 キョウガク 給與する高。
給金 キョウキン 給料として渡す金。
給稿 キョウカウ 物を興へてれざらふこと。「さばし」の仰ぐ。

給助 キョウシュ めぐみほごこと。
給仕 キョウジ 雑用を足すもの。宴席に待りて飲食の世話なすこと。又その人。

給付 キョウフ 物品を供給交付すること。(法)債權又は債務の目的たる作爲若くは不作爲の行爲。
給費生 キョウヒセイ 學費を給せらるる學生。

給 キョウ ハウ。ヒヤウ。あや。わた。つぐ。ツユン。ケン。あや。とほし。ばるか。ばやし。さし。絢煥 ケンケン きら／＼か／＼やくと。きらめきひかること。

絢 ケン ハウ。ヒヤウ。あや。わた。つぐ。ツユン。ケン。あや。とほし。ばるか。ばやし。さし。絢煥 ケンケン きら／＼か／＼やくと。きらめきひかること。

絢煥 ケンケン きら／＼か／＼やくと。きらめきひかること。

絢爛 ケンラン あでやかできれいなこと。
絢彩 ケンサイ あでやかに色ざりせラク。めぐる。まはる。まらなる。つるべなは。つづく。いと。

絡 ラク 絡繹 ラクラク 馬のむなかひ。絡緊 ラクケン しぼりしむること。絡束 ラクス しぼること。絡釋 ラクシヤク 人馬のつらなりつづくこと。陸繹 ラクラク 人馬一たり。

絡車 ラクシャ いさまきぐるま。絲をまく車。
絡縛 ラクバク ゆはへること。しぼるカウ。ケウ。なはなふ。くびる。まとふ。しぼる。めぐらす。すみやか。

絞 クサ 絞死 クサシ くびれてしぬること。絞緘 クサケン くびをしめること。絞罪 クサズイ 首をしめて殺す刑。絞首 クサシュ 首をくくりて死に至らしむること。

絞殺 クサシ くびれてしぬること。
絞緘 クサケン くびをしめること。
絞罪 クサズイ 首をしめて殺す刑。
絞首 クサシュ 首をくくりて死に至らしむること。

絞首 クサシュ 首をくくりて死に至らしむること。

絞殺 クサシ 縊りこらすこと。
絞縛 クサバク しぼりこくすること。
絞首臺 クサシュダイ 罪人を載せて絞殺する臺。
縊 クサ コク。またがる。はかま。まとふ。ケツ。ケイ。つがぬる。いさぎよし。むすぶ。き。むる。ひつさぐる。きよし。やくそく。

契 クサ 契約 クサクワ やくそくすること。契知 クサチ ばかりしること。推し知る。クサ。さしがねではかり知タウ。トウ。うちい。くみひも。まるうちひも。コウ。すみやか。はやし。おほづな。とし。ゆみはる。つくる。クワウ。わた。よみわた。のめ。

契約 クサクワ やくそくすること。
契知 クサチ ばかりしること。推し知る。

契 クサ さしがねではかり知タウ。トウ。うちい。くみひも。まるうちひも。コウ。すみやか。はやし。おほづな。とし。ゆみはる。つくる。クワウ。わた。よみわた。のめ。

純 クサ さしがねではかり知タウ。トウ。うちい。くみひも。まるうちひも。コウ。すみやか。はやし。おほづな。とし。ゆみはる。つくる。クワウ。わた。よみわた。のめ。

純 クサ さしがねではかり知タウ。トウ。うちい。くみひも。まるうちひも。コウ。すみやか。はやし。おほづな。とし。ゆみはる。つくる。クワウ。わた。よみわた。のめ。

絶 ケツ セチ。たつ。ほろぶ。すぐる。かしら。ならし。こゆる。やむ。わたる。たかし。たゆる。けす。絶大 ケツダイ 他に類なく大なるもの。極めて大なること。絶代 ケツダイ 世に二つさなきもの。世にまれなるもの。絶世 ケツセイ 人なみにたちまさりたること。世にすぐれたること。絶の美人。

絶奇 ケツキ 極めて奇なること。
絶景 ケツケイ いとすぐれたる景色。
絶巧 ケツコウ 極めてたくみなること。
絶叫 ケツキョウ 大聲でさけぶこと。
絶句 ケツク 詩の一體。起・承・轉・合の四句よりなれるもの。絶交 ケツカウ 交りをたつこと。交通を絶つこと。「際をたつこと」。

絶好 ケツコウ きはめてよきこと。交色 ケツシキョク この上なくきれいな容姿。絶の佳人。

絶好 ケツコウ きはめてよきこと。交色 ケツシキョク この上なくきれいな容姿。絶の佳人。

絶好 ケツコウ きはめてよきこと。交色 ケツシキョク この上なくきれいな容姿。絶の佳人。

絶好 ケツコウ きはめてよきこと。交色 ケツシキョク この上なくきれいな容姿。絶の佳人。

絶念 ケツネン あきらむること。思ひきること。
絶命 ケツメイ 命の絶ゆること。しぬること。絶秀 ケツシュウ たぐひ稀れに秀でたること。この上なくすぐれたること。絶版 ケツバン 書籍の版を毀ち出版を廢すること。出版せる書籍の賣り切れたること。「なご」。

絶妙 ケツミョウ はなはだ勝れて妙なること。絶佳 ケツカ 勝れてよきこと。もつけてうつくしきこと。
絶笑 ケツシヤウ いたくわらふこと。
絶美 ケツビ 甚だ美しきこと。「こと」。

絶異 ケツイ いとすぐれて異なること。
絶海 ケツカイ 遠く陸地をばなれたる海。絶群 ケツクン 多くのものにつぐれ出でたること。「深きこと」。

絶微 ケツイ 極めてちひさきこと。奥絶絃 ケツケン 知己にはなること。
絶唱 ケツテウ すぐれてよき詩歌。
絶險 ケツケン いとけはしきこと。

絶微 ケツイ 極めてちひさきこと。奥絶絃 ケツケン 知己にはなること。
絶唱 ケツテウ すぐれてよき詩歌。
絶險 ケツケン いとけはしきこと。

絶微 ケツイ 極めてちひさきこと。奥絶絃 ケツケン 知己にはなること。
絶唱 ケツテウ すぐれてよき詩歌。
絶險 ケツケン いとけはしきこと。

絶後 ケツゴ 將來に再び同じたためしのなきこと。空前。絶倒 ケツダウ 大に笑ひくづること。抱腹。絶家 ケツカ 月主死にして相續人なきために一家の斷絶すること。絶倫 ケツリン なみはづれ。拔群なること。智勇。絶食 ケツシキョク 食物をたつこと。たん絶息 ケツシキョク 息の絶ゆること。絶命。絶脈 ケツマク 脈のなくなること。死にて脈のたゆること。
絶望 ケツバウ のぞみのたゆること。
絶頂 ケツテイ 山のいただき。みれ物事ののぼりつめたる所。
絶嗣 ケツシ あそつぎのなきこと。
絶無 ケツム 絶えて無きこと。
絶筆 ケツヒツ 筆をたちてかかぬこと。死にぎはに書きたる文書。
絶域 ケツイキ 遠く隔りたる國。
絶滅 ケツメツ ほろぼしたやすること。
絶島 ケツトウ 本土と遠くかけはな

絶後 ケツゴ 將來に再び同じたためしのなきこと。空前。絶倒 ケツダウ 大に笑ひくづること。抱腹。絶家 ケツカ 月主死にして相續人なきために一家の斷絶すること。絶倫 ケツリン なみはづれ。拔群なること。智勇。絶食 ケツシキョク 食物をたつこと。たん絶息 ケツシキョク 息の絶ゆること。絶命。絶脈 ケツマク 脈のなくなること。死にて脈のたゆること。
絶望 ケツバウ のぞみのたゆること。
絶頂 ケツテイ 山のいただき。みれ物事ののぼりつめたる所。
絶嗣 ケツシ あそつぎのなきこと。
絶無 ケツム 絶えて無きこと。
絶筆 ケツヒツ 筆をたちてかかぬこと。死にぎはに書きたる文書。
絶域 ケツイキ 遠く隔りたる國。
絶滅 ケツメツ ほろぼしたやすること。
絶島 ケツトウ 本土と遠くかけはな

絶後 ケツゴ 將來に再び同じたためしのなきこと。空前。絶倒 ケツダウ 大に笑ひくづること。抱腹。絶家 ケツカ 月主死にして相續人なきために一家の斷絶すること。絶倫 ケツリン なみはづれ。拔群なること。智勇。絶食 ケツシキョク 食物をたつこと。たん絶息 ケツシキョク 息の絶ゆること。絶命。絶脈 ケツマク 脈のなくなること。死にて脈のたゆること。
絶望 ケツバウ のぞみのたゆること。
絶頂 ケツテイ 山のいただき。みれ物事ののぼりつめたる所。
絶嗣 ケツシ あそつぎのなきこと。
絶無 ケツム 絶えて無きこと。
絶筆 ケツヒツ 筆をたちてかかぬこと。死にぎはに書きたる文書。
絶域 ケツイキ 遠く隔りたる國。
絶滅 ケツメツ ほろぼしたやすること。
絶島 ケツトウ 本土と遠くかけはな

絶後 ケツゴ 將來に再び同じたためしのなきこと。空前。絶倒 ケツダウ 大に笑ひくづること。抱腹。絶家 ケツカ 月主死にして相續人なきために一家の斷絶すること。絶倫 ケツリン なみはづれ。拔群なること。智勇。絶食 ケツシキョク 食物をたつこと。たん絶息 ケツシキョク 息の絶ゆること。絶命。絶脈 ケツマク 脈のなくなること。死にて脈のたゆること。
絶望 ケツバウ のぞみのたゆること。
絶頂 ケツテイ 山のいただき。みれ物事ののぼりつめたる所。
絶嗣 ケツシ あそつぎのなきこと。
絶無 ケツム 絶えて無きこと。
絶筆 ケツヒツ 筆をたちてかかぬこと。死にぎはに書きたる文書。
絶域 ケツイキ 遠く隔りたる國。
絶滅 ケツメツ ほろぼしたやすること。
絶島 ケツトウ 本土と遠くかけはな

絶後 ケツゴ 將來に再び同じたためしのなきこと。空前。絶倒 ケツダウ 大に笑ひくづること。抱腹。絶家 ケツカ 月主死にして相續人なきために一家の斷絶すること。絶倫 ケツリン なみはづれ。拔群なること。智勇。絶食 ケツシキョク 食物をたつこと。たん絶息 ケツシキョク 息の絶ゆること。絶命。絶脈 ケツマク 脈のなくなること。死にて脈のたゆること。
絶望 ケツバウ のぞみのたゆること。
絶頂 ケツテイ 山のいただき。みれ物事ののぼりつめたる所。
絶嗣 ケツシ あそつぎのなきこと。
絶無 ケツム 絶えて無きこと。
絶筆 ケツヒツ 筆をたちてかかぬこと。死にぎはに書きたる文書。
絶域 ケツイキ 遠く隔りたる國。
絶滅 ケツメツ ほろぼしたやすること。
絶島 ケツトウ 本土と遠くかけはな

絶後 ケツゴ 將來に再び同じたためしのなきこと。空前。絶倒 ケツダウ 大に笑ひくづること。抱腹。絶家 ケツカ 月主死にして相續人なきために一家の斷絶すること。絶倫 ケツリン なみはづれ。拔群なること。智勇。絶食 ケツシキョク 食物をたつこと。たん絶息 ケツシキョク 息の絶ゆること。絶命。絶脈 ケツマク 脈のなくなること。死にて脈のたゆること。
絶望 ケツバウ のぞみのたゆること。
絶頂 ケツテイ 山のいただき。みれ物事ののぼりつめたる所。
絶嗣 ケツシ あそつぎのなきこと。
絶無 ケツム 絶えて無きこと。
絶筆 ケツヒツ 筆をたちてかかぬこと。死にぎはに書きたる文書。
絶域 ケツイキ 遠く隔りたる國。
絶滅 ケツメツ ほろぼしたやすること。
絶島 ケツトウ 本土と遠くかけはな

絶たる島嶼。①の孤囚。

絶對 ザキ 他と相對せぬこと。比較せらるべきものなきこと。何等の條件も附隨せざること。一切の現象差別に超越すること。「と」。

絶艶 ザキ 極めてあでやかなる形勢の極めてよき土地。

絶盡 ザキ たえつくること。たやしつくすこと。

絶品 ザキ いさぐれたる品。

絶遠 ザキ 極めて遠きこと。いとかけはなれてあること。

絶塵 ザキ ちりこみのなき清らかなること。馬などの極めて疾く走ること。「懸崖」。

絶壁 ザキ 極めてけげしきかけ絶縁 ザキ 縁のたゆること。(理) 電流を中途より停止すること。

絶類 ザキ 他に比類なきもの。しめけたること。

絶麗 ザキ 勝れて麗しきこと。

絶體 ザキ みのをばり。みのはて。「のこす詩歌」。

絶命辭 ザキ 臨終につくり絶縁物 ザキ (理) 硝子・陶器などの如く電氣を導かざる物體。

絶縁線 ザキ (理) ゴム又は絹絲などを以て被覆し電流の漏洩を防ぎたる電線。

絶體絶命 ザキ 逃るゝ手段なき大窮迫の場合。

絶對價值 ザキ (數) 負數の負號を取除きたるもの。複素數を構成する二つの實數の平方の和の正の平方根の其の複素數に對する稱。

絶對溫度 ザキ (理) 攝氏零度として測りたる溫度。

絶對濕度 ザキ (理) 單位の體積の空氣中に包含する水蒸氣の量。

絶對零度 ザキ (理) 攝氏零度以下二七三度の稱。

絶對單位 ザキ (理) 絶對的に定めたる單位、其の値は如何なる場所如何なる時刻に於ても常に一定なるもの。

結句 ザキ 詩歌の終末の句。むしろ。ごゝのつまりは。

結了 ザキ ばて。をばり。とちめ結文 ザキ 終りの文章。

結末 ザキ さいめ。をばり。ばて結合 ザキ よりあひ。くみあひ。むすびあひ。

結交 ザキ 交をむすぶこと。

結氷 ザキ 氷のはること。

結局 ザキ しまり。ばて。をばり。結願 ザキ (佛) 願をかけて其の日數の果つること。

結髮 ザキ 髪を結ぶこと。結びたる髪。元服すること。

結改 ザキ 陰曆五月及九月の二十五日に楊弓を射る人の相集りて的中の勝負の競點すること。

結隊 ザキ 隊を結ぶこと。

結束 ザキ たばねること。衣服又は甲冑を身に着け支度すること。

結社 ザキ なかまをたつること。くみあひ。「やくそく」。

結款 ザキ よしみをむすぶこと。

結婚 ザキ えんぐみ。こんれい。(法) 一男一女の間に夫婦の關係を生ずる法律行為を爲すこと。

結晶 ザキ 礦物などが天然一定の法則に従ひ面・稜及隅角を有する形體をなすこと。

結親 ザキ 縁組すること。

結腸 ザキ 大腸の大部の稱。

結裝 ザキ みごしらへすること。

結構 ザキ かまへ。組みたつること。よしい。こころがまへ。優れたること。①一莊麗。

結尾 ザキ をばり。すゑ。

結膜 ザキ (生) 眼臉の内面の粘膜折れ返りて眼球の前面を蔽へるもの。

結縁 ザキ (佛) 佛道に入りて佛さなるべき縁をむすぶこと。

結繩 ザキ 太古未だ文字のなきざりしころ繩を結びて互に意を通じ又は物事の記憶に便せしこと。

結黨 ザキ 同志の團結すること。政黨を成立せざること。

結體 ザキ 結合したる體形。

結合國 ザキ 數個の國家が結合して同一の最高權力の下に立つもの。

結合體 ザキ 數個の個體が相連結して成りたる一體。

結晶式 ザキ 結晶につきて行ふ式。

結晶體 ザキ 結晶して一定の形體を爲すもの。

結晶水 ザキ 結晶體の

糸部 七畫

糸部 七畫

糸部 七畫

必ず含有する水。「菌」
結核菌 クラカキン 結核症を起す
結核症 クラカキン 結核菌の寄生
 によりて起る疾患。
結構人 クラコジン 心がらのよき
 人。愚直なる人を罵りていふ語
結締組織 ケコエシキ 骨く体内に
 存して各部の機關の位置を締
 着する組織。

七畫

【綁】

ハウ。
 しばる。
 ケイ。キヤウ。つね。たて
 のり。よし。よぎる。たて
 さま。たてすぢ。くびる
 る。かさむ。のつとる。い
 となむ。いとすぢ。はか
 る。佛の教義を書きたる
 もの。「文章」

【經】

經文 キヤモン 佛の道を説きたる
經水 ケネキ つかのもの。女のつ

きやく。月經。
經史 ケシ 經書と歴史と。
經世 ケシ 國政を料理するも。
 世をなさむるも。
經由 ケイウ その路すぢによるも
經行 ケイワ 女の月のさばり。月
 經。へめぐり行くも。
經理 ケリ をさめとものふるも。
 會計及給與に關する事務の處
 理。
經常 ケイキウ 繼續して絶えざる
 も。一定してかはらざるも。
經典 ケン 變ぜざる道理。定ま
 りたるのり。聖人の述作にかゝ
 る書。「る學」
經學 ケイガク 經書の意義を研究す
經死 ケシク びれて死するも。
經卷 ケイワシ 經文。經文を認め
 たる巻物。
經師 ケシ 經文を折本。巻物な
 どに表具する職人。今は通じて
 書畫の幅なごを糊にて貼り作

る職人。
經書 ケイシ 支那聖賢の教を書き
 たる書籍の總稱。即ち四書・五
 經の類。又經籍といふ。「め」
經費 ケイヒ いたなみの入費。いり
經始 ケシ いたなみつくも。
經度 ケイド (地)地球上一定の地
 點より東又は西に向つて測り
 たる角距離。
經義 ケイギ 經書の意義。
經絡 ケイラク 體中の血のすぢ。
經國 ケイコク 國を經綸するも。一
 世を經營するも。
經過 ケイワ なりきたり。時のす
 き行くも。「脈といふ」
經路 ケイロ すぢみち。みち。又經
經綸 ケイリン 國家又は社會を治め
 整ふるも。
經線 ケイセン (地)地球の表面にあ
 る場所の位置を精しく知らん
 がために設けたる想像上の縱
 線。子午線。

糸部 七畫

糸部 七畫

糸部 七畫

經歷 ケイレン こしかたの歴史。へ
 めぐれるも。「一」を話す。
經筵 ケイチン 帝王の講席。
經緯 ケイヱ 經線と緯線と。豎と横
 と。なさめと。なふるも。
經營 ケイテイ つくりかまふも。い
 となみつくも。「一」慘憺。
經濟 ケイジ (經)人類が財貨を獲
 得し使用し以て慾望を満足せ
 しめんとする行爲。世わたりの
 みち。けんやく。國をなさめ民
 をすくふも。
經驗 ケイケン 觀察又は實地の試験
 によりて事物の性質を明かに
 するも。「こころみ又はためしに
 よりて得たる智識又は技術」
經世家 ケイセカ 世をなさむる人
 政治家。
經帷子 ケイワシ 六字の名號を
 書きて死人に着せそのまま埋
 葬する麻の衣。
經緯儀 ケイヱキ 天體又は地物の

方位角及び仰角を測るに用ふ
 る一種の器械。
經理局 ケイキョク 陸軍省及び海
 軍省の一局。當該大臣の管理に
 屬する行政上の會計及び給與
 の事務を扱ふところ。
經驗論 ケイケンロン (哲)智識は悉
 く經驗に收得したる結果なり
 といふ認識論。經驗上より立て
 たる議論。
經常費 ケイキウヒ きまれる費用。
 年々繼續して支出する費用。
經濟學 ケイジガク (經)人生日常
 の業務に於ける人の行爲に付
 て論究する學問にして如何に
 して人は其收入を獲得し且之
 を使用するかを討尋するもの
 なり。
經濟的 ケイジテキ 財を獲得し使
 用し以て慾望を満足せしめん
 とするさまにいふ語。利得又は
 儉約になるさまにいふ語。

經濟家 ケイジカ 經濟の事に明か
 なる人。巧に費用を節する人。
經濟界 ケイジカイ 人類社會の經
 濟的活動の範圍。交換買賣等の
 行はるる社會。
經濟政策 ケイジセイサク (經)國家
 及其機關が國民の經濟上の利
 益を保護し發達を増進する方
 法手段の稱。「と」
經國大業 ケイコクダイギョウ 文章のこ
經常歲入 ケイキウサイニツ 毎年規則
 正しく國庫に收入する金額。
經常歲出 ケイキウサイニツ 毎年規
 則正しく國庫より支出する費
 用。タイ。テ。「用」
綹 (國字)。かすり。織物染
 物なごにかすりたる如
 く模様をあらはしたる
 ものかせ
綹 (國字)。かすり。織物染
 物なごにかすりたる如
 く模様をあらはしたる
 ものかせ
綹 (國字)。かすり。織物染
 物なごにかすりたる如
 く模様をあらはしたる
 ものかせ

綏綏 ススフ やすらかなるさま又は瀧などの徐むろに落つるに

綏靖 ススジ やすらかになまむる

綏遠 ススエン 遠きところを安んずる

綏撫 ススフ やすらかにしづむる

綏民 ススミン 民をやすめる

綏安 ススアン おだやかやすらか

綏 スス おろ。福に同じ。

綖 フツ。ヒ。フチ。くるまな

綖 は。ひつぎのなは。なは。

綖 ケキ。キヤク。ぬの。

綖 さいみ。あらしくすめの

綖 テイ。ダイ。

綖 つむぎ。あつきぬ。

綖 綿袍 テイハウ 厚絹のうはぎ。わた

綖 カウ。キヤウ。ヘイ。

綖 つりいと。つるべなは。

綖 トウ。

綖 俗の統の字。

綖 キウ。グ。すみやか。

綖 ゆるやか。もとむ。

綖 チ。

綖 すずし。ほそもの。

綖 絨巾 チン 絨のなりもの。

綖 絨絨 チンチン 細き葛(絨)と粗き葛

綖 (絨)にての織物。くづおりの布

綖 リヨ。ロ。つづれ。しまお

綖 リ。薄き絹地の織物。羅

綖 ケン。きぬ。すずし。

綖 あみ。まごふ。

綖 トウ。ヅ。

綖 綿の一片。

綖 セツ。

綖 つなぐ。

綖 ス井。ニ。おび。かけえび

綖 つぐ。たるる。かんむり

綖 のひも。おいかげ。

綖 綖纒 ススチ かんむりのひも。

綖 ヒ。あか。

綖 あかきれりぎぬ。

綖 緋甲 ヒョウ 緋色のよるひ。

綖 緋絨 ヒョウ 紅色なる絲にてをど

綖 したる體。朱浸。

綖 キン。コン。きびし。まと

綖 ふ。すみやか。いそがは

綖 し。つよくまさふ。ちや

綖 む。

綖 緊捉 キンツク きびしくとらへおく

綖 と。しかとつかまへると。

綖 緊急 キンキウ 事件の重大にして且

火急の場合に迫れると。絲又は繩などのきびしく物にまさふ

緊 キンキウ きびしくおさへつく

緊 キンキウ 適切なるも。ひつた

緊 キンキウ きびしくしげると。

緊 キンキウ きびしくしげると。か

緊 キンキウ ちぢみあがると。か

緊 キンキウ 最も肝要なるも。

緊 キンキウ げんじゆうにきびし

緊 キンキウ きまなくひつたりと附

緊 キンキウ 着するも。

緊 キンキウ 重大問題にしてせまつ

緊 キンキウ 日語事日程を變更して之を

緊 キンキウ 議題とせんとする動議。

緊 キンキウ 緊急勅令 キンキウツヨレイ (法) 帝國

議會閉會中公共の安全を保持

し又は其災厄を避くる爲に緊

急の必要により天皇の發する

勅令。

緇 シ。くろし。

緇 とろかす。くろむ。

緇 緇衣 シ すすみぞめのころも。

緇 緇流 シ すすみぞめの衣をきる

緇 ほうしのななま。僧侶社會。

緇 緇素 シ 黒と白と。僧侶のこ。

緇 緇徒 シ すすみぞめの衣をきる仲

緇 間。僧侶のこ。

緇 緇銖 シ すすみぞめのかばかりのこ。

緇 些少の義。一の利を争ふ。

緇 シニウ。シユ。

緇 こんいろ。

緇 コン。あやなす。

緇 なた。つな。ぬの。

緇 メン。ベン。絲に同じ。わ

緇 た。まとふ。つぐ。つづく

緇 よはし。つらなる。きび

緇 し。ごほし。ばるか。

緇 綿花 シ 採收したるまゝの綿

緇 の果實の白毛。

緇 綿絲 シ すすもめんいさ。

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

緇 綿綿 シ すす つづきて絶えざるさ

まにいふ語。又綿連といふ。

緇 綿互 シ すすながくつらなれると

緇 綿山脈 一す。

緇 綿布 シ 木綿糸にて織りたる

緇 綿代 シ 綿々たる代々のと。

緇 綿雨 シ 綿々たるのあめ。

緇 綿歎 シ 絶えざるなげき。

緇 綿繞 シ 絶えざるなげき。

緇 綿服 シ 綿布にて作れる衣服

緇 木綿着物。

緇 綿密 シ すす くはしくこまやかな

緇 綿蠻 シ 鳥のさへづると。

緇 綿火薬 シ 綿花を硫酸と

緇 硝酸の混合液に浸して製した

緇 る火薬。

緇 綿撒絲 シ 綿布の絲をほづ

緇 して薬液に浸し創口などにさ

緇 入れ又は當つるもの。

緇 綾文 シ すす あやぎぬ。不平の貌。

緇 綾子 シ すす あやしやう。

糸部 八畫

綾純 リヨウワシ 艶の極めてうるは

しき絹織物。

綾羅 リヨウラ あやぎぬとうすもの

綾扇 リヨウセン あやぎぬにて張り

たるうちば。

綾羅錦繡 リヨウキンシウ あやにし

きなどにて立派に服彩を飾れ

ること。

綽分 シヤクキ 寛大の貌。

綽綽 シヤクシヤク ゆつくりとしたる

貌、ゆるやか。餘裕。

綽約 シヤクヤク 容姿のたなやかな

綽號 シヤクガウ あだな。「る」と

綽網 シヤクマウ あみのうけ。

綽然 シヤクゼン ゆるやかなるさま

又は餘裕あるさまにいふ語。

綻裂 タシレツ ほころび。

綻開 タシレツ 花のほころび開くと

糸部 八畫

綺 キ。あやぎぬ。

綺井 キキ 天井のこと。

綺帳 キキヤウ あやぎぬのさばり。

綺屏 キキヒラ あやぎぬにて張りたる

さびら。①緞帳の裏。

綺棟 キキトウ 色ざりたるむなぎ。

綺麗 キレイ 綺麗を装ひてうるは

しきと。清きと。けがれなきと。

綺閣 キカク うつくしきたかどの。

綺泊 キカク きれいなるみち。

綺寮 キカク うつくしき小屋。

綺羅 キカク 美しく光り輝くあやに

しき、うるはしき衣服。よそほ

ひ。①を盡して。

綺語 キキゴ はなやかなる詞。こと

ばを飾ると。無稽の言。(佛)十

悪の一、眞實に背きて巧にかざ

りたる言語。

綺談 キキタン うるはしき語。

糸部 八畫

綸 リン。ロン。くみ。ゆるや

か。いとすぢ。はび。こる。

まじはる。ゆたか。つり

いと。

綸絲 リンシ つりいと。

綸言 リンゲン 天子の御言葉。みこ

とのり。又綸宣といふ。

綸旨 リンシ 綸言の旨趣。

綸言如汗 リンゲンニシヨシ 詔勅の

神聖にして改むべからざるこ

とは汗の一度出づれば再び元

にかへらざるが如しとの意。

綵華 サイキ つけりばな。

綵緞 サイキ きれいな、ま、きと。

綵房 サイバウ 美しく飾れる部屋。

綵索 サイサク いろいろのたすき。

糸部 八畫

綴 テツ。セツ。つづる。あつ

める。つらなる。あつま

る。つづまる。「る」字。

綴字 シジ 字をつづると。綴りた

綴文 シジ 文章をつづると。綴

りたる文章。

綴縫 シジ 物をさぢぬふと。

綴集 シジ つけりあつむると。

又あつめたるもの。

綴録 シジ 記録其他の文書をつ

づりあはし又は取捨選擇して

一部とする。

綱 カウ。つな。

綱憲 カウケン のり。きそく。

綱紀 カウキ 大綱と小紀といふ義

にて天下大小の政事を指す。き

そく。①の紊亂。

綱領 カウリヤウ おほづな。要領。或

るもの基礎となるべき規則。

綱常 カウキヤウ おほすぢの道。

綱目 カウモク 物事の主要と細目と

糸部 八畫

絅 ワン。エン。つらぬく。

すぶ。つたぐ。わな。

タウ。ドウ。なほ。あはせ

よぢる。なほなふ。よる。

絅糸 タシ よりたる糸。よりいと

ハワ。

絅に同じ。

絅井 つなぐ。まとふ。

あに。たもつ。これ。

維斗 シト 北斗星の異名。

維舟 シシウ ふねをつなぐと。

維綱 シカウ おほづな。おほもと。

維持 シチ もちこたふる。もち

つづく。

維鷄 シキ 力の弱きをいふ。

維新 シシン 萬事新に改まる。明

治初年の國政の改革の特稱。

維繫 シキ 繋ぎとめると。

緊 緊イ。キヤウ。はたじる

緊處 ケイシヨ むすびめ。かんじん

なる所。要所。

糸部 八畫

綬 シユ。シユ。くみいと。

ふすま。いろごる。

綵 キ。ギ。

あや。もえぎ。

綵ケン。コン。キン。あつし

ねんごる。つきまとふ。

くつがへる。

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

て親しく交る義にいふ。

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

綵ケン 固くむすぶと。轉じ

糸部 八畫

糸部 八畫

糸部 九畫

とせる竹。 「み。」

緑漪 リョクイ みどりいろのさやな

緑苔 リョクタイ あなごけ。青苔。

緑萍 リョクヘウ みどりいろのうき

緑林 リョクリン 盗賊の異稱。

緑茶 リョクチャ 日常飲料に用ゆる

茶の稱。 「かげ。」

緑陰 リョクイン 木の茂りたる陰。

緑秀 リョクシュ 陰曆三月の異稱。

緑樹 リョクジュ 青葉の茂れる樹木。

緑卿 リョクケイ 竹の異名。

緑礬 リョクバン (化)鐵の酸化せる

もの、染物又は臭氣を止むるに

用ゆ。

緑色 リョクシヨク みどりのいろ。

緑野 リョクヤ 草などの青々としげ

りたる野。①の紅花。

緑草 リョクサウ みどりいろの草。

緑青 ロクシヤウ (化)無水炭酸と銅

との化合物。 「藻類。」

緑藻 リョクサウ (植)綠色を呈する

緑葉 リョクエフ みどりの葉。 「こ。

緑眼 リョクガン みどりいろのまな

緑水 リョクスイ 綠色をなせる水。

緑皮層 リョクヒワウ (植)植物の木

栓層の次にあるものにして内

皮層とも稱す。

緑衣黄裏 リョクイキワウ 貴賤位置

を易ふる。

緑綉 レツウレチ。レイ。ライ。

いとすぢ。みどり。

ソウ。ス。すべる。

いとよる。いとすぢ。

綜通 ソウツウ すべつらぬこと。

綜核 ソウカク すべ合すと。

綜攬 ソウラン 事物をすべかぬると

すべくくること。

網代 アシ 冬期水中に竹木を組

みならべて網の代りとし魚を

捕ふるに用ふるもの。楡の木又

は竹を組みて筵の如く織れる

もの。

網羅 マヲ 網をはりてひきつむ

ること。もろるものなきやうにす

ること。残らず收め入ると。

網膜 マツク (生)眼球壁の内面を

造れる膜にして視神經の分布

せるもの。

網利 マツリ 網を以て書きあつむ

るが如く利益を一手に引きよ

すること。

網衫 マツシ あみじゆばん。

網狀脈 マツジヤウマツク (植)植物の葉

脈の網狀をなせるもの。

網乗物 マツリモノ 乗物の周圍に

網をかけたるもの、昔重罪人を

送るに用ぬたり。

九畫

糸部 九畫

糸部 九畫

糸部 九畫

縑 チン。ウン。すすし。わ

た。ふるわた。つつむ。み

だれ。おくふかし。わた

いれのきもの。

縑衣 ライ わたいれ。 「ら。

縑袍 ランパウ 粗なる綿入れ。ごて

縑子 ランシ あみのたぐりなほ。

チ。ヂ。こまかし。くわ

し。きびし。つづる。おぎ

なふ。

緻 チシヤウ こまかくくわしき

と。めんみつにこまかきと。

緻密 チシツツ まびらかなると。く

はしきと。精細なると。

練 レン。きたふ。れる。

練縮 レンシュウ ねりたるきぬ。

練擇 レンタク くはしくえらぶと。

練鐵 レンテツ よくきたひたる鐵。

練炭 レンタン 石炭を粉末にしてれ

り固めたるもの。たどん。

練鵲 レンジヤク (動) 燕雀類中風鳥

科に屬し小形にして羽色美な

る鳥。 「りあぐる」と。

練精 レンセイ みがきあぐる。ね

練兵 レンペイ 兵を訓練すると。

練熟 レンジュク てなること。なれて

巧みなること。 「ゆき届くと。

練達 レンタク 物事に熟練してよく

練磨 レンマ ねりみがくと。研究す

ること。①の功。

練習 レンシラ 學びたるを修むると

練行 レンカウ 佛道を修行すると。

練武 レンブ 武を講ずると。れんべ

い。武術をれると。

練簡 レンカン ねりてつらまやかな

ること。 「ねりまなぶと。

練修 レンシウ 學問又は技術などを

練習艦 レンシヤク 水兵などの練

習用となす軍艦。

練兵場 レンペイ 練兵をする場所

緯度 レンヂョウ 井。ぬき。よこいと。

緯線 レンヂョウ 緯線によりて南北

に劃せられたる度数。

緯線 レンヂョウ (地) 地球の表面に在

る場所の位置を精しく知らん

が爲に假に設けたる想像上の

横線。全體を三百六十度に分て

ると經線に同じ。

緬 ベン。メン。いと。かる

し。おびもの。とほし。は

るか。

緬然 マンゼン はらかなる貌。 「と。

緬冥 マンメイ はらかにしてくらき

緬思 マンシ はらかに思ふと。又緬

懐といふ。

緬想 マンシヤウ おもふと。

緬々 マンマン ツウ。ス。青き色。うすぎ

ぬ。絲の數。

クワン。ケン。ゆるやか。

おそし。ゆるかせ。ゆる

す。たるむ。せまらず。

緩行 クワンカウ のろのろあること。

緩緩 クワンクワン ゆるりと。いそが

すに。①悠々。

糸部 九畫

糸部 九畫

糸部 九畫

緩漫 クリマン ゆるやかなると。手ぬるきこと。にぶきこと。

緩遅 クリナチ ゆるくおそきこと。

緩歩 クリホ ゆつたりとあること。

緩怠 クリタイ おこたり。なほざり。

緩帶 クリタイ 衣をくつろげ帯をゆるく結ぶこと。戒心せざる身なり。

緩舒 クリシヨ ゆるやかにのびる。

緩急 クリシテ 事變の起ると。ゆるやかと急なること。一旦一あれは義勇公に奉じ。

緩急列車 クリシテツツヤゆるやかに走らしめ又ははそがしむることを得る機械のつきたる鐵道列車。

【編】

編入 ヘンラ 組み入るること。

編戸 ヘンコ 庶人のこと。戸々に名籍を列する中の人民。竹又は木に

て編み作れる月。

編制 ヘンセイ 個々を集めて連結せる隊を爲さしむること。組み立つること。

編髮 ヘンゲツ カみゆふこと。

編輯 ヘンシヨ 諸種の材料を集めて一個の圖書などを作ること。又編纂といふ。

編次 ヘンジ みてついでつづると。あみたるついで。

編成 ヘンセイ あみつくること。

編者 ヘンシヤ 文書を編纂する人。

編冊 ヘンサツ とちほん。

編年史 ヘンネンシ 編年體の歴史。

編年體 ヘンネンタイ 年月を逐ひて事實を記せる歴史の一體。

編輯人 ヘンシヨウ 編輯の業務に任する人。編輯の責任に當ると編輯局 ヘンシヨウキョウ 編輯の業務をとる所。

【緹】

シ。ぬふ。いと。いる。

【縲】

ホウ。ハウ。むつき。

【縲】

セツ。セチ。つなぐ。ばづな。

縲縛 セツバツ くること。いましむること。一に就く。

縲繫 セツケイ 馬又は犬をつなぐこと。エン。ゆかり。したがふ。

縁故 セツコト ちちなみ。人倫の關係。ちちなみ。ゆかり。ちちなみ。つづきあひ。關係。

縁由 セツユ 此れまでのなりふり。由來。たより。ゆかり。又縁因といふ。

縁日 セツニチ 神佛などの祭典のあ

縁談 セツタン 夫婦の縁。舞臺子の縁なごを結ばんとする相談。

縁類 セツルイ 結婚に因るつづきあひ。

縁邊 セツベン 縁取ある家。ふち。ま

縁海 セツカイ (地) 半島及列島にて

糸部 九畫

糸部 九畫

糸部 九畫

圍繞せらるゝ海。

縁領 エリレイ きものいえり。「リ。

縁撞 エリトウ かるわざ。さなのほ

縁酌 エリシヤク ふるさもろみさけ。

縁循 エリジュン 他にたよりて自ら獨立すること能はざるをいふ。

縁者 エリシヤ 身うちのもの。

縁臺 エリダイ こしかけだい。

縁覺 エリカク (佛) 十二因縁を觀じて眞諦をさとる地位。

縁起 エリキ 神社佛閣の草創の由來を書きたるもの。きざし。しるし。いはひ。ことぶき。(佛) 因と縁と相應じて萬法の起ること。

縁引 エリヒキ 血族の關係あること。

縁家 エリカ 血すぢのつづける家。ゆかりある家。みうち。

縁組 エリグミ 縁を結びて姻族なるもの。(法) 血統上親子にあらざるものが法律上親子の關係を結ぶこと。① 養子。

【緝】

緝錢 シシヤウ さしにさしたる錢。しり魚をつる釣をつけた

緝釣 シシヤウ 魚をつる釣をつけた

緝締 シシヤウ たい。タイ。さづ。「る糸。むすぶ。むすぼる。

締交 シシヤウ 交りを結ぶこと。好みを通ずること。

締構 シシヤウ さりむすぶこと。

締閉 シシヤウ たい。たい。とぢること。

締約 シシヤウ 約束又は條約をとり結ぶこと。

締結 シシヤウ 約束なごをさりむす

締盟 シシヤウ ちかひをむすぶこと。同盟又は條約を結ぶこと。

締盟國 シシヤウ 互に條約をむすびたる當事國。

【緝】

シフ。シウ。つぐ。おさむ。あつまる。あきらか。

【緜】

緜和 シシヤウ せせくる。ひかり。シシヤウ をさめやばらぐこと。

緜穆 シシヤウ やばらぐこと。

緜綴 シシヤウ あつめあはすこと。メン。オン。わた。まと

ふ。つぐ。つづく。よほし。つらなる。きびし。と

ほし。はるか。縮に同じ。セン。いさすぢ。(數) 位置。長さありて幅。厚さ

なきものにして其兩端の點なるもの。一般に細長くして絲状をなしたるもの。

線香 シシヤウ 香料を細末にし糊にて固めて線となしたるもの。

線路 シシヤウ すぢみち。レールを敷きたるみち。

線鞋 シシヤウ ひもある一種のはき

線縷 シシヤウ いさすぢ。いと。カン。ケン。からげる。なは。とづる。ふうじめ。

糸部 九畫

緘封 カシフ ふうをする。緘包 カシフ つゝむ。緘唇 カシシ くりびるをさちて點する。①更に語なし。緘積 カシト はこのふたをする。緘書 カシヨ ふうをせし手紙。ふじ文。②一密事を説く。緘黙 カシテ 無言にて居る。全く語をいささざる。緘口 カシロ 口をふさぎて言を發せざるをいふ。緘塞 カシク 封じふさぐ。シヨソ。いとぐち。こぐち。はし。つづき。ことば。ざ。ついでる。つなぎ。緒業 シヨク 家代々のしごと。はじめのいとぐちとなりたる業。緒言 シヨケン 本論に入るに先ちてのふる説。はしがき。緒論 シヨロン 本論に入るに先ちてのふる説。はしがき。緒餘 シヨア 余り。すゑ。

糸部 十畫

緞 タン。ダン。きれ。緞子 ドス 練絲にて織りたる織物。地厚くして光澤多し。ソツ。ス。つむぎ。すぶる。あつまる。總に同じ。

綵 十畫

縣 ケン。かける。はるか。あがた。くびる。さがる。つなぐ。郡及市を以て組織せられたる地方行政区劃の稱。縣道 ケンダウ 各縣を接續し若くは當該縣廳より縣下の首要地に達する等の道路の稱。縣社 ケンシヤ 縣より幣を奉る資格の神社。「有」。縣有 ケンヨウ 縣さいふ自治體の所屬。縣債 ケンサイ 縣といふ地方自治體が縣會の議決を経て起す公債。縣令 ケンレイ 縣知事の古稱。(法)

縣知事 ケンチシヤ 一縣の長官。縣會議員 ケンカイギン 縣内に於て一年以來直接國稅三圓以上を納むる市町村公民中より選舉せらるる縣會を組織する議員。縣參事會 ケンサンジヤウ 縣の議決機關の一、縣會の委任事項縣會の議決範圍内に於ける財産及營造物の管理等の議決を爲し維持せらるるもの。縣下 ケンカ 縣の支配せる地。又縣内といふ。縣廳 ケンチウ 縣の行政をとり行縣會 ケンカイ 縣の歳入出豫算及決算報告等に關して議決する機關、縣會議員を以て組織す。

緜 十畫

緜 十畫

縣知事が其職權内に於て其管轄區域内に發行する行政命令。縣屬 ケンゾク 縣廳に勤むる屬官。縣費 ケンバイ 縣の入費。縣の經費。縣治 ケンチ 縣の行政。地方の政治。縣立 ケンリツ 縣の費用を以て設立維持せらるるもの。縣下 ケンカ 縣の支配せる地。又縣内といふ。縣廳 ケンチウ 縣の行政をとり行縣會 ケンカイ 縣の歳入出豫算及決算報告等に關して議決する機關、縣會議員を以て組織す。

糸部 十畫

糸部 十畫

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

糸部 十畫

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

糸部 十畫

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

臨時急要の事件にして縣會召集の暇なき場合に縣會に代りて之を議決するもの。トウ。なほ。つがぬる。か。らげなほ。まとふ。むか。ばぎ。ゆぶくる。はばき。シヨク。ニク。いろどる。かざる。ほそし。おほし。しげし。かさなる。縞毛 シヨモウ ほそき毛。縞繁 シヨハン くだくだしくわづらはしき。①式。②繁文。縞禮 シヨレイ 煩はしき虚飾の禮。縞婉 シヨワン かざりありてしなやかなるさまにいふ語。カウ。コウ。しま(國訓)。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縞素 カワ 白色の絹布。縞羽 カワ 白色のはれ。縞綺 カワキ 白色のあやぎぬ。縞衣 カイキ 縞は白き。

縊刑 イラケ 刑の名、罪人の首を

縊 絞殺す。シシ。うすあかき。さしはさむ。指に同じ。

縉紳 シシシ 高貴なる人。官位高き人。

縶 エイ。エウ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 縶 エイ。めぐらす。ま

縶 キヤウ。カウ。むつき。ぜになは。ぜにさし。

縶 エウ。イウ。ぶやく。した

縶 がふ。うたふ。はるか。す

縶 ぐる。よし。みち。しげ

縶 る。よろこぶ。よろ。

縶 レン。もつる。

縶 むすばる。

縶 ビウ。ム。ま。ま。ま。ま。

縶 く。むすぶ。くびる。いと

縶 すぢ。めぐらす。もとる。

縶 あはす。「とひつく」と

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

繁殖 ハシヨク ふるまふこと。同一種

繁殖 類のまゝ増加すること。

繁殖 豪華 ハシヨク さかえにぎはふこと。

繁殖 豪遊 遊ぶこと。遊にふけること。

繁殖 繁縷 ハシヨク いろどりのしげき

繁殖 繁雜 ハシヨク 煩はしきほど種々々

繁殖 繁霜 ハシヨク しげきしも。「き」と

繁殖 繁難 ハシヨク しげくしてむづかし

繁殖 繁務 ハシヨク いそがしきつとめ。

繁殖 繁蕪 ハシヨク 雑草のおひしげること。

繁殖 繁簡 ハシヨク しげきと簡略なること。

繁殖 繁勞 ハシヨク 忙しきつとめ。

繁殖 繁劇 ハシヨク 用事のしげきこと。い

繁殖 繁憤 ハシヨク つもりつもりし憤り

繁殖 繁閑 ハシヨク いそがしきさひまな

繁殖 繁文縟禮 ハシヨク 煩はしき

繁殖 繁文縟禮 ハシヨク 煩はしき

繁殖 繁文縟禮 ハシヨク 煩はしき

繁殖 繁文縟禮 ハシヨク 煩はしき

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶 縶

糸部 十一畫

總督 ソウタク 一方の管轄區域内に於ける政務・軍務又は部員を統轄する官府。

總會 ソウカイ 組合又は會社などにて其組合員又は社員などの一同に會合すること。

總髮 ソウツ 男子が額のさかやきを剃らずして全體の髮を延ばし之を束れて結びしこと。

總則 ソウソク 凡ての部分に適用又は關係せる法則。

總裁 ソウサイ 全體の事務を總括して裁定すること。又其官職。

總管 ソウワン とりしまること。すべて管理すること。

總稱 ソウショウ 個々別々のものを一つにすべといふ稱。

總監 ソウカン 事務又は人員の全體をすべて之を監理すること。又其官職。

總苞 ソウバウ (植)花の一團をつく

糸部 十一畫

總攬 ソウラン 分派せるものを一身に纏め歸せしめて處理すること。

總結 ソウケツ むすびくこと。總長 ソウチョウ 事務を總理する長官。○大學。

總覺 ソウカク (生)吾人體内の好惡兩種の感覺の稱。

總數 ソウスウ 全體のかず。「ば。總束 ソウソク すべつがぬること。た總統 ソウトウ すべくこと。

總論 ソウロン 書籍又は論文などの初めにその内容の概要を摘みて論ぜるもの。

總名家 ソウメイヤク すべての別家のわかれ出でたる名家。「代。總名代 ソウメイヤク 仲間全體の名

總豫算 ソウヨサン 收支全部の豫算總領事 ソウレウジ 最上級の領事。

總合法 ソウワフハフ 數多の事實より得たる智識を以て數多の事實を支配する一の法則を發見

糸部 十一畫

總角好 ソウカクカウ 子供の時の友。總噸數 ソウトンスウ 噸數全部の合計。西洋形船舶の積載の全體。

總集會 ソウシヤクワイ 總員の集會。總督府 ソウトクフ 總督の事務を取扱ふ所。

總鯢類 ソウヱイルイ (動) 硬骨類に屬する魚、甲狀の鱗を有し口部突出し鰓は總狀を爲す。

總選舉 ソウセンキョ 委員又は議員全體の選舉。「を攻撃すること。總攻撃 ソウゴウキキ 全軍擧つて敵

總合斷定 ソウガウダンテイ (論) 主辭の中に毫も含まざる概念を實辭としたる斷定の稱。

總督府令 ソウトクフレイ (法) 總督が職權又は特別の委任によりて其の管轄區域内に發する行政命令。

總追捕使 ソウツブツシ 全國の追捕使を總管せし職、源賴朝始め

糸部 十一畫

總代理 ソウダイリ 本人に代りて一切の事務を代理すること。又その人。

總理代理人 ソウリダイリニ 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 ソウダイリ 本人に代りて一切の事務を代理すること。又その人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

糸部 十一畫

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

糸部 十一畫

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

總代理 總理代理の委任を受けたる人。

縦樂 ジウラク 思ひのまま樂むこと。
縦横 ジウワウ たてよこ。自由自在
縦覽 ジウラン 心のままに見ること。

縦跡 ジウセキ あと。あしあと。
縦震 ジウシン (地) 山脈に並行し
て地盤に生ずる断層のために
起る地震。

縦海岸 ジウカカン (地) 山脈の主
軸と相並行する海岸。

縦横家 ジウワウカ 蘇秦・張儀など
の如く國と國との離合の計策
を立つるもの。轉じて中間に立
ちて衝略を用ふる人。

縦横無盡 ジウワウマンシ 自由自在
にして究極なきこと。

縦横無礙 ジウワウマンシ 四方八方さ
はりなきこと。

縦貫鐵道 ジウワウケンテドウ 地域の
南北に貫通する鐵道。

縮樂 シウラク 縮みたる樂。
縮横 シウワウ 縮みたるよこ。
縮覽 シウラン 縮みたる見。

縮跡 シウセキ 縮みたる跡。
縮震 シウシン (地) 縮みたる震。
縮海岸 シウカカン 縮みたる海岸。

縮横家 シウワウカ 縮みたる横家。
縮横無盡 シウワウマンシ 縮みたる
横無盡。

縮横無礙 シウワウマンシ 縮みたる
横無礙。

縮貫鐵道 シウワウケンテドウ 縮みたる
貫鐵道。

縮毛 シウモウ 縮みたる毛。
縮緬 シウモン 縮みたる緬。

縮瑟 シウセツ 縮みたる瑟。
縮地術 シウヂジュツ 縮みたる地術。
縮地術に聚むといふ漢の費長房が
壺公といふ仙人より授かりし
仙術。轉じて漁船を駛せ汽車を
通じて交通の便を開くこと。

縮尺 シウシヤク 製圖上原形より縮
小したる圖を畫くさき其縮小
すべき一定比例。「て寫すこと」。

縮寫 シウシヤク 原形を小さく縮め
縮收 シウシウ ちぢまりをさまる
こと。收縮に同じ。

縮甲 シウカウ ちぢまりをさまる
縮小 シウシウ ちぢまりをさまる
なること。ちぢめて小さくすること。
縮退 シウタイ ちぢまりひくこと。ち
ぢみしりぞくこと。

縮圖 シウツウ 原形を縮小して描き
たる作圖。

縮毛 シウモウ ちぢまる癖ある髪。
縮緬 シウモン 絹布の一種、より絲

縫匠筋 ホウシヤウシン (生) 腰の外側
より膝の内側に達する長筋、收
縮して腰關節を屈伸す。

縫糸 エイ。アイ。これ。
あゝ。ほ。こぶくる。

縫 縫ク。エ。たがふ。そむ
く。れぢれる。やぶるる
こと。

績 績ク。エ。みかく。をり
あまり。くみひも。彩色
のあざやかなること。

績縷 績ル。さいしきすること。
リン。

繡 繡ク。セウ。ぬひもの。み
かく。かとり。かんばた。
五采の備はれること。「人」。

繡匠 シウシヤウ ぬひばくをする職

繡隔 シウカク きれいな路。
繡腸 シウチヤウ 文才ある人。詩文の
思想に富みてあること。よき文。
錦心。

繡彩 シウサイ 色ざれるぬひ。
繡衣 シウイ ぬひのある着物。
繡帳 シウチャウ ぬひのあるとばり。

繡眼兒 シウガンニシ (動) 鳴禽類に屬し
形みそさいに似て稍や大き
く眼邊に白き圈あり全身黄緑
色にして腹部は白色なり。

繞 繞ク。セウ。ネウ。まどふ。めぐ
る。かこむ。とる。

繞梁 繞リヤウ 歌聲の妙をいふ。
餘音。

繞繫 繞ケイ めぐらしつなぐこと。
繞結 繞ケツ めぐりむすぶこと。
繞線 繞セン めぐりまどふこと。

繚 繚ク。レウ。もとる。なまむ。
めぐる。まどふ。
繚繞 繚リヤウ 女にたはむれること。
女を弄ぶこと。からかふこと。

繚辰 繚リテン ねぢけそむこと。
繚糾 繚リキウ もつれまつはること。
ハン。ヘン。ひるげる。ひ
もとく。みだす。ひらめ
く。ひるがへる。

繚讀 繚リダク ふみをひもとくこと。
書籍をよむこと。又繚書といふ。

繚蓋 繚リガイ あまがさ。きぬがさ。
セン。セン。つくらふ。お
ぎなふ。あむ。あつむる。
つよし。たもつ。すこや
か。「と。しうせん」。

繕治 繕シ 物をつくらひ修むる
繕口 繕ク たりなしの言葉。

織 織ク。オリ。もの。しるし。
おり出したる彩文。

織女 織メウ ばたおりの女。たな
織皮 ショクヒ けおりもの。「ばた」。

位に即きたまふと。よつき。
繼電氣 ケイデンキ (理) 一個の電磁石にして電信又は電話の電線に通ずる弱き電流の作用により受信部の電路を開閉し以て受信機を動かす用をなすもの。
繼父母 ケイボウ 實父母の去りたる後他より入り來りて父母たる身分を承繼したるもの。
繼受法 ケイジュホフ (法) 他國の法律を採用し又は之に則りて測定せる法律。
繼續法 ケイジツホフ (心) 事物を回想すれば連鎖の如く前後相接してその序を誤らずおもひおこす法。「出する費用」
繼續費 ケイジツヒ 毎年繼續して支拂ふべき金。
繼續犯 ケイジツハン (法) 刑律に觸るる所の行爲の長き間ひきつづきたる犯罪。
繼續事業 ケイジツジヤ 或年度以上に亘りて經營する事業。

繼受取得 ケイジュキョク (法) 前權利者に歸屬せし權利を法律又は意思表示によりて取得するもの。
繼續地役權 ケイジツチヤク (法) 他人の土地に間斷なく繼續して或便益を受くべき地役權。
辮 ベン へん。あむ。くむ。まじはる。まつはる。
辮髮 ベンバツ 髮を交へくみて後に垂したるもの。「いふ語」
辮髮奴 ベンバツド 支那人を罵りて呼ぶもの。
十五畫
纏 ラン。ぼる。蓋に同じ。
纏繞 テンジュウ まとひつくとも。まきつくとも。「る」と。
纏結 テンケツ からまる。まつはる。

纏足 テンソク 足へ布をしかさまさふと、支那婦人のなす風習。
纏束 テンソク からみつくと。まといつくとも。情緒。
纏縛 テンバク からみしげると。まといつくとも。
纏着 テンチャク まつはると。まといつくとも。
纏頭 テントウ 歌舞などせしときに褒美として與ふる物品又は金錢。當座の祝儀として與ふるものはな。
纏繞植物 テンジュウショク (植) 莖の直立せずして他のものにまといつくもの。
織 セン。ソン。ほそし。ほりさす。うすもの。すくなし。いさすぢ。ちひさし。にはか。一徹の十分の一。一の千萬分の一。織に同じ。
織刀 センタウ、こがたな。

織巧 セシヨウ 細かく巧みなること。
織毛 セシモウ 極めて細く短き毛。むくげ。「よわき」と。
織弱 セシジヤク たをやかなること。か
織砂 セシサ 細き指。美人の指。
織指 セシシ 細き指。美人の指。
織美 セシビ こまかにうつくしきこと。
織麗 セシレイ しなやかにうつくしきこと。極めてこまかきこと。
織微 セシビ 極めてこまかきこと。
織埃 セシアイ こまかきちり。わづかなること。又織芥といふ。
織毫 セシカウ わづかなること。「月」
織月 セシゲツ 三月月などの形細きこと。
織手 セシテ したやかなる手。ほそき手。「語」
織細 セシサイ いと細きさまにいふこと。こまかきこと。細きこと。
織細 セシサイ こまかきこと。細きこと。
織技 セシギ ことごとくしきわで。
織維 セシイ 生物體を組織する絲狀の如きもの。未來をこひ定むる方技。

織維組織 セシイキキ 織維によりて組織せられたるもの。
纍 ルキ。かひる。まとい。なは。いとつなぐ。まつふ。つながる。ひく。めぐる。サン。
纍 纍に同じ。
纍 シヨク。ザク。つぐ。つづく。つらなる。
纍出 ランシュツ つけて出づること。
纍在 ランザイ 其ものゝ存在が或時間の間つらぬこと。
纍紘 ランジュウ 再び繋るをいふ。
纍斷 ランタン つついたりたえたりすること。①常ならず。
纍稿 ランカウ つづきの原稿。
纍編 ランペン 本編にひき續きてつづきたるもの。正編の對。
纍續 ランジュク ひき續きて。うちつれて。ひきもきらずに。
纍發 ランハツ ひき續きて發する。たえず發すること。

纒 ケツ。ケチ。むすぶ。あやぎぬ。つなぐ。しぼり。
纒 ケツ。ケチ。あやぎぬのむすぶ。
十六畫以上
纒 ロル。
纒 ののいと。あさいと。
纒 ラン。ロン。纒の字と同じ。ふなづな。ともづな。
纒 ラン。さもづな。
纒 ケン。
纒 むすぶ。
纒 テン。
纒 纒に同じ。
纒 サン。サイ。すすぬふ。かしのいと。くるし。あなし。しぼらく。はじめ。わづか。あさし。
纒 セン。ソン。
纒 織に同じ。
纒 エイ。かんむりのな。なひも。むながひ。

缶部

纓冠 チクワン かんむり。
纓絡 チウラク かんむりのいさ。

纒 サ ン。つぐ。あつむ。あつまる。纒の本字。

纒 タウ。トク。ばた。ばたばた。かざし。あふぎ。

纒旗 タリキ 本營に立つるはた。

纒 ラン。ともづな。

纒 レン。つづく。

缶部

缸 カウ。もたひ。あぶらつき。

飲 ケツ。ケチ。かくる。われ

缺 ケツ。ケチ。かくる。われ

缺片 ケツペン 物のかけたるひら。

缶部

缺陷 ケツケン かけ。不足。「ち。不足なること。かけ。お

缺漏 ケツロウ かけてあること。

缺如 ケツジョ かけておつること。

缺落 ケツラク 規則の不十分なる所

缺刻 ケツコク かけ。ささみ。

缺隙 ケツキ すきま。

缺損 ケツソン かけ損じること。不足

缺禮 ケツレイ 禮儀を缺くこと。

缺乏 ケツフ とぼしきこと。不足す

缺唇 ケツリン みつぐち。

缺席 ケツセキ 出づべき筈の席に臨

缺籬 ケツリ すきまだらけの垣根。

缺點 ケツテン たらぬところ。あや

缺去 ケツキョ 物のかけ去る。缺

筥 シヤ。シヨ。うさぎあみ。

罨 コク。うをあみ。ひきあみ。

罨 ヨウ おほあみ。

罨 クワイ。ケイ。かかる。さばり。

罨 ヒウ。フ。罨に同じ。

罨 おほふ。くるまあみ。

罨 エン。アフ。あみ。あみす。

罨 チ。たつる。おく。まうく

罨 ゆるす。すつる。うまや

罨 ど。やすんず。

罨 酒 チユ 酒を出し供へると。酒

罨 宴 を開くと。「郵といふ。

罨 置酒 チキキ 宿場。とりつき。又置

罨 置贊 チキキ 儀式を行ひ臣となること

罨 置毒 チキキ 毒を調劑すること。

罨 置錐地 チキキ 極めて僅かなる

缶部

罨 ケイ。キヤウ。つく。つくる。むなし。うつる。

罨 罨 残らずなくなる。

罨 カ。ケ。さくる。われめ。

罨 すきま。さす。あな。

罨 罨 すきま。われめ。

罨 罨 はじける。裂け開くと

罨 罨。さかだる。もる。た

罨 罨。つと。おもんず。

罨 罨 罨をのせる罨。

罨 罨。ころつぶぬき。

罨 罨。エウ。アウ。エウ。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨部

罨 バウ。マウ。あみ。あな

罨 あみ。しるし。くらます。

罨 罨 毒のある蛙。

罨 罨 毒のある蛙。

罨 罨 毒のある蛙。

罨 罨 毒のある蛙。

罨 罨 毒のある蛙。

罨 罨 毒のある蛙。

罨 罨 毒のある蛙。

罨部

罨 シヤ。シヨ。うさぎあみ。

罨 コク。うをあみ。ひきあみ。

罨 ヨウ おほあみ。

罨 クワイ。ケイ。かかる。さばり。

罨 ヒウ。フ。罨に同じ。

罨 おほふ。くるまあみ。

罨 エン。アフ。あみ。あみす。

罨 チ。たつる。おく。まうく

罨 ゆるす。すつる。うまや

罨部

罨 ケイ。キヤウ。つく。つくる。むなし。うつる。

罨 罨 残らずなくなる。

罨 カ。ケ。さくる。われめ。

罨 すきま。さす。あな。

罨 罨 すきま。われめ。

罨 罨 はじける。裂け開くと

罨 罨。さかだる。もる。た

罨 罨。つと。おもんず。

罨 罨 罨をのせる罨。

罨部

罨 罨。ころつぶぬき。

罨 罨。エウ。アウ。エウ。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

罨 罨。ひばち。

网部 九一十畫

网部 九一十畫

网部 十一畫以上

罪囚 ギイシラ 罪ありて獄屋につな

罪跡 ギイキキ つみのあと。罪を行

罪状 ギイキウ 犯罪の状態。

罪科 ギイキウ つみ。とが。けいばつ

罪過 ギイキウ あやまち。つみ。

罪譴 ギイケン つみ。とがめ。

罽 タウ。テウ。タク。トク。

罽 やな。やなあみ。

罽 リン。シン。

罽 のしつけ。

罽 九一十畫

罽 シ。サイ。

罽 ついたて。あみ。

罽 シヨ。ソ。ふみ。つかさ。

罽 ふだ。しるす。おく。

罽 署名 シヨイ 氏名を記す。①

罽 捺印。 「出勤する人。」

罽 署員 シヨキシ 署となづくる役所に

罽 署内 シヨナイ 署と名づくる役所の

罰 バツ。つみ。とがむ。罪惡

罰 又は過失あるものに科

罰 する惡報。

罰 罰杯 バツガイ 罰として強て飲まし

罰 むる杯酒。

罰 罰俸 バツホウ 官吏の過失に對して

罰 課する罰金を其俸給中より取

罰 立つると。 「法令。」

罰 罰則 バツクツ 刑罰の事を規定せる

罰 罰責 バツセキ 刑罰に就ての責任。

罰 其罪過を責めて之を罰すると。

罰 罰金 バツキン (法) 犯罪の制裁とし

罰 て其犯罪者より強取すべき金

罰 罷職 ヒシヨウ 職をやめると。

罰 罷免 ヒシン 職を免ずると。

罰 罷休 ヒシキウ 職をやめ休息すると。

罽 羅帳 ラシヨウ 絹布のさばり。

罽 羅蓋 ラガイ うすものをはりたる

罽 羅綾 ラシヨウ うすものさあやおり

罽 羅縠 ラシヨウ うすものあやおり。

罽 羅縠 ラシヨウ 「毛織の敷もの。

罽 羅縠 ラシヨウ 錦繡。 「毛織の敷もの。

罽 羅縠 ラシヨウ 錦繡。 「毛織の敷もの。

罽 羅縠 ラシヨウ 錦繡。 「毛織の敷もの。

罽 羅縠 ラシヨウ 錦繡。 「毛織の敷もの。

罽 羅縠 ラシヨウ 錦繡。 「毛織の敷もの。

罽 罷業 ヒシヨウ 仕事をやめると。

罽 罷工 ヒシヨウ 工事をやむと。

罽 罷工 ヒシヨウ 工事をやむと。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

罽 罵倒 バツタウ ひどくののしる。

网部 十一畫以上

网部 十一畫以上

网部 十一畫以上

罽

ケン。あみはる。かけて

さる。くびる。はりあみ。

きぬ。絹に同じ。

ラ。あみ。とりあみ。つら

なる。うすもの。まとふ。

羅衣 ライ。うすもの、衣。

羅切 ラキキ 陰莖を切斷すると。

羅絡 ララク つみ。まとふ。

羅漢 ラカン (佛) 見思の惑を斷じ

て三界の生を受けず智斷の功

徳已に具定して人天の供養を

受くる覺者の位地。

羅布 ラフ 數多列。べし。く。

羅宇 ラウ 煙管の竹管。らわ。

羅列 ラリ 一列にならぶと。居列

ぶと。つらなりならぶと。

羅刹 ラシヤク (佛) 人を食ふ鬼。

羅城 ラシヤク 城のそとぐるわ。

羅拜 ラハイ つらなりて拜すると。

羅紗 ラシヤ 羊毛にて織りたる地

の厚き密なる織物。「香の一。

羅國 ラク 香合せに用ゆる七種

羅針盤 ラシヤン 磁石盤。又羅盤

羅面絃 ラシヤン 昔葡萄牙人の齋ら

せし樂器、三弦を張り弓にて彈

羅漢柏 ラカンハク (植) あすはひの

き。又羅漢松といふ。

羅行弓 ラシヤン 變化のものなど

を射るべき白木の弓。

羅句語 ラシヤン 又拉丁語に作る。

古の羅馬國の語、今は多く學術

上の語に用ゐらる。

羅馬字 ロマジ 羅馬國の文字。A.

B.C.などの類。

羅馬教 ロマキョウ 耶蘇教の一派、羅

馬法王を教主と仰ぐ。

羅馬數字 ロマシジ 羅馬の數字、

I. II. III. IV. V. などの類。

羅針子午線 ラシヤン 羅針盤

の磁針の軸を通過する平面。

羅針盤 ラシヤン 磁石盤。又羅盤

羅面絃 ラシヤン 昔葡萄牙人の齋ら

せし樂器、三弦を張り弓にて彈

くもの、今日の胡弓是れなり。

【羈】

キ。たび。くつわ。たづな。つなぐ。ほだす。
 羈絆 キン きづな。ほだし。くわんけい。①—を脱す。
 羈旅 キヨ タビ。旅。旅。
 羈勒 キョク 手綱。手綱。
 羈繫 キキ 手綱で繋ぐ。手綱で牽く。
 羈牽 キケン 手綱で牽く。手綱で牽く。
 羈客 キカク タビ人。旅客。

羊部

【羊】

ヤウ。ひつじ。
 羊角 ヤウカク つむじかぜ。旋風。
 羊車 ヤウシャ 羊に挽かす車。飾りたててある車。「りたる筆」
 羊毫 ヤウマウ 羊の毛にて穂をつくる。見羊。羊の子。「欄」
 羊仔 ヤウザイ 羊を圍ひ置く牧場の羊舎。
 羊舍 ヤウシャ 羊の小屋。
 羊腸 ヤウチヤウ 羊のはらわた。山路

曲折して嶮岨なるをいふ。
 羊羹 ヤウカウ 煮たる小豆を搗りて皮をとり其水をしぼりたるものに寒天を交へれりかためたる菓子。
 羊膜 ヤウマク (動)有胎盤類に屬する哺乳動物の胎兒を包む膜。
 羊齒類 ヤウシルル (植)陰花植物の一、莖は地下莖にして羽は羽状覆葉を爲す。わらび。ぜんまい。べにしだ等之に屬す。
 羊質虎皮 ヤウシツコ 實力なくして外貌をかざるをいふ。
 羊頭狗肉 ヤウトウコウ 外見立派にして實際の之に伴はざるをいふ。

二一四畫

【羴】

キヤウ。カウ。にしのえびす。ああ。きん。かへす。つよし。あきらみ。イヤウ。牂に同じ。

【美】

イウ。ユ。よし。みちびく。すすむ。ビ。ミ。うまし。よし。このむ。よみす。うるはし。いつくし。うつくし。感興ある實體の理想化せられたる形象にいふ語。
 美女 ビョウ 容色のすぐれたる女。
 美醜 ビョウウ うつくしきとみにくきと。
 美人 ビョウウ うるはしき女。みめよし。
 美形 ビョウゲイ みめうつくしき女。
 美的 ビョウモノ 物事の美なるにいふ語。①—觀念。
 美化 ビョウカ 美に醇化する。美本 ビョウホン 印刷・紙質・装釘等の美しき書籍。「徳」
 美德 ビョウデク ほむべき行ひ。美しき美術 ビョウゲツ 美を表現することを目的とする藝術又は製作。書・畫・彫刻物等の類。「喰物」
 美味 ビョウミ 味のよき食物。うまさ

美妙 ビョウミ 美しき極み。①—の聲
 美男 ビョウナン 容色のうるはしき男。
 美髯 ビョウセン うつくしきあごひげ。
 美景 ビョウケイ うつくしき景色。
 美政 ビョウセイ よき政治。「ことば」
 美辭 ビョウジ 美しき文句。巧みなる美音 ビョウオン うるはしき音聲。諸ひ聲のよきと。
 美風 ビョウフウ 善き風俗。又美俗といき話。他の美事を物語ること。
 美文 ビョウモン みやびやかなる語句を用ひてうるはしくかざり綴りたる文章。「くしき容貌」
 美色 ビョウシキ うつくしき色。うつくしき聲。
 美聲 ビョウセイ うるはしき聲。
 美事 ビョウジ ほむべきこと。から。
 美舉 ビョウキョ 美しきふるまひ。ほむべきくばだて。
 美學 ビョウガク 美といふことに付て研究する學。審美學。「とば」
 美言 ビョウゴン よきことば。ほむること。

美顔 ビョウガン うつくしきかほ。
 美稱 ビョウケウ ほめていふことなへ。
 美裝 ビョウサウ うつくしきよそほひ。
 美名 ビョウメイ よき名聲。「質」
 美質 ビョウシツ よき性質。ほむべき性質。
 美食 ビョウシキ あちよき食物。
 美惡 ビョウアク よきとあしきと。
 美麗 ビョウレイ うるはしきと。うつくしきと。①—なる花。
 美觀 ビョウカン 美しき見もの。
 美感 ビョウカン 美しく感ずること。
 美術品 ビョウゲツピン 美術の製作品。
 美術家 ビョウゲツカ 美術のことに精しき人。「る少年」
 美少年 ビョウシヤウ 容色のすぐれたる美男子 ビョウシヤウ 顔かたちのうるはしき男子。優美なる男子。
 美辭學 ビョウジガク 辭を完全に使用する。こゝを研究する學問。
 美意識 ビョウイシキ 美を感受する意識。美醜を判別する意識。
 美的生活 ビョウミケイタク 美を人生

【羔】

ひつじのこ。こひつじ。五六畫

【羞】

シウ。シユ。すすむ。くひもの。はづかしむ。そなふ。羞耻 シウチ はぢらふと。耻づると。羞惡 シウガク はぢていやがること。テイ。タイ。

【羝】

をひつじ。こひつじ。羝羊 テイヤウ 生れて三歳になる羊イ。

【羚】

レイ。リヤウ。ひつじのこ。羚羊 レイヤウ (動)かもしか。

羽部

羽 ウ。チ。はれ。つばさ。のぶる。は。たすく。あつむる。かざし。かり。おほふ。

羽毛 ウモウ。はれと毛と。はれ。

羽化 ウウ。道家の説。化して仙となり空中を飛行するをいふ。

羽林 ウリン。天子の宿衛を司る役。

羽翟 ウヂ。舞をまふ人の持つ羽根を束れたるもの。「の兵。

羽衛 ウエイ。弓矢をもちたる衛り。

羽扇 ウセン。美しき扇。

羽水鱗空 ウスイリンクウ。及びも付か。

羽扶翼佐 ウフウエサ。陰になり陽に

三四畫

翬 ゲイ。ガイ。はれ。たひらか。

翬 チウ。ヂユ。さびあがる。

翬 シ。天空に飛ぶと。

翬 つばさ。ただ。オウ。ウ。かしらのしたのけ。とぶ。おきな。としより。あつし。いだく。こまやか。かかへる。

翬 翁草 オウソウ。宿根草。初夏紅色の小花を開く。菊の異稱。松の異稱。

翬 翁媪 オウオン。男の老人。老翁に同。

翬 翁仲 オウチュウ。塚間の偶像。「じ。

習

シフ。ジフ。とぶ。ならふ。なる。の。ごか。まなぶ。かさなる。くるしむ。

習合 シウカ。宗教の教理などを彼此結合し若くは折衷する。

習字 シジ。文字を書くことをならふこと。てならひ。「る風。

習習 シウシウ。柔かなる貌。一た。

習氣 シウキ。ならはせ。くせ。

習學 シウガク。學問を修業する。

習性 シウセイ。個人の習はし。習慣と性質と。「ひ。

習俗 シウソク。世間の習はし。なり。

習慣 シウクワン。ならはし。しきたり。

習禮 シウレイ。禮儀作法をならふこと。

習熟 シウジュク。能く學び覺ゆること。なれて上手になる。

習得 シウタク。覺へ。こむ。ならひ。て會得する。

習字帖 シウジテツ。てならひ草紙。習字の手本。

習合教 シウカクキョウ。種々の教理又は主義等を結合し若くは折衷して一派を立てたる宗教。

習慣法 シウクワンホウ。久しき間人民の準據せる習慣を認めて法律の効力を附與したるもの。

習慣性 シウクワンセイ。物體が外物の作用を受けざるまじは常に靜止するか若くは一直線に等速の運動をなすといふ性。

翌 ヨク。イキ。あきらか。あくる。あした。たすく。

翌日 ヨクニチ。あくる日。又翌天といふ。

翌朝 ヨクアサ。あくるあさ。又翌晨

翌旦 ヨクタン。あくる日のあけがた。又翌曉といふ。「げん。

翌夕 ヨクセキ。翌日の夕暮。あくる

翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

翬 翬 翬

羽部 七十一畫

羽部 七十一畫

羽部 十一畫以上

翠簾 スサシ あなすだれ。

翠嵐 スサシ 青山の形容。夏の木の茂りたる貌。「色」。

翠色 スサシ 山又は松などの緑。スサシ 鳥の異名。

翠微 スサシ ひすかに高く見ゆる山。山の半腹。山の八合目。山氣のこもりて林木の色縹渺と薄く懸れること。

翠巒 スサシ 微かに高き山々。テキ。ヂヤク。

翟羽 テキ。ヂヤク。 やまさじ。やまどり。

翬羽 テキ。ヂヤク。 キ。とぶきじ。とびあがる。はやくとぶ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

羽部 十一畫以上

羽部 十一畫以上

老部

翼賛 ヨウサン そはより力を添へ助くること。

翼戴 ヨウタイ たすけて尊戴すること。

翼手類 ヨウシュルイ (動) 哺乳類の一、前肢・後肢及び尾部の間に皮膜ありて伸長せる手指は之を支持する骨となり皮膜外の端に鉤爪ありて物にかゝりちカウ。コウ。「イまる。さびかへる。かける。へん。ハン。ホン。とぶ。ひるがへる。かへす。ひるがへす。くつがへる。るがへす。」

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻 翻。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翻案 ホンアン 初めの考へを翻へすと。古人の作れる詩の作意を翻へして表と裏といひ替ふること。

翻筋 トモリ 身を倒に翻へして立つこと。とんぼがへり。

翻雲覆雨 ハンウンフクウ 雲となり雨さなること。物の變りやすきこと。ゲウ。ケウ。あがる。とり

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翹 翹。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

翬 翬。はやくとぶ。 グワン。ならふ。もてあそぶ。いさふ。なる。ながむ。

耀 エウ。ひかり。かがやく。あきらか。

老部 ラウ。ロウ。いのちながし。としより。おい。ひまし。おきな。としたけたり。つかる。かる。くつ。

老父 ラウ。ロウ。としよりたる父。

老母 ラウ。ロウ。としよりたる母。

老大 ラウ。ロウ。若ざかり過ぎて既に衰へたること。

老人 ラウ。ロウ。としよりたる人。

老臣 ラウ。ロウ。老功の臣。家老。

老生 ラウ。ロウ。老人の自稱。

老女 ラウ。ロウ。年寄り女。武家時代の奥女中の頭。

老中 ラウ。ロウ。徳川時代にて政務に與りし第一の役人。

老少 ラウ。ロウ。老人と若ものこと。

老手 ラウ。ロウ。ものなれたる腕前。

老部

老練せる人。「對する敬語。」
 老兄 ラウケイ 自己と同等位の人に
 老巧 ラウカウ 久しく經驗を積みて
 ものごとに巧者なること。老練。
 老吏 ラウリ 物慣れた役人。老いた
 る役人。老巧なる官吏。
 老友 ラウイウ 年とりたる友。
 老壯 ラウワウ 年よりとわかものと
 ラウツク 老人のあゆみ。
 老死 ラウシ 年老いて死ぬること。
 老妓 ラウキ 年とりたる藝妓。
 老者 ラウシヤ 年より。
 老身 ラウシ 古いのみ。
 老功 ラウコウ 久しく經驗をつみて
 熟練すること。久しく勤務したる
 いさを。「老弱といふ。」
 老幼 ラウエウ 年よりと子供と。又
 老將 ラウキウ 年とりたる大將。經
 験に富む大將。「なごの稱。」
 老職 ラウシヨク 幕府にて大老・中老
 老眼 ラウガン 年とりて明視の距離
 の遠くなりたる眼。

老部

老樹 ラウジュ 古い木。
 老練 ラウレン 久しく經驗を積みも
 のことになれて巧みなること。
 老鶯 ラウウ 春過ぎてなほ鳴く鶯
 老朽 ラウキウ 老いくちて役に堪え
 ること。①官吏。
 老佛 ラウフツ 老莊の教と佛陀の教
 老成 ラウセイ ものなれたること。お
 さなぶること。「の敬語。」
 老師 ラウシ 年老ひたる先生。先生
 老來 ラウライ 年をとりて以來。
 老耄 ラウマウ 老いぼれること。又其
 老翁 ラウウウ 年老いたる男。「人。
 老爺 ラウヤウ やち。だんな。男に
 對する敬語。「樂み。」
 老後 ラウゴウ 年老いてのち。①の
 老智 ラウチ 巧妙なる智慧。
 老輩 ラウバイ 年よりたる連中。
 老農 ラウノウ 農事にたけたる百姓
 老舗 ラウポ 數代續きし商家。しに
 せ。古き店。
 老熟 ラウジュク 久しく經驗を積み

老部

て物事に熟達せると。
 老衰 ラウス 老い衰ふること。
 老嫗 ラウエン 年とりたる女。又老
 嫗といふ。「なること。」
 老實 ラウジツ 事になれてまめやか
 老羸 ラウリン 年とりてよわり衰ふ
 ること。「老練の學者。」
 老儒 ラウジウ さしとりたる學者。
 老漁 ラウイフ つかきほり。物に深
 入りして救ふべからざるをい
 老僧 ラウソウ 年おいたる僧。「ふ
 老雄 ラウウ 年とりたる英雄。
 老廢 ラウハイ 萬くなり又は年をさ
 りて役に立たぬこと。①せる軍
 老體 ラウタイ 年よりの身。「體。
 老病 ラウビョウ 老衰より來る病氣。
 老耄 ラウマウ 老いぼれること。おい
 ぼれたる人。
 老若 ラウニヤク 年よりと若きと。老
 中若年寄と。①男女。
 老年 ラウナン 古いたる年。
 老蟾 ラウセン 月の異名。

老部

老騏 ラウキ オいたるよき馬。英傑
 の士の既に老いたるをいふ。
 老獯 ラウクイ 久しく經驗をつみ
 て狡猾なること。又老狡といふ。
 老大人 ラウダイジン としとりたる
 男子の敬稱。他の老いたる父の
 敬稱。「先生。」
 老先生 ラウセイセイ さしとりたる
 老大師 ラウダイシ 繁榮の時期已に
 過ぎて衰運に傾ける大師。
 老人星 ラウジンセイ 南極星の異稱。
 老練家 ラウレンカ 老練したる人。
 老眼鏡 ラウガンキョウ 遠視眼のもの
 、用ふる眼鏡。
 老莊學 ラウワウガク 老子と莊子と
 を祖述する學。虚無を以て宇宙
 の根原と爲し無爲を以て道徳
 の標準とするもの。
 老成人 ラウセイジン 老成の人をいふ
 老婆心 ラウバシン 思ひすぎしたる
 心でへ。親切すぎたる心。
 老馬智 ラウバナチ 道に熟せるもの

老部

は老いても用ゆべきをいふ。夫
 々物事に久しくたづさはりた
 るものゝすぐれたる智。
 老少不定 ラウサウフウダイ 老年
 も少年も死期定まらざるをい
 ふ。人生の果敢なきにたとふ。
 カウ。コウ。いのちなが
 し。かんがふる。はかる。
 考省 カウシヤウ 考へ廻らすこと。
 考究 カウカウ 考へ究めると。①學
 理を―す。
 考槃 カウパン 身を遁れ世を避けて
 自ら其志を成すをいふ。
 考案 カウアン かんがへ。くふう。
 考思 カウシ かんがへ。しあん。
 考古 カウコ 古代の遺物によりて
 古代の物事を研究すること。
 考察 カウカク かんがへしらぶること

老部

考量 カウリヤウ かんがへはかると。
 考慮 カウリウ かんがへ。おもんば
 かり。①―を凝らす。
 考據 カウキョウ 考をつくすべきより
 じ。ころ。
 考鞠 カウキウ 罪などを責め調べる
 考妣 カウヒ 没したる父母。
 考訊 カウシン 調べ尋ねること。
 考訂 カウテイ しらべたすこと。
 考尋 カウジン かんがへ尋ねること。
 考試 カウシ 問題を掲げて其學力
 資格をためしみる。試験。
 考檢 カウケン 吟味すること。
 考證 カウテイ 古代の物事を説く
 に證據の詮索を要すること。
 考課 カウカク 官吏などの事務の効
 果。支那にて官吏を採用する試
 考績 カウキン 官吏の功課。「驗。
 考古學 カウコガク 古代の物事を研
 究する科學。
 考證學 カウシヨウガク 古書を説くに
 證據の詮索を要とする學。

耳部

耳 シ。ニ。みみ。のみ。
したがふ。

耳孫 シン ひまごのともやしやま
耳耳 盛なる貌。「こ」

耳目 シン 聴くと視ると。耳と目
と。諸方の事情を告ぐる臣下又
は部下。「の老賢」

耳順 シン 六十歳をいふ。「の老賢」
耳食 シン 聞きかじり。耳學問。
眞正の味を知る能はざるも。

耳朶 シン 耳の下部の垂れたる肉
みみたぶ。耳朶に觸るといへば
物事を聞き込みたることなる。

耳語 シン ささやくこと。耳に付き
小語すること。「氣」

耳炎 シン 耳の中に熱を持つ病
耳學 シン 書を見て學習せるに
はあらで只聞きおぼえにて知
りたるも。みまがくも人。

耳珠 シン みまがざりのたま。

耳門 シン みまのあな。

耳糠 シン みまのあか。

耳竅 シン 耳の穴。耳孔。

耳鳴 シン 耳のなかの鳴ると。轉
じて自から知れるも他人の知
らざることにいふ語。

耳聾 シン つんぼ。「こ」

耳聰 シン はやみみ。みまさき
耳熱 シン 酒に酔ふこと。

耳刺 シン 耳學問。學者自から謙
遜して耳刺の學といふとあり。

耳鼠 シン (動)むささびの異名。
耳下腺 シン (生)耳の前下方に
ある最大の唾腺。

耳目官 シン 君の耳目たる
の臣。視察の事務にあたる官。

耶娘 ヤシヨ 母のこと。

耶穌教 ヤシヨ 耶穌基督を祖とす
る宗教にして西洋諸國に多く
行はるるもの。

耿耿 カウ 不安心の貌。

耿介 カウ 孤立すると。節を執
り度を守るも。

耿潔 カウ 清潔なるも。

耽耽 タン 清濁なるも。

耽味 タン 心をいれ味ふこと。

耽習 タン ふけり習ふこと。

耽酒 タン 飲むこと。

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

耽耽 タン 怒りかけて望むこと。見
つむると。ねらふも。虎視！

聒聒 クワクワ 聲騒がしきこと。又
聒然といふ。「しきこと」

聒絮 クワクワ 一層うるさく騒が
聒語絮説 クワクワ 小言のう
るさきこと。

聒聒 クワクワ 聲騒がしきこと。又
聒然といふ。「しきこと」

聒絮 クワクワ 一層うるさく騒が
聒語絮説 クワクワ 小言のう
るさきこと。

聊爾 レイ かりそめ。いやしくも
レイ。リヤウ。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

五十六畫

聊爾 レイ かりそめ。いやしくも
レイ。リヤウ。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

聆聆 レイ 手にさる如くに聞え
るも。又聆然といふ。
クワツ。クワチ。かまび
すし。こゑみだる。おる
か。くらし。

七十一畫

聖 セイ。シヤウ。ひじり。さ
とし。とほし。ものしり。
あきらか。最高の徳を備
ふる人。天子の尊稱。

聖人 セイ 智徳共に常人の上に
ある人。萬世の師表と仰ぐべき
智徳ある人。

聖上 セイ 天子を稱へ奉る語。

聖主 セイ 聖明なる君主。

聖帝 セイ 聖徳高き天子。又聖
天子といふ。①一上に在り。

聖明 セイ 天子の御明徳。

聖門 セイ 孔子の教。儒教。

聖世 セイ 明らかに治まる御世

聖代 セイ 天子の御代。よき御
代。又聖朝といふ。

聖祚 セイ 天子の御位。

聖裁 セイ 天子の御さばき。①
一を仰ぐ。

聖旨 セイ 天子のおぼしめし。

七十一畫

聖謨 セイ 天子の御政治の方針。
聖書 セイ 耶穌教にて新約全書
と舊約全書との稱。「書」

聖經 セイ 聖人の述作にかゝる
聖目 セイ 碁盤の目の上に記し
たる九つの點、即ち中央にある
一點と其の點より上下左右に
通ずる線上五つ目を隔てたる
所に各一點即ち四點と其の四
點ある線上五つ目を隔てたる
四隅に各一點合して四點とな
いふ。圍碁にて技倆勝れたる敵
手に向ふとき上述の九點に各
一石宛を豫め置くこと。

聖像 セイ 聖人の肖像。

聖堂 セイ 孔子を祭る堂。

聖餐 セイ 聖餐式の食事。

聖壽 セイ 天子の御壽命を申し
奉る語。又聖算といふ。

聖意 セイ 主上の御意。「る語」

聖諭 セイ 天子の勅諭を申し奉
聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖會 セイ 神事に關する集會。

聖駕 セイカ 天子の御のりもの。
聖慮 セイリョ 天子の御思慮。
聖業 セイギョ 主上のなし給ふ事業
聖祖 セイソ 天子の御先祖。
聖靈 セイレイ 天帝の靈能、即ち人に靈能を興ふるもの。「き壇」に靈能を興ふるもの。「き壇」
聖壇 セイダン 神を祭る壇。たふと
聖殿 セイテン 神を祭る殿。
聖善 セイゼン 慈母。は。
聖廟 セイボウ 孔子の廟。
聖賢 セイケン 聖人と賢人と。智徳最すぐれたる人の總稱。
聖勅 セイチョク みことのり。勅旨。
聖學 セイガク 聖人の説き示したる學問。「教の稱」
聖教 セイキョウ 聖人のなしへ。耶蘇
聖恩 セイオン 主上の御恩惠。
聖徳 セイトク 天子の御徳。
聖鑑 セイカン 天子の御鑑識。
聖斷 セイダン 主上の御裁斷。
聖輦 セイレン 天子の御車。
聖餐式 セイサンシキ 基督教にて耶蘇

基督が磔殺せらるゝ前後其弟子に葡萄酒及麵包を分け與へしことの紀念に隨時施行する儀式。
聖目風鈴 セイメフウリン 圓基にて技倆達にすぐれたる敵手に向ふとき聖目に石を置いて尙ほ及ばざるとき尙ほ其の四隅の石の隅の筋違ひの目へ各一石を加ふるも。
聘 ヘイ ヒヤウ。とむらふ。とふ。禮を以て賢者を呼び迎ふ。結納して妻をめとると。安否をたづねると。
聘金 ヘイキン 幣物をたづさへて訪問する。結納金。
聘禮 ヘイレイ 結納の品物。人を呼び迎ふる爲の禮物。
聘徵 ヘイテイ 禮儀を以て迎へる。師をす。
聘用 ヘイユウ 禮を以て召出し用ふ

聘招 ヘイショウ 禮をそなへて招くも(國字)。しかと。たしかに。あきらかに。
聒 セ サイ。むこ。
聒聒 セセ 俗の垢字。
聰 サウ サウ。ス。
聞 ブン ブン。モン。つぐ。なしふまうす。きく。きこゆ。
聞見 ブンケン 聞いたり見たりする。
聞知 ブンチ きくしる。
聞名 ブンメイ 名を傳へ聞くと。名聲に同じ。
聞達 ブンダツ 評判。ほまれ。「望」
聞望 ブンボウ よきほまれ。令聞。令聞。シユ。ス。あつむる。もろもろ。ともに。おほし。さ。
聚 シュ シユ。ス。あつむる。もろもろ。あつめちらすと。
聚集 シュウシツ 集める。書籍を
聚散 シュウサン あつまるとちると。
聚合 シュウカツ シユ。ス。多く集まると。

聚斂 シュリン 租金を集むると。
聚攢 シュサン あつまると。
賃 シヨウ シヨウ。シユ。ソウ。みみしひ。そびゆる。たかし。おどろく。れがふ。すすむ。つつしむ。
賃時 シヨウジ 山などのそばだてる。
賃動 シヨウドウ 耳そばだつると。お
聲 セイ セイ。シヤウ。こゑ。おごひびき。のぶる。ほまれ。
聲名 セイメイ 評判。名の聞えること。
聲明 セイメイ いひふらすこと。はつ
聲曲 セイキョク 鳴物。音曲。歌謡。
聲色 セイシキ 音聲と顔の色。音楽と女色と。「きはひ」
聲威 セイイ 評判の盛んなること。い
聲帶 セイタイ (動)高等動物の有する發聲機關、喉頭部に位し彈力

ある二條の靱帯より成る。
聲門 セイモン (生)二條の聲帶の間
聲望 セイボウ 評判と人望。ほまれ。
聲譽 セイヨ きこえ。ほまれ。
聲聞 セイモン 世の評判。名聲。令聞
聲援 セイエン 傍より言葉をそへて助けること。
聲價 セイケン せいかきこえ。うばさ。
聰 ソウ ソウ。ス。きく。あきらか
聰明 ソウメイ みみとし。つうす。とほ
聰敏 ソウミン さとし。かしこし。
聰敏 ソウミン 才智するごきこと。か
聰情 ソウセイ ソウジヤウ。さとき。こころ。
聰明 ソウメイ ソウメイ。聞く。見るとの敏き
聰耳 ソウジ かしこしこと。
聰悟 ソウブ ばやみみ。
聰昭 ソウショウ ソウゴ。さと。りよきと。りこつ
聰昭 ソウショウ ソウソウ。すぐれて賢明なると

聰叡 ソウエイ ささくあきらかなる
聰慧 ソウエイ よく物事に通曉せると。
聰慧 ソウエイ 才智するごくして物事のわかりよきこと。
聯 レン レン。つらなる。かくる。たえず。つづく。書畫を書きたる細長さ板、柱などに懸けて飾するもの。律體の詩の對句。
聯合 レンガフ 二つ以上のもの一結合したるもの。「ふと」
聯盟 レンメイ 一同のものが盟ひ合
聯立 レンリツ つらなり立つこと。
聯基 レンキ 數人二組に分れ一局の基をいばる。一石づつ。打
聯名 レンメイ 名を連れること。①
聯珠 レンジュ 珠を連れること。
聯娟 レンジュン 眉などの面白く曲線を描ける如きもの。美しき眉。
聯結 レンケツ 物を繋ぎ又は語句を連れること。つらなりむすばると

耳部 十一畫

聯句 レンク 句を聯ねる。各一人一句づつ作りたるを集めて一篇となしたる詩。

聯隊 レンタイ 軍隊編制の名、三個大隊即ち十二個中隊より成る。

聯絡 レンラク つづくこと。引き連らなること。各隊の一を通ず。

聯想 レンサウ 一事を思ひ出して種々の事を思ひ續けること。

聯邦 レンバウ 數國相連合して一國を爲すもの。獨逸。

聯瑣 レンサウ つらなり。くさり。

聯隊旗 レンタイキ 其聯隊を表彰する旗、即ち軍旗。

聯隊區 レンタイク 聯隊區司令官が其の職務を行ふ區域。

聯合國 レンガクワ 數國が聯合して其上に一の國家を設定せるもの。「隊を聯合したる軍」。

聯合軍 レンガクン 二國以上の軍

聯合內閣 レンガクナイカ 二個以上の政黨の黨員によりて成立せ

耳部 十二畫以上

る内閣。又聯立内閣といふ。

聯合艦隊 レンガクカネイ 二個以上の艦隊を聯合して編制せる艦隊。司令長官。

聯合債務 レンガクサイム 各債務者が各一部に就きてのみ義務を負ふ債務。

聯立方程式 レンリツフハウエイシキ (數) 一以上の未知數を含む二以上の方程式が未知數の同じ値によりて満足さるべきものをいふ。

聯隊區司令官 レンタイクシレイクワン 師團長に隷屬し聯隊區内に於ける徵兵召集其の他在郷軍人・補充兵役者等に關する事項を掌るもの。

十一畫以上

職 ショク。シキ。つかさ。わざ。しるす。つれ。くらゐあるじ。おほし。わかづ。

めし。みつぎもの。もつばら。擔當してある事項。生計の爲になす仕事。其の官に配當せられたる政務を取扱ふ地位。手にて物を製作することを業とするもの。

職人 ショクニン 手にて物を製作することを業とするもの。

職工 ショクコウ 貨物の製作に従事する人。特に資本主に雇はれて工業に従事する人。

職業 ショクゲツ なりわひ。家業。

職員 ショクサン 或職務を擔當せる人。庶務を取扱ふ人。

職能 ショクノウ つかさめのはたらき。

職事 ショクジ こと。つとめ。

職分 ショクブン 職務上の本分。自分の爲すべきつとめ。役目。

職權 ショクケン 或職に付從せる權限。官吏の命令し又は處分する權力。「を全うす」。

職責 ショクセキ 職務上の責任。

職掌 ショクシヤウ つとめ。擔當の職務。

耳部 十二畫以上

耳部 十二畫以上

務。役目。

職由 ショクユ 事の據りて基くこと。もつばらもつぎよること。

職制 ショクセイ 役目の定め。職務分配上の規定。「務」。

職務 ショクム つとめ。擔任する事

職思 ショクシ 専らに思ふこと。

職印 ショクイン 職務上に用ゆる印、大抵官職氏名又は官職のみを彫刻したるもの。

職氏名 ショクシナイ 官職と氏名。

職分田 ショクブンテン 古官職に應じて官より給與せられし田。

職員錄 ショクシネロク 國家の職務に従事するもの、官職・姓名等々を記せるもの。

職務俸 ショクムホウ 或職務に當るにつきて特別に給與せらるる俸給。

職務細則 ショクムサイゾク 其の職務の執行に關する規定。

職務心得 ショクムココロエ 職務上心

耳部 十二畫以上

得おくべき事柄。假に其の職務を取扱ふ地位。

職工同盟 ショクコウドウメイ 職工が共同の利益を保護し進捗せしめんがために結びたる團體。

職權處分 ショクケンシヨブ 職權の範圍内に於て自由に行動する處分。

聶 テフ。セフ。ネフ。ささやく。あはす。なさむ。ゆる。うごく。

聶 クワイ。ゲ。

聶 みみしひ。つんば。

聶 クワイ。つんば。

聶 テイ。チャウ。きく。ゆるす。まつ。したがふ。まつりごと。つまびら。はかる。さだむ。うか。ふ。受ける。聴神經によりて之を大膽に傳へて知覺すると。又聽感さ

耳部 十二畫以上

聽納 チヤウナク きこひること。

聽講 チヤウコウ 講義をきくこと。

聽器 チヤウキ 聽覺をつかさどる器官。又聽官といふ。

聽衆 チヤウシュウ 演説又は説教などをきく人。堂に滿つ。「と」。

聽許 チヤウヨ ゆるすこと。聞き入る

聽聞 チヤウモン きくこと。注意してきくこと。耳をそばだててきくこと。

聽獄 チヤウグク 訴へをきくこと。

聽診器 チヤウシンキ 心臟の鼓動の緩急を聽き試むる器械。

聽神經 チヤウシナイ (生) 耳より大膽に通じて聽覺をつかさどる神經。

聽容法 チヤウヨウホウ (法) 其法律に準據すべき行為を爲すと爲さざるとは人民の隨意なる法律。強行法の對。

聾 ロウ。くらし。

聾者 ロウシヤ 耳の聞えぬ人。つん

聿部

聿 ば。又聿子といふ。「ば。聿聿」耳の聞えぬも。つん聿に同じ。

聿部

聿

イツ。イチ。つひにのぶる。より。ことば。したがふ。ふで。これ。

聿

テウ。ひらく。はじめ。はかる。イ。ならふ。いたはる。わ

聿

かばえ。えだ。あまり。のこり。ひこばえ。シユク。ソク。つつしむ。

聿

きびし。おごそか。なまむる。いましむ。すみやか。おそる。とぶ。すすむ。はやし。しほむ。やはらげるこふ。

聿部

肅然 シラシラ つつしみたる貌。おこそかなる貌。しめやかなる貌。いかめしき貌。又肅々といふ。

肅拜 シラハイ つつしみがむと。うやくしく拜すると。敬意を表する爲に書狀の末尾に書く語。「徳ある」と。

肅德 シラトク うやくしくして始めにかく語。又肅白といふ。

肅敬 シラケイ つつしみ敬ふと。肅静 シラジヤウ しづかなるも。

肅殺 シラサツ 甚しく嚴重なるも。シ。シツ。イ。チャク。つらぬる。ゆるふす。はな

つ。ほしいま。うづくまる。つひに。はかる。いぢら。さらす。かるがゆえに。いま。つく。きはむ。

肆筆 シツペン 筆で執るこ。

聿部

肆筵 シシヤン むしろをつらぬるも。肆店 シシテン みせ。たな。商店。又肆塵に作る。

肆陳 シシチン 列ね並べるも。肆志 シシシ わがままの心。きまま。又肆心といふ。

肆逸 シシイ かりはなし。放肆。又肆放。肆縱といふ。

肆侈 シシシ 贅澤なるも。肆直 シシジク 正しきと。

肆域 シシキ 正しきと。テウ。ひらく。はじめ。はかる。ただし。ただす。さし。うつ。

肇域 テウキ さいかひを開くと。肇末 テウマツ 始めと末と。肇始 テウシ はじめ。はじまり。肇基 テウキ はじめ。おこす。肇歳 テウサイ 一年のはじめ。肇敏 テウミン 考へあつて敏活なるこ。

肉部

肉部

肉

シク。ニク。ジウ。にく。しし。しむら。うるはし。みつる。こゆ。筋と共に動物體の筋肉を形成し皮膚に蔽はれて骨髄を包みたる柔軟質のもの。あつみ。印肉。にくあひ。

肉刑 ニクケイ 身體の一部を毀傷する刑罰。いれすみ。み。きり等の類。「菓子」。

肉包 ニクハウ 肉を油あげにしたる肉池 ニクチ 印肉を入れおく器。

肉袒 ニクタン 肌をぬぎ肉を露はすこ。ニクニシ 身體。肉體。

肉部

肉月 ニクツキ 漢字の偏の名。即ち肌・肛などの字の左方にある月の字の稱。

肉柱 ニクチュウ 貝のはしら。肉障 ニクシャウ 多くの美人など周囲にならべ立たすと。又肉陣。肉屏風などいふ。

肉瘤 ニクリウ 身體に生ずるこぶ。肉交 ニクカウ 男女の交合。肉味 ニクイ 肉のあじ。

肉桂 ニクケイ (植)樟科に屬する喬木。葉は革質にして三大脈を有し常緑なり根皮は辛味を帯べる甘味を有し藥用に供せらる。

肉笛 ニクフエ くりぶえ。肉林 ニクリン 大宴會などの酒の肴の澤山あるこ。「筆跡」。

肉冠 ニククワン 其人の眞實書きたる肉筆 ニクヒツ 肉のきればし。肉片 ニクヘン 肉のきれはし。

肉餅 ニクヘイ かまぼこ。又は鯛せんべいの如きもの。

肉部

肉感 ニクカン 身體の感覺。肉漿 ニクシヤウ し。びしほ。肉羹 ニクリウ 鳥獸の肉を入れたるあつもの。

肉塊 ニククワイ 肉のきれ。にくのかたまり。人類の身體の賤稱。肉眼 ニクガン 機械力を借らず人間自然の儘の視力を備へたる眼。

肉縁 ニクエン 肉身のつづきあひ。肉精 ニクセイ 肉の生味。エキスのこ。

肉薄 ニクハク 近く攻め寄ると。肉界 ニクカイ 身體及び身體の作用肉體 ニクタイ からだ。「の範圍」。

肉食 ニクシヨク 肉を食ふと。美食して貧苦を知らぬもの。肉情 ニクジヨク 男女間の情慾。

肉慾 ニクヨク 男女の情慾。色慾。肉肆 ニクシ 肉類を商ふ家。又肉店といふ。「ある人」。

肉親 ニクシン 實の親。血族の關係肉食徒 ニクシヨクト 常に肉食する

肉部 二二三畫

肉食類 ニラシヨタル非(動)動物性のものを食とする哺乳動物、爪銳利にして感覺鋭く行動敏捷なり。「る獸類」

肉食獸 ニラシヨタル 肉食類に屬す肉體的 ニクタイニキ 肉體に關するにいふ語。

肉蒲團 ニラフシ 同衾する女を賤しめていふ語。

肉豆蔻 ニラク (植) 熱帶地方に産し葉は桃の如く花は薔薇に似て雌雄異稱なり。「義」

肉山肺林 ニラシヨタル 飽食するのシク。ニク。肉に同じ。

肌 肌理 キ。はだへ。しし。すがた。みつる。肌臟 マウ。はだのあぶら肉。

肉部 二二三畫

肋 ロク。わきぼね。あばらぼね。

肋骨 ロクボウ (生) 胸の兩側に列べる十二對の骨。あばらぼね。陸軍の軍服の上衣の前面にあばらぼねの状を爲す飾り。

肋膜炎 ロクマチン 肋膜に發する熱にして寒胃又は外傷若くは傳染病等より發す。

肋軟骨 ロクナンコウ 肋骨の前端と胸骨を連絡する骨の名。

肋間筋 ロクカンシ 胸腔の周邊を造れる内外二層の筋にて肋骨を上下に動かすもの。

肝 肝木 カシバ (植) 忍冬科に屬し鋸

肝 肝木 カシバ (植) 忍冬科に屬し鋸

肉部 二二三畫

齒狀の葉を有し初夏五瓣の小白花を開く、材は香ばしく楊子に作らる。

肝臟 カシバ (生) 腹腔の右上側横隔膜の下際にある赤褐色の消化腺、胃の消化に必要な液を製する機關。

肝肺 カシバ 肝臟と肺臟と。まごゝろ。「なめ」

肝要 カシバ かんじんなること。か

肝魂 カシバ 肝もたま。

肝腦 カシバ 肝と腦と。まごゝろ。地に塗る。

肝心 カシバ 肝要又は必要なること。肝膽 カシバ 肝もたま。心もたま。相照らす。

肝油 カシバ 鱈の肝臟より取りたる黄色透明の脂肪油。

肝膽寒 カシバ 肝もたま。おそれてぞつとす。おそれないたく。

肝膽相照 カシバ 肝もたま。互に心のおくそこなうちあけて親しく

肉部 二二三畫

肝腦塗地 カシバニマシル 慘殺せられて肢體の全からざること。失敗して死ぬること。又は甚しき窮境に陥りたること。にいふ。

肝腦塗地 カシバニマシル 慘殺せられて肢體の全からざること。失敗して死ぬること。又は甚しき窮境に陥りたること。にいふ。

肝腦塗地 カシバニマシル 慘殺せられて肢體の全からざること。失敗して死ぬること。又は甚しき窮境に陥りたること。にいふ。

肝腦塗地 カシバニマシル 慘殺せられて肢體の全からざること。失敗して死ぬること。又は甚しき窮境に陥りたること。にいふ。

肝腦塗地 カシバニマシル 慘殺せられて肢體の全からざること。失敗して死ぬること。又は甚しき窮境に陥りたること。にいふ。

肝腦塗地 カシバニマシル 慘殺せられて肢體の全からざること。失敗して死ぬること。又は甚しき窮境に陥りたること。にいふ。

肉部 四畫

背似 セウジ 似たること。クワウ。ワウ。心の上隔の下。

背 背似 セウジ 似たること。クワウ。ワウ。心の上隔の下。

背 背似 セウジ 似たること。クワウ。ワウ。心の上隔の下。

背 背似 セウジ 似たること。クワウ。ワウ。心の上隔の下。

背 背似 セウジ 似たること。クワウ。ワウ。心の上隔の下。

背 背似 セウジ 似たること。クワウ。ワウ。心の上隔の下。

肉部 四畫

肩 肩輿 ケンヨ 肩で擔ぐ輿のこと。清韓地方で用ゆるもの。

肩 肩輿 ケンヨ 肩で擔ぐ輿のこと。清韓地方で用ゆるもの。

肩 肩輿 ケンヨ 肩で擔ぐ輿のこと。清韓地方で用ゆるもの。

肩 肩輿 ケンヨ 肩で擔ぐ輿のこと。清韓地方で用ゆるもの。

肩 肩輿 ケンヨ 肩で擔ぐ輿のこと。清韓地方で用ゆるもの。

肩 肩輿 ケンヨ 肩で擔ぐ輿のこと。清韓地方で用ゆるもの。

肉部 四畫

佐の臣。

肴

カウ。ケウ。さかな。くらふ。イク。ヨク。ひととなる。やしなふ。なづる。そだつる。うまる。はぐくむ。

育

育嬰 イチ 幼兒を育てること。育種 イチ 種となるべきものを育てること。馬匹の一。育英 イチ 優れた才あるものを教育すること。人を教育すること。育兒 イチ 小兒を養育すること。育撫 イチ 育ててやしなふこと。育鞠 イチ 鞠育に同じ。養ふこと。育兒院 イチ 人の小兒又は孤兒若くは捨て兒などを養ひて教育するところ。

肱

ヒヂ。コウ。ひぢと背の骨との義

肉部 四畫

にて最もたのみとすべきものにいふ語。

肫

ジュン。トン。とりのきも。まこ。あつし。あぶら。つらばね。ハウ。あぶら。こも。ヒ。こ。え。こ。え。こ。え。た。り。ゆ。た。か。さ。り。の。な。へ。び。の。な。さ。か。ん。な。り。

肪

ヒ。こ。え。こ。え。こ。え。た。り。ゆ。た。か。さ。り。の。な。へ。び。の。な。さ。か。ん。な。り。

肥

ヒ。こ。え。こ。え。こ。え。た。り。ゆ。た。か。さ。り。の。な。へ。び。の。な。さ。か。ん。な。り。

肥

ヒ。こ。え。こ。え。こ。え。た。り。ゆ。た。か。さ。り。の。な。へ。び。の。な。さ。か。ん。な。り。

肥

ヒ。こ。え。こ。え。こ。え。た。り。ゆ。た。か。さ。り。の。な。へ。び。の。な。さ。か。ん。な。り。

肥

ヒ。こ。え。こ。え。こ。え。た。り。ゆ。た。か。さ。り。の。な。へ。び。の。な。さ。か。ん。な。り。

肉部 五畫

肥壯 ヒキウ 肥えてさかんなること。肥強 ヒキウ 肥えてつよきこと。肥沃 ヒキウ 地味よく肥えて作物のみのること。「に選る」こと。肥遜 ヒキウ 心ゆたかに山中など肥膩 ヒキウ 肥えること。肥料商 ヒキウ 肥料を商ふこと。フウ。ハイ。フ。はらむ。みもち。シ。て。あし。えだはぎ。

肢

シ。て。あし。えだはぎ。

肢

シ。て。あし。えだはぎ。

肢

シ。て。あし。えだはぎ。

肢

シ。て。あし。えだはぎ。

肢

シ。て。あし。えだはぎ。

肢

シ。て。あし。えだはぎ。

五

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

胡

コ。なんぞ。の。ご。く。び。え。び。す。い。の。ち。な。が。し。ほ。この。え。だ。た。る。さ。ほ。し。わ。ら。ふ。あ。この。た。れ。に。く。

肉部 五畫

胡瓶

コイ 禁中にて節會の時据え飾る酒瓶。

胡壽

コシ 壽命の長きこと。

胡亂

ワラン あやしく疑はしきこと。合點のゆかぬこと。

胡笳

カ 支那胡人の吹く笛。一種の悲哀なる音を發すといふ。

胡瓜

キリ (植) 蔓莖にして冬瓜に似たる葉を有し黄色の合瓣花を開く果實は細長くして刺を有し熟すれば黄色を呈す。

胡爲

コト 何の爲めに。なすれど。いかんぞ。

胡越

コト 情の疎遠なること。胡と越とは地遠きより起りし語。北方と南方と。「具。やなぐひ。

胡籊

コト 矢を盛りに背に負ふ。コト 大なる幸ひ。

胡蝶

コト (動) 鱗翅類に屬する昆蟲。觸角は棍棒状にして翅は廣く物に止まるさきは之を上

方

方に合して垂直とす。

胡盧

コト 笑ふこと。大に笑ふこと。

胡坐

コト 笑ふこと。大に笑ふこと。

胡服

コト 及びすの人の着る衣。胡麻 (植) 長楕圓形の葉と白色の花冠を有し種子は多量の油を含み食料又は油を搾る。

胡床

コト 夢見又はほかに物事にいふ語。物と我れとの差別なき境涯にいふ語。

胡蝶夢

コト 夢見又はほかに物事にいふ語。物と我れとの差別なき境涯にいふ語。

胎服

コト 及びすの人の着る衣。胡麻 (植) 長楕圓形の葉と白色の花冠を有し種子は多量の油を含み食料又は油を搾る。

胎生

コト 母體中に於て既に自己の體形を保ち生れ出づるも胎兒 胎兒 胎兒の蒙りぬる皮。胞衣。

胎衣

コト 胎兒の蒙りぬる皮。胞衣。

肉部 五畫

肺

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肺

コト 肺の病氣。

肉部 五畫

肺臟 ハイザウ 五臟の一、肋骨の内
部に圍まれ左右に一箇づつあ
る呼吸機關。

肺癰 ハイヤウ 肺に腫物の發する病
肺肝 ハイカン 肺臟と肝臟と。心の
奥そこ。至誠より出づ。

肺腑 ハイフ 肺臟。親戚の義。心の
そこ。言を衝く。

肺焮衝 ハイエンシュウ 肺に熱を發し
て痛む病。肺炎。

肺靜脈 ハイセイマキク 左右の肺を
出でて左心耳に至る靜脈。

肺循環 ハイエンクワン 血液の心臓
を出でて肺臟に入り又出でて
心臓に歸る作用。

肺結核 ハイケツカク 結核性なる肺
の病氣、俗に肺勞といふ。

肺動脈 ハイドウマキク 右心室より肺
に至る動脈。

【疔】 シヨ。ソ。かにのしほか
ら。かにびしほ。みな。あ
ひたすく。こてふ。たく

肉部 五畫

胥樂 シヨラ 共に楽しむと。
胥和 シヨラ 共に睦むと。「の快
コク。はら。

胤裔 イン つぐ。ちすぢ。のぶ
る。たれ。ならふ。まが
る。うく。「子孫。

胞衣 ハウ 胎内にありて兒を包
める膜にして兒の生るるさき
共に出づるもの。えな。

胞子 ハウシ (植) 花粉の如き細粉
子囊内に含まれ地に落ちて蕃
殖す。(動) 原生動物の個體の分
れてなりたる小體。

【胖】 ハン。パン。かたみ。おほ
いなり。ゆたかなり。せ
じし。

肉部 五畫

胚 ハイ はじめ。もさ。はら
む。みもち。(植) 種子の
内部にありて二枚の厚
き子葉を具ふるもの。
(動) 卵の黄色なる部分
の上面にありて俗に眼
と稱せらるるもの。

胚胎 ハイタイ みこもると。子をや
どすと。きざすと。めざすと。物
のはじめ。

胚孔 ハイコウ 卵の發生する際に生
ずる孔。後に至り肛門又は口と
なる。「莖。

胚軸 ハイタク 種子内にある幼芽の
胚乳 ハイニョ (植) 植物の種子の
腔を包める白色の物質。

胚盤 ハイバン (動) 卵の胚の稱。

胚珠 ハイシュ (植) 子房内に含まれ
生長して種子となるもの。

胚球 ハイキウ 卵の發生の際に生ず
る多數の細胞より成れる球狀
のもの。

肉部 五畫

胚囊 ハイナウ 卵の發生の際に生ず
る二重の囊狀をなせるもの。
胚孕 ハイヨウ 子をやどすと。はら
むと。

【昨】 ソ。サク。ひもろぎ。さい
はひ。くらゐ。むくふる。
たまもの。
ハイ。へ。せなか。う
ろ。そむく。たがふ。うし
るむく。

【背】 ハイゴウ うしろ。せな。
背後 ハイゴウ 背後に進行する
背進 ハイシン 背後に進行する
しりぞくと。

背教 ハイキウ 教へにそむくと。
背景 ハイキ 背後の光景。舞臺の
後壁に描きたる景色。

背囊 ハイナウ 獸皮にてつくりたる
小きき箱。

背面 ハイメン 後ろむき。背中。うし
背向 ハイカウ せなかあはせ。
背部 ハイブ うしろ。せなか。
背馳 ハイチ 反對すると。ゆきちが

肉部 五畫

背理 ハイリ 道理に背くと。「と。
背戾 ハイレイ 道に背くと。もさる
背叛 ハイパン そむくと。
背約 ハイヤク 約束に背くと。
背盟 ハイメイ 盟ひに背くと。
背汗 ハイカン 餘りはづかしくて背
に汗の流るると。いとばづかし
きと。淋瀝。

背讀 ハイダク 暗誦。そらよみ。
背日性 ハイジテイ (植) 植物の根
の益々日光を避くる方へ向ひ
生長する性。

背地性 ハイヂテイ (植) 草木の莖の
地面より上方に向ひ生長する
性質。

背水陣 ハイスイジン 水を後方にし
て陣すると。死を決し全力を盡
して成敗を試みんとする態度
の稱。

【抵】 テイ。タイ。ひび。あかが
り。かはあかし。

肉部 五畫

【胆】 タン。
はだめぐ。
チウ。チュ。ずふ。たれ。
つり。つづき。つぐ。の
ち。かしら。おととり。

【胃】 イ。
胃竇 イサウ 子孫の末。末孫の
胃子 イシ 長男。あととり。家督
相繼人。
井。ぬぶくる。消化器の
首要部にして高き動物
にありては筋肉の膨大
せる大囊をなす。くりわ
たぶくる。

胃腺 イセン 胃内部に開口せる無
数の細孔にして胃液を分泌す。
胃痛 イツン 胃のいたむと。
胃弱 イジャク 胃の消化力の衰弱す
る病。

胃癌 イガン 胃の中に癌腫を發し
て疼痛を起し上腹部に硬き塊
を生じ飲食し能はざる病氣。
胃脘 イワン 胃のふ。

肉部 六畫

胃液 イエキ (生)透明無色の液、遊離鹽酸及胃液素を含み専ら食物の消化を助く。

胃瘰癧 イソリン 瘰癧のさしこみ。

胃結核 イソツタ 胃の中に黴菌の生ずる病。

胃加答兒 イカタル 溜飲又は食滯等の總稱。

〔胛〕

シ。しほれ。ほじし。



〔脊〕

セキ。シヤク。せなか。せぼね。ことほり。にはたき。 「骨」

脊骨 セキコツ (動)脊柱を組織する

脊梁 セキヤウ せぼね。せすぢ。

脊柱 セキチウ 頭骨を戴ける三十餘箇の相重なれる骨片よりなるもの。

脊髓 セキスヅ 脊椎骨の後方の突起せる部分中において腦に聯絡せるもの。

肉部 六畫

脊神經中樞。

脊椎骨 セキズボウ (動)相連りて脊柱を爲す骨。

脊椎動物 セキズドウブツ (動)身體の背面の中央に近く脊柱と稱する軟骨若くは硬骨の中軸を有する動物の總稱。

脊髓神經 セキスヅシナイ 脊髓より支出して軀幹四肢の各所に分布する運動神經及知覺神經の稱。

脈管 イタクワン 血液の循環の管。脈絡 イタクラク 身體中の筋脈の如くつらなること。ツキ。

〔脈〕

バク。ミヤク。ちすぢ。すぢ。動物の體中にて血液の運行するくだ。すべてもの通りて系統をなすもの。岩石の割目をみたせる鑛物質。

脈脈 イタクイタク 絶えず感ぜらるるさまにいふ語。

脈管 イタクワン 血液の循環の管。

脈絡 イタクラク 身體中の筋脈の如くつらなること。ツキ。

肉部 六畫

脈搏 イタクハク 心臓の鼓動につれて脈の動くこと。

脈血 イタクケツ 脈の原動たる血。

脈翅類 イタクシユルイ (動)昆蟲類の一目、四翅の大き略ぼ同じく脈質透明にして翅脈網状を爲せるもの。

脅 ケフ。ケウ。わきのした。わき。おびやかす。をさむ。さだまる。

〔脅〕

脅迫 ケウハク おびやかすこと。(法)畏怖せしむる目的を以て人に不法の害悪を加ふることを示す行爲。

脅従 ケウジウ 威されて従ふこと。おびやかして従ふしむること。

脅迫罪 ケウハクザイ (法)人を脅迫せしむる犯罪。

〔脂〕

シ。あぶら。べに。

脂燭 シヨウ 松木の細きもの又は紙捻に油をぬりて火を點する

肉部 六畫

もの。

脂肪 シヨウ (化)脂肪酸のケリセル。エステルを主成分とし其の他の酸のエステルをも含み且つ通常温度に於て固體なるもの。動物の體中にあぶらの沈着せる部分。

脂肪腺 シヨウセン (生)皮膚の内部において常に脂肪を分泌し表皮毛を滑にする部分。

脂肪 シヨウ 肉にあぶら多き部分。

脂肪膏 シヨウカウ あぶら。油膏藥。

脂肪粉 シヨウコン べにと白粉と。①の

脂肪牽 シヨウケン 車に指す油。「粧ひ」。

脂肪腺 シヨウセン (生)生物の體中にて常に脂肪を分泌し之によりて毛に光澤を添へ皮膚を滑らかならしむるもの。

脂肪層 シヨウウツウ (動)或種の動物の眞皮の下にありて脂肪より成れる層。

脂肪酸 シヨウサン $C_nH_{2n}O_2$ の分子

式を有する一鹽基酸をいふ。

脂肪質 シヨウシツ その成分が脂肪より成れる物質。脂肪の多き性質。

〔裁〕

シ。きりにく。ししむら。おほざれしし。ドウ。ノウ。わざ。たくみ。よし。やすんず。たゆむ。こらへる。しのぶ。よく。あたふ。のう。謡曲にあはせて演ずる舞樂の

名。 「人」。

能士 ノウシ 才能多き人。役に立つ

能者 ノウシャ 能ある人。よく物事のできる人。

能文 ノウブン 巧に文書を作ること。

能才 ノウサイ 事を爲すに堪ふる才能才

能材 ノウサイ 技術あること。

能事 ノウジ 爲すだけの仕事。出来る丈けの事。①終れり。

能力 ノウリキョウ 或行爲に堪え得べしと認むべき身體精神の力量。

肉部 六畫

能幹 ノウカン 事に當て能く成し遂ぐる才。 「舞樂」。

能樂 ノウガク 謡曲に合せて演ずる

能書 ノウガキ 樂のききあを書きたるもの。吹聴する言。

能書 ノウショ 字を書く事に巧なる人。又能筆といふ。

能動 ノウドウ 自己が他に對してばたらきを仕掛くること。

能吏 ノウリ 能く事務を處理する官吏。官人。

能否 ノウヒ 能力あると否と。

能化 ノウカ 能く人を教へ導くこと。師僧の稱。

能辯 ノウベン 辯舌の達者なること。

能力者 ノウリキョウシャ (法)法律上能力を有するもの。

能力説 ノウリキョウセツ (心)意識の作用に能力といふ實體が意識内にありて之を替むといふ説。

能狂言 ノウキヤウゲン のうにて行ふ狂言。能樂と狂言と。

肉部 六畫

肉部 六畫

肉部 六畫

胸

キヨウ。ク。むね。

胸臆 キヨウオク ぼらのうち。むね。心。物おぼえ。

胸膈 キヨウカク 胸と腹との間。むね。胸次 キヨウジ むねの中。おもひ。

胸襟 キヨウキン 心の中。又胸懐。胸襟 キヨウキン 心を披く。

胸骨 キヨウコツ 胸の中央前面に位置する骨にして肋軟骨により肋骨と連る。

胸壁 キヨウヘキ 胸の高き程に築き肋骨に同じ。

胸膜 キヨウマク 肋骨に同じ。

胸腔 キヨウカウ 肋骨に圍まれたる胸の内部。

胸算 キヨウサン むねざん。胸甲類 キヨウカウルキ (動物) 甲殻類の頭部と胸部を相合して頭胸部を爲し概し甲を被むるもの。蟹の如き類。

胷 キヨウ。むね。胸に同じ。

肉部 六畫

胴

トウ。ツ。なほし。ごう。すなほ。かたち。

胴築 ドウキツ 礎の下なごを築き固むる。地形づき。

胴着 ドウキ 上着と肌着との間に着る短き衣。

胴亂 ドウラン 革にて製したる方形の慾。怒のふかき。食る心のはなはだしき。むごき。胴卷 ドウマキ 金銭等を入れて腹に巻き着くる細長き袋。

胷 クワウ。ひび。かばあつし。ケフ。わき。おびやかす。胷に同じ。

胷 ヒン。ケフ。わき。おびやかす。胷に同じ。

脇息 クワク 體をよせ臂をかけてもたれかかる具。

脇士 クワシ わきたち。佛の左右につきしたがへる佛。

脇從 クワジウ 心をまげて従ふ。

肉部 七畫

脛

サ。くだく。こまか。ちひさし。シン。ジン。くちびる。くち。

脛脛 ケイケイ 眞直なる貌。

脛骨 ケイコツ 脛部の内側に位し上端大腿骨に下端跗骨に連れる

脛布 ケイフ きやはん。骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

脛胷 ケイコク 骨片。タツ。ダチ。タイ。はなる。とく。はづす。ぬぐ。

肉部 七畫

脱失 タクシツ ぬけうせると。

脱句 タクク ぬけおちたる文句。

脱走 タクソウ 脱け出で走り去ると。仲間よりぬけさると。

脱化 タクカ ぬけて形をかふる。帯刀をぬくと。

脱刀 タクタウ 船をぬけ出づると。

脱船 タクセン 船をぬけ出づると。

脱肛 タクカウ 肛門の内部の筋肉が外部に脱出する痔疾。

脱取 タクシュ ぬきとると。

脱去 タクキ ぬきとると。

脱殻 タクカク もぬけのから。

脱字 タクジ 文字の脱けてぬると。

脱衣 タクイ 着物をぬぐと。

脱苦 タクク 苦みを脱けると。

脱免 タクマン 免の逃けると。早きこの形容。初めは處女の如く終りは一の如し。

脱俗 タクソク 社會風潮の外に立つと。世俗の習氣をばなれたると。

脱胎 タクタイ 流産すると。胎兒の死して生れいづると。

脱退 タクタイ やめて退くと。組合をす。

脱席 タクセキ 其場所を外すと。

脱除 タクヂウ 手足の端末血液の循環絶えて腐れおつる病氣。

肉部 七畫

脱營 タクエイ 營所をぬけ出ると。

脱路 タクロ ぬけみち。にげみち。

脱艦 タクカン 軍艦をぬけ出でてにぐる。

脱離 タクリ ぬけはなる。

脱酸 タクサン (化) 一の化合物中にある酸素の一部若くは全部を化學的變化によりて脱取する。

脱胎 タクタイ 流産すると。胎兒の死して生れいづると。

脱退 タクタイ やめて退くと。組合をす。

脱席 タクセキ 其場所を外すと。

脱除 タクヂウ 手足の端末血液の循環絶えて腐れおつる病氣。

脱税 タクゼキ 納税の資格あるものが税金の賦課を免る。

脱皮 タクヒ 爬虫類・節足動物などの成長期に於て皮膚を脱する。

脱營 タクエイ 營所をぬけ出ると。

脱路 タクロ ぬけみち。にげみち。

脱艦 タクカン 軍艦をぬけ出でてにぐる。

脱離 タクリ ぬけはなる。

脱酸 タクサン (化) 一の化合物中にある酸素の一部若くは全部を化學的變化によりて脱取する。

脱胎 タクタイ 流産すると。胎兒の死して生れいづると。

脱退 タクタイ やめて退くと。組合をす。

脱席 タクセキ 其場所を外すと。

肉部 七畫

脱劍 タクケン 帶劍をさきはなすと。

脱屣 タクシ 帝王の位を讓るにいと。かも惜みたまはぬと。

脱略 タクラク のぞきはぶくこと。手ぬかりのこと。

脱線 タクセン 電車などの線路を外れること。軌道以外に出づると。

脱誤 タクゴ 印刷物などの處々字の脱けて誤りあること。

脱監 タクカン 刑やぶりの監獄をぬけ出ると又脱獄といふ。

脱遺 タクイ 忘れ落すと。遺失。

脱籍 タクセキ 籍をぬくと。

脱黨 タクタク 黨を去ると。

脱粟飯 タクソクハン 僅かにもみを去りたるばかりの粗飯。

脱兎勢 タクトイセ 極めて迅速に進むさまにいふ語。

脱稅者 タクゼキ 脱稅したる人。